

豈に宗趣を知らんや。祖曰く、「汝試に吾が爲に念すること一徧せよ、吾れ當に汝が爲に解説すべし。」師即ち高聲に經を念じて、方便品に至る。祖曰く、「止みね、此の經、元來因縁出世を以て宗と爲す、縦ひ多種の譬喩を説くとも、亦此れに越ゆることなし。何となれば因縁は唯だ一大事なり、一大事とは即ち佛知見なり。汝慎んで錯つて經意を解して、他の開示悟入と道ふを見て、自らは佛の知見なり、我が輩分無しとすること勿れ。若し此の解を作さば、乃ち是れ經を誘ひ佛を毀るなり。彼既に是れ佛なり、已に知見を具す、何ぞ更に開くことを用ひん。汝今當に信すべし、佛知見といふは只だ汝が自心なり、更に別體なし。蓋し一切衆生、自ら光明を蔽ひ、塵境を貪愛して、外に縁し内に擾れて、驅馳するを甘受するが爲に、便ち他を勞して三昧より起つて、種種に苦口に勤めて寢息せしむ。外に向つて求むること莫れ、佛と無二なり。故に云く、佛知見を開けと。故に但だ勞々として執念して、謂つて功課と爲さば、何ぞ犂牛の尾を愛するに異ならん。師曰く、「若し然らば、但だ義を解することを得ば、經を誦するに勞せざらんや。」祖曰く、「經に何の過有つてか、豈に汝が念するを障へんや。只だ迷悟は人に在り、損益汝に由るが爲なり。吾が偈を聴け、曰く、「心迷へば法華に轉せらる、心悟れば法華を轉す。誦すること久しうして己を明めざれば、義と釋家を作す。無念の念は即ち正なり、

①塵境。眼耳鼻舌身意の對境となる色聲香味觸法の六は、人の心性を汚し昏ます。故に塵と云ふ。

②故。一本には「汝」に作る。

③犂牛。牛の一種、黒色なり、支那西南の嶺外に出づと、其の尾は旌旆に作るべし。

有念の念は邪となる。有無俱に計らざれば、長く白牛車に御す」と。師偈を聞いて再び啓して曰く、「經に云く、諸大聲聞乃至菩薩、皆思を盡して度量するとも、尙ほ佛智を測ること能はず。今凡夫をして但だ自信を悟らしむるを、便ち佛の知見と名く。上根に非ざるよりは、未だ疑謗を免れず。」又經に三車を説く、大牛の車と白牛車と如何が區別せん。願はくは和尙再び宣説を垂れたまへ。祖曰く、「經の意分明なり、汝自ら迷背せり。諸の三乗の人、佛智を測ること能はざるものは、患度量にあり、饒ひ伊思を盡して共に推すとも、轉た懸遠することを加へん。佛本凡夫の爲に説く、佛の爲に説かず。此の理若し肯信せずんば、他の席を退くに從す。殊に知らず、白牛車に坐却して、更に門外に於て三車を覓むることを。況んや經文明かに汝に向つて道ふ、二無く亦三無しと。汝何ぞ三車は是れ假り、昔時の爲の故に、一乘は是れ實なり、今時の爲の故にと云ふことを省めざる。只だ汝をして假を去つて實に歸せしむ、實に歸して後は實も亦名なし。應に知るべし、有ゆる珍財盡く汝に屬することを。汝が受け用ふるに由る、更に父の想をも作さず、亦子の想をも作さず、亦用の想も無し、是れを法華經を持すと名く。劫より劫に

④白牛車。法華經譬喩品に出づ、他の三車即ち羊車、鹿車、牛車を聲聞乘、緣覺乘、菩薩乘に比するに對し、白牛車は佛乘に比す。御は乘るなり。

⑤牛車と白牛車。此の二車の同異に就いては古來議論多し。嘉祥、慈恩等は同一と見る、之を三車家と云ふ。賢首、智者等は別と見る、之を四車家と稱す。

⑥父想子想。法華經信解品にあり、長者の子、幼にして家を出て、其の後大いに困窮す、多年の後、長者之を尋ね得て家に連れ歸りしも、其の子は長者の居宅財寶の廣大なるに

至るまで手に巻を釋てず、晝より夜に至るまで念せずといふ時無けん。師既に啓發を蒙つて、踊躍歡喜して、偈を以て贊して曰く、「經を誦すること三千部、曹溪の一句に亡す、未だ出世の旨を明めず、寧ろ累生の狂を歇めんや。羊鹿牛權に設く、初中後善揚ぐ、誰か知らん火宅の内、元是れ法中の王なることを。」祖曰く、「汝今より後、方に名けて念經僧と爲す可し。」師此れより玄旨を領じて、亦誦持をも輟めず。

楊岐八棒

臨濟四喝

〔黃檗法嗣〕

臨濟、僧に謂つて曰く、「有る時の一喝は、金剛王

寶劍の如く、有る時の一喝は、踞地師子の如く、有る時の一喝は、探竿影草の如く、有る時の一喝は、一喝の用を作さず。汝作麼生か會する。僧擬議す。師便ち喝す。

匾頭被罵〔會元十七〕

黃龍の慧南禪師、叢林目けて南匾頭と曰ふ。因に

趨つて慈明の室に詣つて曰く、「惠南、聞短なるを以て、道を望んで未だ見ず。此のころ夜參を聞くに、迷行に指南の車を得たるが如し、然も唯だ大慈、更に法施を施して餘疑を盡さしめよ。」慈明笑つて曰く、

驚き恐れて逃げ去らんとす。長者乃ち方便を設け、彼を奴僕として漸次に登用して後、其の己が貨子たることを明かし、財寶一切を擧げて之に與ふと。窮子は二乘聲聞の人に喩へ、財寶を大乗の教法に喩へたるなり。

①劫。一本には「卻」に誤る。

②羊鹿牛。羊車、鹿車、牛車の略。

③探竿影草。賊の用ふる道具、竿の先に人形をつけて先づ門内に入れて、家人の動靜を窺ふに用ふと、其の他異解あれども、何れも他を探るの意たるは同じ。

④慈明。臨濟下の石霜楚圓なり。

⑤指南車。方角を指すもの、支那の黃帝之を始む、黃帝蚩尤と戦ふ、蚩尤、大霧を起して四方を迷はす、帝此に於て指

「書記已に徒を領じて游方す、名叢林に聞ゆ。借使ひ疑ありとも哀

陋を以て鄙棄せし、坐ながら商略せば顧みるに不可ならんや。」侍者を呼び榻を進め、且く坐せしむ。師、固辭して哀懇愈切なり。慈明の曰く、「書記、雲門の禪を學す、必ず其の旨を善くせん。洞山三頓の棒を放

すと曰ふが如きんば、洞山時に應に打つべきか應に打つべからざるか。」師云く、「應に打つべし。」慈明色を莊にして言く、「三頓の棒の聲を聞いて、便ち是れ棒を喫せば、即ち汝旦より暮に及ぶまで、鷄鳴鶴噪、鐘魚

鼓板の聲を聞いて、亦棒を喫すべし、何れの時か當に已むべけんや。」師瞭して却く。慈明の云く、「吾れ始め疑ふ、汝が師に堪へすと、今は可なり。」即ち拜せしむ。師、拜して起く。慈明前話を理して曰く、「脱し汝が

雲門の意旨を會するが如きんば、則ち趙州嘗て言ふ、臺山の婆子、我れに勘破せらると。試に其の勘すべき處を指せ。」師面熱し汗下つて、答

ふることを知らず、趨り出づ。明日之に詣る。又詭罵に遭ふ。師左右を慙ぢ見て、即ち曰く、「政に未だ解せざるを以て決を求むる耳、罵ること豈に慈悲法施の式ならんや。」慈明笑つて曰く、「是れ罵なるや。」師是に於て黙して其の旨を悟る。失聲して曰く、「勸潭、果して是れ死語なり。」語を獻じ

南車を作ると。

②法施。施に法施と財施の二あり。

③書記。記録の事を司る僧役の名。黃龍の慈明に見聞に先だち、福嚴に於て書記となる、故に斯く呼ぶ。

④使。一本には此の字を脱す。

⑤洞山。洞山守初禪師は雲門に嗣ぐ。

⑥放す。罪あつて罰せざるを放すと云ふ。

⑦莊。一本には「莊」に作る。

⑧勸潭。雲門下の人なり、黃龍初め此の人に參じて、其の印證を受け徒を領じて游方す。

て曰く、「叢林に傑出す是れ趙州、老婆勘破す來由没し。而今四海鏡如りも消し、行人路の與に鑑を爲すこと莫れ」慈明手を以て没の字を點じて師を顧みる、師即ち有の字に易へて、心其の妙密なるに服す。留まること月餘にして辭し去る。

水潦遭踏〔傳燈八〕水潦和尚、馬祖に參じて、禮拜して起つて問を伸べんと欲す、祖、一踏に踏倒す。師忽然として大悟、起き來りて呵呵大笑して云く、「也太奇也太奇、百千三昧、無量の妙義、只だ一毫端上に向つて、根源を識得し去れり。」便ち禮拜す。

死心下火〔黃龍法嗣〕會元十七 寶覺禪師、將に入滅せんとす、門人黃太史庭堅に命じて、後事をまらしむ。茶毘の日、隣峯爲に乘炬す、火續かず。黃、師の得法の上首、死心新禪師を顧みて曰く、「此の老師、吾が兄を待つこと有り」新、喪を以て拒む、黃之を強ふ。新、炬を執りて衆を召して曰く、「是れ餘殃の累、我れに及ぶにあらず、彌天の罪過、誅を容れず。而今兩脚空に消り去る、牛と作らずんば、定んで驢と作らん。」火炬を以て一圓相を打して、曰く、「祇だ這裡に向つて屈を雪めよ」といつて、炬を擲てば、手に應じて燕ゆ。

自禪掛搭〔五祖演法嗣〕新州五祖の表自禪師、祖席を嗣ぐ。衲子四に至つて遇むべからず。師、侍者の門に榜して曰く、「東山に三句あり、若し人道ひ得ば掛搭せしめん」衲子皆披靡す。一日僧あり、坐具を携へ、徑に丈室に造りて、師に謂つて曰く、「某甲道ひ得ず、祇だ掛搭を要す。」師大いに喜び、維那を呼んで、明窓下に安排せしむ。

天然口啞〔石頭遷法嗣〕會元三 龐居士、一日丹霞の來るを見て、遂に語らず亦起たず。霞、手中の拂子を拈起す、士便ち鎌子を拈起す。霞の曰く、「只だ恁麼、別に更に有る在り。」士の曰く、「此の回、兄を見る前に似す。」霞の云く、「妨げず人の聲價を減することを。」士の曰く、「本來汝を折倒一上せんことを要す。」霞の曰く、「恁麼ならば則ち天然の口を啞却す。」士曰く、「汝本分を啞却して、猶ほ我れを累して啞却す。」霞乃ち拂子を擲却して去る。士の曰く、「然閑梨、然閑梨。」霞顧みず、士曰く、「唯だ啞を思ふのみにあらず、兼ねて亦讒を思ふ。」

大耳心通〔會元二〕唐の肅宗、南陽の慧忠國師に詔して、西天の大耳三藏の他心通を試験せしむ。師到る、三藏禮を作して、右邊に立つ。師問うて曰く、「汝、他心通を得たりや。」曰く、「不敢。」師曰く、「汝道へ、老僧只だ今何れの處にか在る。」曰く、「和尚は是れ一國の師、却つて西川に去つて

⑤與。一本には「以」に作る。

⑥也。太だ奇なり之意。

⑦下火。導師が炬を乘りて亡者の火葬の火を點すること、乘炬又之に同じ。

⑧黃太史庭堅。字は魯直、山谷と號す、宋代の名詩人なり。

⑨乘。一本には「廣」に作るも誤なり。

⑩死心の法系は、黃龍惠南、晦堂祖心(寶覺)死心悟新。

⑪定。一本には此の字の上「鏡」の字あり、衍字ならん。

⑫曰。一本には「日」の字なし、會元十七によつて補ふ。

⑬坐具。禮拜する時に敷く物。

⑭掛搭。修行のために僧堂に入るのこと。

⑮天然。丹霞の名なり。

⑯慧忠國師。六祖に嗣法す、唐の肅宗、代宗等之に參す。

⑰他心通。六神通の一、自由に他人の心中に思ふことを知る通力。

⑱右。一本には「左」に作るも、會元、僧禮みな右に作る、故に改む。

競渡を見る。又問ふ、「汝道へ、只だ今亦何れの處にか在る。」曰く、「天津橋上に、獼猴を弄するを看る。」又問ふ、「汝道へ、只だ今、響。」三歳罔然たり。師叱して曰く、「者の野狐精、他心通何れの處にか在る。」

文益 書字 「桂琛法嗣」。「會元六」昔一老宿ありて住庵す、門上に心字を書し、窓上に心字を書し、壁上に心字を書す。法眼云く、「門上に但だ門字を書し、窓上に但だ窓字を書し、壁上に但だ壁字を書せ。」玄覺云く、「門上門字を書するを要せず、窓上窓字を書するを要せず、壁上壁字を書するを要せず。何が故ぞ、字義炳然たればなり。」

曉聰栽松 「文殊應天真嗣」 洞山の曉聰禪師、手づから萬松を東嶺に植ゑて金剛般若經を誦す。山中の人、其の嶺を名けて金剛と曰ふ。松を植ゑるに方りて、寶禪師至る、時に親しく五祖より來れり。師問ふ、「嶺に上る一句、作麼生か道はん。」寶曰く、「氣急にして人を殺す。」師鏝を拄へて呵して曰く、「何れよりか此の語に隨つて解を生ずる。阿師の見を得たる。嶺に上るを問へば便ち言ふ、急急と。佛法却つて流布と成る。」寶、代語を請ふ、師曰く、「何ぞ道はざる、氣人を喘殺すと。」道遙として問ふ、「嶺此に在り、金剛什麼の處にか在る。」師指して曰く、「此の一株の松、是れ老僧親し

① 獼猴。一本には「胡孫」に作る。
② 野狐精。人を罵る語、化け物。
③ 文益。法眼宗祖清涼文益。
④ 阿師。和尚さん、坊さんなどと云ふほどの意、又多少輕蔑の意を含んで用ふることにあり。
⑤ 流布。流傳に同じ、宗意の文字語言にのみ傳はりて、眞個正宗の傳はらざるを云ふ。從容錄第十二則の頌に、「耳日に流傳して便ち支離す」とあり。

く栽う。初め比部郎中許公式、出でて南昌に守たり、蓮華峯を過ぎて、祥公の「聰道者江西に在り、試に尋訪せよ。此の僧、人天の眼目なり」と曰ふを聞いて、許公既に至りて、聰の住山の家風を聞いて、詩を作りて之に寄す。曰く、「語言渾べて滯らず、高く祖師の蹤を躡む。夜は雲に連る石に坐し、晝は雨を帯ぶるの松を栽う。鏡は金殿の燭を分ち、山は月樓の鐘に答ふ。西來意を問ふ」と有れば、靈堂遠峰に對す。」

禾山義虎 「黃龍南法嗣」。「尊寶傳下」 禾山普禪師、初め講席に秀出して、唯識、起信論を解す。兩川敢て難詰する者なし。義虎と號す。
瑞岩臥龍 「岩頭法嗣」。「傳燈十七」 台州瑞岩の師彦禪師、夾山の會和尚に調す。會問ふ、「甚麼の處より來る。」曰く、「臥龍より來る。」會の曰く、「來りし時、龍還つて起くや未だしや。」師乃ち顧みて之を視る。會曰く、「灸瘡の上に更に艾燧を着く。」曰く、「和尚苦きこと此の如くにして什麼か作ん。」會便ち休す。

① 人天眼目。人界並に天上界の指導者。
② 講席。經論を講義する所。
③ 膺。胸なり。
④ 脾。釋名に「胃下に在りて、胃の氣を助けて穀を化するを主る」と。

翠岩唾地 「石霜法嗣」。「會元十七」 蘄州開元の子琦禪師、翠岩眞禪師に謁して佛法の大意を問ふ。地に唾して曰く、「這の一滴、甚麼の處にか落在す。」琦、膺を捫つて曰く、「學人、今日脾疼。」師解顔す。

寶壽釘空

〔臨濟法嗣〕

〔傳燈十二〕 鎮州寶壽の沼和尚、胡釘鉸來り參す。師問ふ、「汝は是れ胡釘鉸

なること莫しや。」曰く、「不敢。師曰く、「還つて虚空に釘し得ることを解すや否や。」曰く、「請ふ和尚

打破せよ、某甲與に釘たん。」師拄杖を以て之を打つ。胡の曰く、「和尚錯つて某甲を打つこと莫れ。」

師云く、「向後 多口の阿師有つて、與に 點破すること有らん。」

一城人瞎

〔傳燈十二〕 寶壽開堂に、三聖、一僧を推し出して寶壽の前に

在り、壽便ち其の僧を打す。聖の云く、「長老若し恣麼に人の爲にせば、

鎮州一城の人の眼を瞎却すること有らん。」

三日耳聾

〔會元三〕 前の黃檗吐舌の處に見ゆ。

東山後館

〔五祖錄〕 法演遊方十餘年、海上に參尋して、數人の尊宿に見

ゆ。乃ち浮山圓鑑の會下に到り、直に是れ開口不得。後に白雲門下に到

り、一箇の 鐵餒餓を咬破して、直に百味具足することを得たり。「且く

道へ、館子の一句作麼生か道はん。」乃ち偈あり、「花は鶏冠を發きて早秋に媚ぶ、誰人能く紫絲頭

を染む。時有り風に動いて頻に相倚る、階前に向つて鬪つて休せざるに似たり。」

楊岐栗蓬

〔會元十九〕 楊岐、僧に問ふ、「栗棘蓬、作麼生か呑まん、 金剛圈、作麼生か透らん。」

慧南主法

〔僧寶傳下〕 黃龍南曰く、「住持の要、衆を得るに在り、衆を得るの要、情を見るに在り。」

●多口の阿師。おしやべりの和尚さん。
 ●點破。説破、説伏などに同じ。
 ●鐵餒餓。餓餓は俗に云ふ饑頭の類、餓にて作りし饑頭、僧の背を下し難き意にいふ。
 ●栗棘蓬。栗のいがなり。
 ●金剛圈。金剛は堅固不壞の義、圓はかこひなり、羅透の關所なり。

●先師の言く、「人情は世の福田たり。」蓋し理道の由つて生ずる所なり。故に時の 否泰、事の損益

は必ず人情に因る。情時に通塞あるときは則ち否泰生ず、事時に厚薄あるときは則ち損益至る。唯

だ聖人、能く天下の情に通ずるが故に、易の卦を別つ。乾下坤上を則ち泰と曰ふ、乾上坤下を則ち

否と曰ふ。其の象を取るに、上を損し下を益するを、則ち益と曰ふ。下を損し上を益するを、則ち

損と曰ふ。夫れ乾を天と爲し、坤を地と爲す。天は下に在りて地は上に在り、位故に乖く。而る

を返つて之を泰と謂ふは、上下交るが故なり。主上に在りて賓下に處る、義故に順なり。而るを返

つて之を否と謂ふは、上下交らざるが故なり。是を以て天地交らざれば、庶物育せず、人情交らざれば、萬事不和なり。損益の義亦是れに

由る。夫れ人の上に在る者、能く己を約にして以て下を裕にすれば、下

必ず悦びて上に奉ず、豈に之を益と謂はざらんや。上に在る者、下を蔑

にして己を肆諸にすれば、下必ず怨みて上に叛く、豈に之を損と謂はざらんや。故に上下交れば則

ち泰く、交らざれば則ち否なり。自ら損する者は人を益す、自ら益するものは人を損す、情の得失、

豈に容易ならんや。先聖嘗て人を喻へて舟と爲し、情を水と爲す。水能く舟を載せ、亦能く舟を覆

へす。水順へば舟浮ぶ、違へば則ち没す。故に住持、人情を得れば則ち興り、人情を失すれば則ち

廢す。全得して全興し、全失して全廢す。故に善に同すれば則ち福多く、惡に同すれば則ち禍甚

なり。馬に「大往き小來る」と。

善惡類を同すること端に貫珠の如く、興廢の象行、明かにして日を觀るが如し。斯れ歴代の元龜なり。」

居訥扶宗〔延慶禁法嗣〕。〔會元十六〕圓通の居訥禪師、仁宗皇帝、其の名を聞いて、皇祐の初

め、詔して十方淨圓禪院に住せしむ。師目の疾を稱して詔を奉ずること能はず、旨有りて自代を擧げしむ。遂に僧懷璉を擧す。禪學精深にして、居訥が右に在り、是に於て璉に詔す。璉至りて引對す、佛法の大意を問ふ、旨に稱へり。天下、師の人を知ることを賢なりとす。

洪濟師子

遼陽 大蟲

趙州探水〔傳燈十〕趙州一日、茶菓を訪ふ、拄杖を將つて法堂上に於て東行西行す。莫の云く、「甚麼をか作す。」州云く、「水を探る。」莫の云く、「我が這裡、一滴も也た無し。」州、拄杖を將つて壁に靠けて便ち出づ。

百丈夾火〔傳燈九〕潯山一日、百丈に侍する次で、丈問ふ、「誰ぞ。」山曰く、「靈祐。」丈の曰く、「汝爐中を撥へ、火有りや否や。」山、之を撥ふに火無し。丈、躬自ら深く撥ふて、少火を得、舉して以て山に似して云く、「爾、者箇なしと道ふ。」靈祐曰く、「山忽然として契悟す。遂に禮拜して其の所解

- ① 仁宗皇帝。宋の四代の主。
- ② 皇祐。仁宗の年號。
- ③ 懷璉。雲門下洵潭に嗣ぐ。
- ④ 大蟲。虎のこと。
- ⑤ 靈祐。潯山の諱なり。
- ⑥ 少。一本には「栗」に作るも、會元、傳燈みな少に作る、一本誤ならん。
- ⑦ 靈。字彙に「物を指す貌」とあり。

を陳ぶ。丈云く、「此れ猶も暫時の岐路のみ、佛性の義を識らんと欲せば、常に時節因縁を觀すべし。時節若し至りぬれば、迷の忽ちに悟るが如く、忘の忽ちに憶ゆるが如く、方に己が物を省し、他より得ず。故に祖師の曰く、「悟了同未悟、無心亦無法、只是是れ虛妄、凡聖等の心なくんば、本來の心法元より具足す。」汝今既に是れ善く自ら護持せよ。」次の日、百丈と同じく山に入りて、作務す。丈曰く、「火を將ち得來るや。」山の曰く、「將ち得來る。」丈曰く、「甚れの處に在る。」山乃ち一枝の柴を拈じて、吹くこと兩吹して百丈に度與す。丈曰く、「蟲の木を禦むが如し。」

金峰行餅〔禪林類聚十八〕金峰一日、僧堂の内に於て、餠餅を喫する次で、自ら一枚の餅を拈じ、上板頭より轉すること一匝す。大衆見て一時に合掌す。峰云く、「假使ひ爾十分に手を擡起すとも、祇だ一半を得たり。」晚に至りて僧あり、請益して云く、「今日餅を行き、僧の合掌するを見て、和尚道ふ、假使ひ十分に手を擡起すとも、祇だ一半を得と。請ふ和尚全く道へ。」峯、餅を拈する勢を作す。復た云く、「會すや。」僧云く、「會せず。」峯云く、「金峯も也た祇だ一半を得たり。」

- ① 悟了同未悟。悟後と悟前と別に變化なきを云ふ、即ち悟後には其の心境は従前に別なるも、日常の云々動作は變りなきなり。
- ② 作務。仕事をすること。
- ③ 餠餅。胡麻をつけてつくれる餅。
- ④ 會。悟得するなり、碧巖第一則の頌の評の終りに曰く、「只許老胡知、不許老胡會。」
- ⑤ 布袋。上卷布袋乞食の章に詳かに其の人となりを誌せり。

布袋拈果〔傳燈二十七〕布袋、通衢に在りて立つ。僧あり、云く、「甚麼をか作す。」布袋云く、「箇

の人を等つ。「僧云く、「來れり。」布袋一桶子を取つて僧に與ふ、僧纒に接せんとす。布袋手を縮めて云く、「備は是れ者箇の人にあらす。」

中邑鳴哪 中邑、僧を見る毎に、手を拍ち唇を鼓して曰く、「哪鳴哪鳴。」

青山骨判 「黄葉法嗣」。「傳燈十二」 杭州羅漢院の宗徹禪師、僧問ふ、「如何なるか是れ西來意。」師云く、「骨判せり。」師、機に對して多く此の語を用ふ。時人因つて骨判和尚と號す。

明招目眇 「羅山道閑法嗣」。「會元十三」 婺州明招謙和尚、一目を眇にす、叢林獨眼龍と號す。

雲門脚跛 「會元五」 雲門初め睦州に參じて、方に門を扣く。州之を描へて曰く、「道へ道へ。」門驚きて答ふるに暇あらず、乃ち推し出して曰く、「秦時の轆轤鑽、隨つて其の扉を掩ふて、門の右足を損す。」

四處説人 「傳燈十九」 漳州保福の從展禪師、四び人を説す、一には僧に問ふ、「殿裏是れ甚麼佛ぞ。」僧曰く、「和尚、定當して看よ。」師曰く、「釋迦佛。」僧の云く、「人を説すること莫くんば好し。」師の云く、「却つて是れ備我れを説す。」二には僧に問ふ、「甚麼の業を作してか喫し得て、與麼に大なる。」僧の云く、「和尚

也た少からず。」師、蹲る勢を作す。僧云く、「和尚、人を説すること莫くんば好し。」師云く、「却つて是れ備我れを説す。」三には僧に問ふ、「汝名は甚麼ぞ。」僧云く、「咸澤。」師云く、「忽ちに枯涸に遇ふて看よ如何。」僧云く、「誰か是れ枯涸の者。」師云く、「我れ是。」僧云く、「和尚、人を説すること莫くんば好し。」師云く、「卻つて是れ備我れを説す。」四には、浴主に問ふ、「湯鍋潤きこと多少ぞ。」主の云く、「請ふ師量れ。」師便ち量る勢を作す。主云く、「和尚、人を説すること莫くんば好し。」師云く、「却つて備我れを説す。」

① 折なり。
② 機類、若しくは對機、即ち參學問道の者を云ふ。
③ 秦時、秦の始皇帝、萬里の長城を築くに當り、始めて轆轤鑽を作り、之を用ひたり、爾れより此の物餘り大に過ぎて用法なしと、依つて後世無用の長物の意を示すに、秦時の轆轤鑽といふ、語氣徒らに鋭くして、箇の入頭の處なき者を評する語に用ふ、役に立たぬ奴ぢやといふ意。
④ 定當、承當に同じ、肯定會得の義なり。
⑤ 説、欺なり。

三翻懺懺 「傳燈」 隋州護國院の守澄淨果禪師、僧問ふ、「鶴枯松に立つ時如何。」師云く、「地下底、一場の懺懺。」問ふ、「王の沙汰に會ふ時、護法善神、甚麼の處に向つてか去る。」師云く、「三門の前の兩箇、一場の懺懺。」問ふ、「滴水滴凍の時如何。」師云く、「日出でて後、一場の懺懺。」韶陽九々 「雲門錄」 僧、雲門に問ふ、「如何なるか是れ向上の一竅。」門の云く、「九々八十一。」又僧問ふ、「如何なるか是れ最初の一句。」門云く、「九九八十一。」又僧問ふ、「以字不是、八字不成。未審し是れ甚麼の字ぞ。」門の云く、「九々八十一。」

① 浴主、浴室を主る僧なり。
② 懺懺、懺悔を云ふ、はぢ、笑ひまなどの意。
③ 沙汰、技にけ官命に依り、佛寺を毀ち僧尼を歸俗せしむるを云ふ。唐の武宗の會昌の沙汰の如し。
④ 竅、穴なり、空なり。
⑤ 五臺山、支那山西會にあり、後漢の明帝永平年中、四度より摩騰、竺法蘭等佛を齎し來りて此の山に上りたりと。

文殊三三 「會元二」 杭州無著文喜禪師、初め大慈山性空禪師に謁す、空の曰く、「子何ぞ徧參せざるや。」師、直に、五臺山の華嚴寺に往いて、金剛窟に至りて禮謁す。一老翁の牛を牽きて行くに遇ふ、

師を邀へて寺に入る。翁、均提と呼ぶ童子あり、聲に應じて出で迎ふ。翁、牛を縦して、師を引きて堂に陞る。堂宇皆燿きて金色なり、翁、床に踞す、繡織を指して命じて坐せしむ。翁の曰く、「近く何れよりか來る。」僧云く、「南方。」翁曰く、「南方の佛法、如何が住持する。」師云く、「末法の比丘、戒律を奉ずること少し。」翁の曰く、「多少衆ぞ。」師曰く、「或は三百、或は五百。」師却つて問ふ、「此間佛法、如何が住持する。」翁の曰く、「龍蛇混雜、凡聖同居。」師云く、「多少衆ぞ。」翁曰く、「前三々、後三々。」翁、童子を呼びて茶を致し、并に酥酪を進む。師の味を納れて心意豁然たり。翁、玻璃盞を拈起して、問うて曰く、「南方還つて這箇ありや否や。」師曰く、「無し。」翁曰く、「尋常甚麼を將つてか茶を喫する。」師對なし。師、日色稍晚れたるを視て、遂に翁に問ふ、「一宿を投せんと擬す、得てんや否や。」翁の云く、「汝、執心有る在り、宿し得ず。」師の曰く、「某甲執心なし。」翁曰く、「汝曾つて戒を受くるや否や。」師曰く、「戒を受くること久し。」翁曰く、「汝若し執心なくんば、何ぞ戒を受くることを用ひん。」師辭して退く。翁、童子をして相送らしむ。師、童子に問ふ、「前三々後三々、是れ多少ぞ。」童、是れ多少ぞと召ぶ、師應諾す。童の曰く、「是れ多少ぞ。」師復た問うて曰く、「此を何れの處とかする。」童曰く、「

●末法。正法、像法、末法之を三時と云ふ。佛滅後、正像二時を経て末法に入れば、佛法漸次微にして、只だ教のみ存して、行證を缺くと。末は微なりと註す。
●前三々後三々。是れ普通の數にあらず、數量を超越したる數なるを示す。
●酥酪。牛乳を精製せるもの。
●玻璃。寶石の名、七寶の一なり、水精のこと。
●執心。執着の心。
●大德。僧の尊稱。

「此れは金剛窟の般若寺なり。師、悽然として悟る。彼の翁は即ち、文殊なり、再び見るべからず。即ち童子に稽首して、「願はくは乞ふ、一言別を爲せ。」童、偈を説きて曰く、「面上嗔無ければ供養具る、口裏嗔無ければ妙香を吐く。心裏嗔無ければ是れ珍寶、無垢無染是れ眞常。」言ひ訖つて均提と寺と俱に隱る。但だ五色の雲中、文殊の金色の師子に乗りて往來するを見る。忽ち白雲あり、東方より來り覆ふて見えす。時に滄州菩提寺の僧、修政等ありて至る、尙ほ山石震吼の聲を聞く。師因つて錫を五臺に駐む。

●文殊菩薩の化身なりとの意。
●菩薩。梵、菩提薩埵の略、譯して覺有情と云ふ。
●靈照。龐居士の女なり、又譯曰く會ず。
●彌。乳なり。
●一本には、古に作る。
●舍利。梵語なり、譯して身骨、骨など云ふ。佛の遺骨を云ふ、堅固にして不壞、五色の彩ありと。

金牛飯桶〔馬祖法嗣〕〔會元三〕 金牛和尚、齋時に至る毎に、自ら飯桶を將つて、僧堂前に舞を作し、呵呵大笑して云く、「菩薩子喫飯來。」靈照菜籃〔傳燈十四〕 丹霞、龐居士を訪ふ。門前に女子、靈照去つて、菜を洗ふを見て、霞同ふ、「居士在りや否や。」照、菜籃を放下し、手を斂めて立つ。霞曰く、「居士ありや否や。」照、菜籃を提起して去る。霞使ち回る。居士、外より歸る、靈照、居士に舉似す。居士云く、「丹霞在りや否や。」照云く、「已に去れり。」居士の云く、「赤土牛、糞を塗る。」丹霞燒佛〔傳燈十四〕 丹霞、嘗て洛京惠林寺に到りて、天寒に値ふ。木佛を取りて之を燒く、院主之を呵す。霞曰く、「吾れ燒きて、舍利を取らん。」主云く、「木佛豈に舍利有らんや。」霞曰く、「若し

爾らば、何ぞ我れを責めんや。」院主、後に眉鬚墮落す。

婆子焚庵〔會元六〕昔婆子あり、一庵主を供養して二十年を経たり。一の二八の女子をして、飯

を送つて給侍せしむ。一日女子をして抱定せしめて曰く、「正恁麼の時如何。」主曰く、「枯木寒岩に

倚る、三冬暖氣なし。」女子、婆に舉似す。婆曰く、「我れ二十年、祇だ箇

の俗漢を供養し得たり。」遂に遣出して庵を焼却す。

雲蓋論義〔石霜諸法嗣〕〔會元六〕雲蓋元禪師、因に潭州の道正、馬王

の表聞して師に論議せんことを乞ふ。王、師を請じて殿に上る。相見茶

罷んで、師、王に就きて劍を乞ふ。師、劍を握りて道正に問うて曰く、

「爾が本教の中に道く、恍恍惚惚として其の中に物あり、是れ何物ぞ、

杳杳冥冥として其の中精あり、是れ何の精ぞ。道ひ得ば斬らず、道ひ得

ずんば即ち斬らん。」道正、茫然として便ち禮拜懺悔す。師、王に謂つて曰く、「還つて此の人を識る

や否や。」王曰く、「識る。」師曰く、「是れ誰ぞ。」王曰く、「道正。」師曰く、「不是。道若し正しからば臣僧

に對へ得べし、此れ祇だ是れ箇の無主の孤魂のみ」と。玆に因つて道士、更に紛紜たらず。

徳山小參〔傳燈十五〕徳山小參、衆に示して云く、「今夜小參答話せず、問話の者は三十棒。」時に

僧あり、出でて禮拜す、師便ち打つ。僧云く、「某甲話も未だ問はざること有り。」師云く、「爾は是れ

何れの處の人ぞ。」僧云く、「新羅の人。」師云く、「未だ船舷に跨らず、子に好し三十棒を與へん。」

芙蓉妙唱〔投子青法嗣〕〔人天眼目〕芙蓉の楷禪師、妙唱舌に干らざる頷に曰く、「刹刹塵塵處處に

談す、彈指を勞せず。善財參す。空生也た消息を通することを解す、花

は岩前に雨ふれども鳥啣まず。〔空生は須菩提なり。〕

常察玄談〔九峯虔法嗣〕〔傳燈二十九〕同安常察禪師。十玄談。○心印。

祖意。○玄機。○塵異。○佛教。○還鄉曲。○破還鄉曲。○轉位歸。○

回機。○正位前。

二祖安心 前の慧可斷臂の處に在り。

洞山見影〔雲岩晟法嗣〕〔會元十三〕洞山、雲岩和尚に問ふ、「百年の後

忽ち人ありて、還つて師の眞を 貌得すやと問はば、如何が祇對せん。」

雲岩曰く、「汝伊に向つて道へ、即ち遮個是なりと。」師良久す。雲岩の曰

く、「遮箇を承當せば、事大いに須らく審細にすべし。」師猶疑に渉る。復

た因に水を過ぎ影を視て、大いに前旨を悟る。因つて一偈あり、曰く、「切

に忌む他に從つて覓むることを、迢迢として我れと疎なり。我れ今獨り

自ら往く、處處渠に逢ふことを得たり。渠今正に是れ我れ、我れ今是れ

二八。一本には「二人」に誤り作る。

恁麼。まやうな、かやうな等の意。

小參。大參に對して云ふ、大參は法堂にて之を行ひ、専ら宗旨舉揚す、小參は多く方丈に於て之を行ひ、參學の者に對して教誨するを云ふ。

善財童子。華嚴經に出づ。

十玄談。佛の中に於て其の義の玄妙なるもの十題を選びて、宗旨を舉揚せるもの。

一に心印、宇宙萬象の根原は一心法なること。

二に祖意、祖師西來意。

三に玄機、佛祖不傳の玄妙の機用。

四に塵異、塵界に處して汚染せられざること。

五に佛教、前の四は直に宗旨の根源を示す、上根の人にあらざるよりは會し難し、之を以て假りに教を設けて漸漸に淺より深に入らしむ。

六に還鄉曲、迷界の流瀆をのがれて本分の家郷に還るこ

渠にあらず。應に須らく恁麼に會して、如如に契ふことを得べし。」

藥嶺榮枯 「石頭法嗣」 「會元五」 藥山一日、道吾、雲岩、高沙彌と遊山

す。兩樹の一是榮を一是枯るるを見て、山問うて曰く、「榮者が是、枯者が是」吾曰く、「枯者は是」山曰く、「酌然として一切處、枯淡にし去らしむ。」又岩に問ふ、岩曰く、「榮者は是」山曰く、「酌然として一切處、光明燦爛とし去らしむ。」復た沙彌に問ふ、彌曰く、「枯者は從他ばあれ枯れぬ、榮者は從他ばあれ榮ゆことを」山、道吾、雲岩を回顧して曰く、「不是不是」

夾山人境 「華亭法嗣」 「會元五」 僧、夾山に問ふ、「如何なるか是れ夾山の境」山曰く、「猿子を抱いて青嶂の後に歸り、鳥花を啣んで碧岩の前に落つ。」

香嚴上樹 「澗山法嗣」 「傳燈十一」 香嚴一日、上堂、衆に示す、「人の樹に上つて、口に一樹枝を啣み、脚枝を踏まず、手枝に擧げざるに、忽ち人有つて、祖師西來意を問ふが如きんば、若し他に答へば即ち喪身失命せん、他に答へざれば又他の所問に違ふ」と。時に虎頭上座といふも

の有つて出でて云く、「樹上は即ち問はず、樹下の一句、道ひ將ち來れ。」嚴、呵阿大笑す。

仰山出井 「傳燈九」 潭州石霜山の性空禪師、因に僧問ふ、「如何なるか是れ西來意」空曰く、「人の千尺井中に在るが如し、一寸の繩を假らずして此の人を出すことを得ば、即ち汝に西來意を答へん。」僧云く、「近日湖南の鴨和尚出世、亦人の爲に東語西話す。」空、沙彌を喚び、「者の死漢を拽出着せよ。」仰山沙彌なり。」沙彌、後に擧げて、耽源に問ふ、「如何が井中の人を出し得ん。」源曰く、「咄、癡漢、誰か井中に在らん。」仰山、後に澗山に問ふ、「如何が井中の人を出し得ん。」澗山廻ち惠寂と呼ぶ。寂、應諾す。澗山曰く、「出でぬ。」仰山に住するに及んで、曾つて前話を擧し、衆に謂つて曰く、「我れ耽源の處に在りて名を得、澗山の處に地を得たり。」

趙州接客 「南泉法嗣」 「會元」 眞定師王、諸子を携へて院に入る。趙州坐して問うて曰く、「大王會すや。」王云く、「會せず。」師云く、「小より持齋して身已に老いたり、人を見て禪床を下るに力無し。」王尤も嘉禮すること重し。翌日客將をして傳語せしむ。師、禪床を下りて之を受く。少間あつて侍者問うて云く、「和尚、大王の來るを見て禪床を下らず、今日將軍來る、什麼としてか却つて禪

床にあらず。應に須らく恁麼に會して、如如に契ふことを得べし。」

七に破還轉曲、本分の家郷に歸家穩坐せるのみにては不可なるを云ふ。

八に轉還歸、百尺竿頭更に、歩を進むるを云ふ。

九に回轉、機輪を回轉するにて、再び塵界に入りて衆生濟度に盡すを云ふ。

十に正位前、前の回轉の更に沒蹤斷消息の往來ならざるべからざるを示す、即ち無功川の境界なり。

如、諸法の本體、不變異の常相を指していふ。

一本には、向に作る。

沙彌、梵音シユラマネーラの略にして、且つ説せるものなり、譯して息慈又は勸策男とす、出家して未だ修行の熟せざるものを云ふ。愚か息めて

慈悲の行を修するの意なり。傳燈九。一本には「傳燈十一」に作るは誤なり。性空。百丈懷海に關ぐ。鴨。一本には「鴨」に作るも誤ならん。耽源。耽源眞は南陽惠忠國師に關ぐ。一本には「我於耽源處」得體、澗山地得地に作るも、みな誤りなり、會元及び傳燈によつて改む。寶。正午を過ぎて食せざること。又身日三の三樂をつつしむこと。

床を下る。師曰く、「汝が知る所に非ず。第一等の人來れば禪床上に接し、中等の人來れば禪床を下りて接し、末等の人來れば三門の外に接す。」師、拂子を寄せて大王に與ふ。「若し何れの處よりか得來ると問はば、但だ道へ、老僧平日用ひ盡さざるものと。」

价老看病 「雲岩法嗣」 洞山、僧問ふ、「和尚、還つて病まざるものありや也た無や。」師曰く、「有り。」僧曰く、「病まざる者、還つて和尚を看るや否や。」師曰く、「老僧他を看るに分有り。」曰く、「和尚争か他を看ることを得ん。」師曰く、「老僧看る時、即ち病あるを見ず。」

南泉油糞 「禪林類聚九」 南泉願禪師、一日堂に赴かず。侍者、堂に赴かんことを請ふ。師云く、「我れ今日莊上に在り、油糞を喫して飽く。」者云く、「和尚會て出入せず。」師云く、「汝去つて莊主に問へ。」者方に門を出づ、忽ち莊主を見る。歸りて和尚に謝す、云云。

韶陽餠餅 「雪峰法嗣」 「雲門錄」 僧、雲門に問ふ、「如何なるか是れ 超佛越祖の談。」門の云く、「餠餅。」

德山托鉢 「傳燈十五」 雪峰、德山に在つて、飯頭たり、一日飯遲し、德山鉢を擎げて法堂を下る。雪峰廻ち曰く、「鐘未だ鳴らず、鼓未だ響かざるに、老和尚托鉢して什麼の處に向つてか去る。」德山却つて方丈に歸

① 遠和。病氣のこと、四大の調和せざるを云ふ。又一本には「遠和」に誤る。
② 油糞。又油糞とも書す、胡麻を入れたる餅なり。
③ 超佛越祖。佛祖を超越するの意。
④ 飯頭。炊事を主る役。
⑤ 鐘未だ鳴らず。叢林、飯が報するに鐘鼓を用ふ。即ち報なきに鉢を持して來れるを責むるなり。托は手に物を承くるなり、持つの意なり。普通に僧の人家につきて食を乞ふを云ふも、鼓は只だ鉢を手にして出で來れるを指す。
⑥ 大小の德山。大小は人を罵る語。
⑦ 問云。一本には此の問の上に「上」の字ありて「云」の字なし、又那を「耶」に作る。
⑧ 且喜すらく。俗にまあ、幸な事にはと云ふほどの意。
⑨ 他。彼なり、德山を指す。
⑩ 雪峰。刻苦精勵、道の爲に身を惜まず。傳へ云ふ、九たび洞山に上り、三たび投子に到ると、其の求法の念の篤きを見るべし、而して到る所飯頭となる。飯頭は即ち炊事係にして厨務なり、人皆好まざる所、然も峯獨り進んで之に當り、以て陰徳を冥冥の中に積む。宜なる哉、後年其の名天

る。巖頭堂中に在り、聞き得て掌を拊つて曰く、「大小の德山、未だ末後の句を會せず。」德山、擧するを聞いて、侍者をして頭を喚ばしめ、問うて云く、「爾、老僧を肯はざる那。」頭、密に其の意を啓す。德山來日上堂、説法每常と異なり。頭、僧堂前に到りて、掌を撫して大笑して曰く、「且喜すらくは老漢、末後の句を會することを。他後に天下の人奈何ともせじ。然も是の如くなりと雖も、只だ三年の活を得ん。」後に三年にして果して化す。

象骨覆盆 「傳燈七」 雪峰、洞山に在りて飯頭と作る。米を淘る次で、山問ふ、「沙を淘つて米を去るか、米を淘つて沙を去るか。」師曰く、「沙米一時に去る。」山曰く、「大衆、箇の何をか喫せん。」師、遂に米盆を覆却す。山曰く、「子が因縁に據らば、德山に在る合し。」

婆子眷屬 「傳燈六」 昔一僧あり、米胡に參す、路に一婆の住庵するに逢ふ。僧、婆に問ふ、「眷屬ありや否や。」曰く、「有り。」僧曰く、「什麼の處に在る。」曰く、「山河大地、若しくは草、若しくは木、皆是れ我が眷屬なり。」僧曰く、「婆、師姑と作り來ること莫しや否や。」曰く、「汝我れを是

れ甚麼とか見る。僧曰く、「俗人。婆曰く、「汝是れ僧なる可からず。僧曰く、「婆、佛法を混濫すること莫くんば好し。婆曰く、「我れ佛法を混濫せず。僧曰く、「汝恁麼、豈に是れ佛法を混濫するにあらずや。婆曰く、「爾は是れ男子、我れは是れ女人、豈に曾て混濫せん。」

王老兒孫 〔馬祖法嗣〕。〔傳燈八〕 黃檗、南泉に在りて首座たり。一日鉢を捧げて南泉の位上に坐す。泉、堂に入つて見て、乃ち問ふ、「長老、甚年中にか行道する。」檗曰く、「威音王佛已前。」泉曰く、「猶ほ是れ師の兒孫。」檗、遂に第二位に過ぐ。

雲居送袴 〔良价法嗣〕。〔會元三〕 洪州雲居道膺禪師、曾て侍者をして袴を送りて、一りの住庵の道者に與へしむ。道者曰く、「自ら、娘生の袴あり。竟に受けず。師再び侍者をして問はしむ。「娘未だ生れざる時、箇の何をか著けたる。」道者、語なし。後に遷化して、舍利あり、持して師に似す。師の云く、「直饒ひ、八斛四斗を得とも、當時一轉語を下し得て好からんには如かず。」

道吾得褌 〔藥山法嗣〕。〔傳燈十四〕 施主あり、褌を藥山に施す。提起し

て衆に示して曰く、「法身、四大を具すや否や、人ありて道ひ得ば、他に一腰褌を與へん。潭州の道吾山の宗智禪師云く、「性地、空に非ず、空性、地に非ず。此れは是れ地大、三大も亦然り。藥山前の言に違はず、乃ち吾に褌を與ふ。」

九峰頭尾 九峰禪師、僧問ふ、「如何なるか是れ頭。」師曰く、「眼を開きて曉を覺えず。」僧曰く、「如何なるか是れ尾。」師曰く、「萬年の床に坐せず。」僧曰く、「頭あり、尾なき時如何。」師云く、「纔に是れ貴からず。」僧曰く、「尾あり、頭なき時如何。」師曰く、「飽くと雖も力なし。」僧曰く、「直に頭尾相構ふを得る時如何。」師曰く、「兒孫力を得て室内知らず。」

洞山功勳 〔雲岩法嗣〕。〔人天眼目〕 洞山の功勳五位、〔向・奉・功・共功・功功〕。僧、問ふ、「如何なるか是れ向。」洞山云く、「喫飯の時作麼生。」僧問ふ、「如何なるか是れ奉。」山云く、「背の時作麼生。」僧問ふ、「如何なるか是れ功。」山云く、「鉏頭を放下する時作麼生。」僧問ふ、「如何なるか是れ共功。」山云く、「色を得ず。」僧問ふ、「如何なるか是れ功功。」山云く、「不共。」

下に普く、門下に盤門、支沙等多數の後傑を打出す。後人頌して曰く、「千七百八善知識、靈從二約頭上二台來」と。約は飯頭の常に手にするもの。

- ① 師姑、尼僧のこと。
- ② 威音王、威音王佛の略、太古の佛の名なり、法華經常不輕品に出づ。威音王以前は天地未分以前などといふの意。
- ③ 王老僧、南泉のこと、泉の俗姓王氏なり、故に斯く云ふ。
- ④ 生袴、親親りの皮袴なり、運は母の通稱。
- ⑤ 舍利、梵語なり、譯して骨身と云ふ。戒定慧、忍行功徳の重成により、死後に骨の化してなれるもの。堅固にして不壞、轉變功徳を具すと。
- ⑥ 八斛四斗、佛滅後茶毘に附して舍利八斛四斗を得たりと。
- ⑦ 法身、三身の一、無色無形の理佛のこと、觀經疏に曰く、「法性を以て身となす、此の身は色質に非ず云云。」
- ⑧ 四大、地、水、火、風のこと。萬有の元素を大別して此の四となす。
- ⑨ 空性非地、一本には「空非性地」に作る。
- ⑩ 如何、一本には如何の「如」の字なし。
- ⑪ 洞山良价、曹洞宗祖なり。
- ⑫ 功勳五位、
 - 一、向、臣子の君父に隨順するが如く、人人木具の佛性あるを信じて、之に歸向するを云ふ。
 - 二、奉、臣子のよく君父に奉公して、其の命を守るが如く、よく木有の徳に順するを云ふ。
 - 三、功、よく臣子奉順の徳功の顯はれたるを云ふ。
 - 四、共功、君父と臣子とよく

楊岐七事

元靜十門 「五祖演法嗣」 「普燈十一」 南堂の元靜禪師、衆に示して曰く、

「夫れ參學の至要、最初の句と最後の句とを出てす。透得過する者は、平生參學の事畢んぬ。其れ或は未だ然らずんば、偏が與に十門を作らん、各用ひて自心を印證して看よ。穩當なることを得るや也た未だしや。一には須らく、教外別傳あることを信すべし。二には須らく、教外別傳あることを知るべし。三には須らく有情の說法と無情の說法と無二なることを會すべし。四には須らく見性して掌上を觀るが如く、了了分明にして、一一田地穩密なるべし。五には須らく擇法眼を具すべし。六には須らく鳥道玄路を行すべし。七には須らく文武兼ね濟すべし。八には須らく邪を推き正を顯すべし。九には須らく大機大用なるべし。十には須らく異類の中に向つて行すべし。此の十門、諸人還つて一一穩當なりや未だしや。若し只だ是れ門を閉ぢて活計を作し、獨り自ら身を了せんことを要せば、却つて此の限に在らず。若し正宗を荷負し、聖種を紹隆せんと欲せば、須らく此の綱要の十門を明めて、方に曲象床に坐し得て、

共に其の位を守りて、功德をなすを云ふ、而も未だ君父臣子の別あり、其の功に誇るの念なき能はざる位なり。
五、功功、君臣父子其の體を合し、其の徳を同じうして一點の隔てなく、其の功に誇らず、眞によく無功用の大功、無功德の大徳を現前し、脱落心身の究地なり。要するに此の功功五位は、修行の行程を示せるものにして、而も之れを世間事に推すときは、實踐道徳の標準と云ふべきなり。
①山。一本には山の字の上には「功」の字あるも誤らん。
②教外別傳。如來四十九年の說法、言教の外に別に佛心印を傳ふ。
③鳥道玄路。水鳥の行くもかへるもいと絶えて、されども道

天下の人の禮拜を受け得て、敢て佛祖の與に師と爲るべし。若し恁麼の田地に到らず、只だ一向虚顯ならば、他時異日、閻羅老子、未だ敢て偏を放さざること不在らん。有り慶、出で來れ、大家證據せん。若し無くんば久立することを用ひず。」

老安作用 「傳燈九」 嵩岳の慧安國師、因に坦然、懷讓の二人來參す。問うて曰く、「如何なるか是れ祖師西來意。」安曰く、「何ぞ自己の意を問はざる。」曰く、「如何なるか是れ自己の意。」安曰く、「常に密作用を觀すべし。」曰く、「如何なるか是れ密作用。」安、目を以て開合して之を示す。然、言下に大悟して、更に他に適かず。讓、機縁偶はず、辭して曹溪に往く。滅する時、老安國師と稱す。

馬祖勞倦 「會元三」 僧、馬大師に問ふ、「四句を離れ、百非を絶す、請ふ師、某甲に西來意を直指せよ。」大師云く、「我れ今日勞倦して、汝が爲に説くこと能はず。智藏に問取せよ。」去つて智藏に問ふ、云く、「何ぞ和尚に問はざる。」僧の云く、「和尚敢て來りて問はしむ。」藏の云く、「我れ今日頭痛、偏が爲に説かず。海兄に問ひ去れ。」僧、海兄に問ふ、海

は忘れざりけり」の意。
①異類中行。既に聖果を得たるものが、衆生濟度のために迷界異類の中に下るを云ふ。十牛圖の中に入塵棄手と云ふに同じ。
②田地。境界と同じ、心的狀態とも云ふべきか。
③閻羅老子。閻魔王なり。
④有慶。參問のときの約語にして、「有慶參」といふの略なり。
⑤四句。單句、單句、俱句、非句の稱。兩個の思惟ある時、此の四を以て分別解釋す。例へば善惡の二ならば、善(單)、惡(單)、亦善亦惡、俱、非善非惡(非)の如し。
⑥百非。一、異、有、無を四句に分別して十六句を得、之を三世に配して四十八句を得、更に之れを已起未起に分ちて九十六句となし、之に根本の四を加へて百となる。

の云く、「我れ者裏に到つて却つて會せず。」僧、馬大師に擧示す。大師云く、「藏頭白、海頭黒。」

鏡清雨聲「雪峰法嗣」。「會元七」鏡清、僧に問ふ、「門外是れ什麼の聲ぞ。」僧曰く、「雨滴聲。」師云く、「衆生顛倒して、己に迷ふて物を逐ふ。」僧云く、「和尚、作麼生。」師曰く、「泊んど己に迷はず。」意旨如何。師云く、「出身は猶は易かるべく、脱體に道ふことは應に難かるべし。」

龐公雪片「馬祖弟子」。「會元七」龐居士、因に藥山を辭す。山、十人の禪客に命じ、相送つて門首に至らしむ。士乃ち空中の雪を指して云く、「好雪片片、別處に落ちず。」時に全禪客といふもの有り、云く、「什麼の處にか落在する。」居士、遂に一掌を與ふ。全云く、「居士也た。草草なることを得ざれ。」士、曰く、「恁麼にして禪客と稱せば、闍羅老子未だ爾を放さざること存らん。」全云く、「居士、作麼生。」士又一掌を與へて云く、「眼見て盲の如く、口説いて啞の如し。」

雪竇 靈臺「智門祥法嗣」。「僧寶傳中」師、道日損の偈を爲る。云く、「三分の光陰二早く過ぐ、靈臺一點指磨せず。生を貪り日を逐ふて區區として去る、喚べども頭を回さず爭奈何せん。」

鼓山聖箭「雪峰法嗣」。「會元七」鼓山、大王の請に赴く。雪峰、門に送りて回つて法堂に至りて、乃ち曰く、「一隻の聖箭、直に九重城裏に射去る。」大原の孚曰く、「是れ伊れ未だしきこと在り。」峯の曰く、「渠れ是れ徹底の人なり。」孚曰く、「若し信せずんば、某甲が去つて勘過せんことを待て。」遂に越つて中路に至つて便ち問ふ、「師兄、甚麼の處に向つてか去る。」山の曰く、「九重城裏に去る。」孚の曰く、「忽ちに三軍の圍繞するに遇はん時、如何。」山の曰く、「他家自の通霄の路あり。」孚の曰く、「恁麼ならば則ち離宮失殿し去らん。」山曰く、「何れの處にか尊と稱せざる。」孚、袖を拂つて便ち回る。峯問ふ、「如何。」孚の曰く、「好隻聖箭、中路に折却し了れり。」遂に前話を擧ぐ。峯乃ち曰く、「好し渠の語在り。」孚の曰く、「這の老凍膿、猶は郷情の有る在り。」

鏡面退席「興化法嗣」。「僧寶傳下」蔣山の元禪師歿す。舒主、禮を以て秀鏡面を致して、其の席を嗣がしむ。秀、山に至る、王先づ候謁す。而も秀、方に叢林の事を理め、時に見えず。王以爲らく己を慢すと。遂に不合にして棄て去る。

克賓出院「會元十一」興化、克賓維那に謂つて曰く、「汝久しく唱導の師たらず。」賓曰く、「我れ這の保社に入らず。」化の曰く、「爾、會し了つて入らざるか、會し了らずして入らざるか。」賓曰く、「惣べて不與麼。」

① 西堂智藏は馬祖の法嗣。
② 海。百丈懷海なり、馬祖の衣鉢を嗣ぐ。
③ 脱體。有りのまま、少しも隠すことなく丸出しにすること。
④ 龐居士。馬祖に參ず、名居士なり。
⑤ 草草。草率簡略なり、そそつかしきなり、早合點なり。
⑥ 靈臺重顯、雲門宗の中興と稱せらる。語録あり、祖集に云ふ。

① 大原の孚。雪峰の嗣にして、鼓山とは同參たり。
② 勘過。勘破とも云ふ、一切事物の真相を究めて之を看破ること。
③ 老凍膿。老羸爲すなきものを罵りたる語、すたれもの、はなたれ爺などの意なり。
④ 秀鏡面。圓通法秀を云ふ、上卷秀名鉄壁の章參照すべし。但し彼處には天衣義懷の嗣となす、或は別人ならんか。
⑤ 時に見えず。時時の伺候か缺けるを云ふ。

化、便ち打して曰く、「克賓維那、法戰勝たす。罰錢伍貫、鉞飯を一堂に設く。」次の日、興化、堂に入る、白槌して曰く、「克賓維那、法戰勝たすんば、飯を喫することを得ざれ。」即便ち院を出づ。賓、後に出世して、大行山に住し、興化に嗣ぐ。

池陽百問

〔事苑第五〕

〔普燈三〕

隨州大洪第一世報恩禪師、嘗て百問を設けて以て學者に問ふ。其の略に曰く、「直饒ひ百千劫作る所の業を忘れず、甚麼としてか一に南無佛と稱ふれば、罪河沙劫を滅す。」又此の○相を作りて曰く、「森羅萬象、總べて其の中に在り、具眼の禪人、請ふ試に甄別せよ。」

佛陀三勸

〔傳燈十四〕

鳳翔府法門寺の佛陀和尚、常に一串の數珠を持ち、三種の名號を念す。曰く、「一に釋迦、二に元和、三に佛陀、自餘は是れ何の 椀隨丘ぞ。」一個過ぎ終つて後始む、事迹常に異なり。時の人測るべからず。

天然割草

〔傳燈十四〕

前の 丹霞耳を掩ふの處の如し。

提婆投針

〔會一〕

提婆菩薩、執師子國より來りて、論難を求む。

●唱導の師。宗旨を提唱擧揚して、衆生を誘導教化する人、即ち宗師家の位のこと。
●保社。一本には「保任」に作る。

●罰錢。罰金なり、叢林に於て輕微の罪過を犯す者に出さしめたるもの。罰錢、罰香、罰油等のことあり。この以下の文は、原本非常の誤り多し、會元九か参照して訂正す。

●饑飯。五目飯の類、玉露に饑を以て飯に澆ぐとあり。
●白槌。槌を撃つて事を告ぐるなり。

●椀隨丘。底のぬけた椀のこと。

●丹霞。名は天然。

●提婆。西天の第十五祖迦提婆婆。

●雙猿。龍樹のこと、西天の第十四祖。

●經行。坐禪の間歩行して、以

龍猛の門に造る、龍猛素より其の名を知る。遂に鉢に満てて水を盛り、弟子をして持ち出でて之を示さしむ。提婆、水を見て黙して針を投ず、弟子將ち還る。龍猛深く嘉嘆して曰く、「水の澄める、以て我が徳に方ふ、彼れ來りて針を投じ、以て其の底を窺む。斯くの如き人は、以て玄議の道を論すべし。」

藥山持嘯

〔石頭迂法嗣〕

藥山、一夜、山に登りて、經行す。忽ちに雲開けて月を見て、大嘯一聲す。濃陽の東九十里、許に應ず、居民盡く東家と謂へり。明晨に迭に相推問して、直に藥山に至る。

徒衆の曰く、「昨夜和尚、山頂に大嘯す」と。李翺、詩を贈りて曰く、「幽居を遷得して野情に愜へり、終年送なく亦迎もなし。有る時は直に孤峯頂に上つて、月下雲を披いて嘯くこと一聲。」

般若狂吟

師備果子

〔會元七〕

玄沙、韋監軍と菓子を喫す。韋問ふ、「如何なるか是れ。」日に用ひて知らざる。師、菓子を拈起して曰く、「喫せよ。」韋、菓子を喫し了りて再び之を問ふ。師の曰く、「只だ者れ是れ日に用ひて知らず。」

智勤 林檎

〔瀉山法嗣〕

〔傳燈十七〕

僧、靈雲に問ふ、「如何なるか是れ西來意。」雲曰く、「井底に林

て心身を調ふること。
●許。一本には此の字なし。
●長。一本には「辰」に作る。
●李翺。朗州の刺史。上卷李翺問道の章参照。
●偈。一本には「伎」に作るも、會元五、傳燈十四によつて改む。
●古人。百姓は日に用ひて相知らすの語あり。
●智勤。靈雲の諱。

橋を種う。」

佛果漱口

婆子點心

傳燈十五

徳山は簡州周氏の子なり、幼歳にして出家す。年に依りて受具し、精しく

律藏を究む。性相の諸經に於て旨趣を貫通す。常に金剛經を講す、時に之を周金剛と謂ふ。嘗て同學に謂つて曰く、「一毛、海を呑んで海の性虧くること無く、纖芥、鋒に投ず。鋒利にして動かす、學と無學と唯だ我れ知る焉。」後に南方禪席頗る盛なりと聞いて、師の氣不平なり。乃ち曰く、「出家の兒、千劫に佛の威儀を學び、萬劫に佛の細行を學ぶとも成佛を得ず。南方の魔子、敢て直指人心、見性成佛と言ふ、我れ當に其の窟穴を搜し、其の種類を滅し、以て佛恩を報すべし。」遂に青龍の疏鈔を擔ふて蜀を出で、滎陽に至る。路上に一の婆子の油餅を賣るを見る、因つて肩を息めて餅を買ふて點心せんとす。婆、擔を指して曰く、「這箇は是れ甚麼の文字ぞ。」師曰く、「青龍の疏鈔」と。婆曰く、「何經をか講する。」師の曰く、「金剛經」と。婆云く、「我れに一間あり、爾若し答へ得ば點心を施與せん、若し答へ得ずんば且く別處に去れ。金剛經に道く、「過去心も不可得、現在心も不可得、未來心も不可得」と。未審し、上座那箇の心

①傳燈十五。一本には「傳燈十七」に作る。而るにこの文は會元七の師の傳の文に依りしなり。

②性相の諸經。唯識宗のこと。性は諸法の本體實性、相は諸方の外形狀相なり、此れを明かにせるものは即ち唯識宗の教義なり。

③點心。定まりたる食事の間に物を食ふこと。

④金剛經一、體同觀分第十八に出づ。

をか點せん。」師、語なし、遂に龍潭に往く。蠱毒之郷「傳燈十七」僧、曹山に問ふ、「學人、十二時中如何が保任せん。」山の曰く、「蠱毒の郷を経るが如くせよ、水も一滴を霑著することを得ず。」荆棘之林「會元十五」僧、藥山に問ふ、「學人、郷に歸らんと擬する時如何。」山曰く、「汝が父母、徧身紅爛して、臥して荆棘の中に在り、汝何れの所にか歸らん。」僧曰く、「恁麼ならば即ち歸り去らじ。」山曰く、「汝却つて須らく歸り去るべし、汝若し郷に歸らば、我れ汝に箇の休糧方を示さん。」僧曰く、「便ち請ふ。」山曰く、「二時上堂して一粒の米を咬破する」とを得ざれ。」

本寂滲漏「洞山法嗣」曹山、三種の滲漏。其の詞に曰く、「一には見滲漏。謂く、機、位を離れず、毒海に墮在す。二には情滲漏。謂く、智常に向背、見處偏枯なり。三には語滲漏。謂く、體妙にして宗を失す、機終始に暗し。學者の濁智流轉、此の三種を出でず。」

克符 料揀「臨濟法嗣」會元十一「臨濟初め河北に至りて住院す。善化、克符の二上座を見て、乃ち謂つて曰く、「我れ此に黃檗の宗旨を建立せんとす、汝且く我れを概ぐることを成せ。」二人珍重

をを得ざれ。」

をを得ざれ。」

をを得ざれ。」

をを得ざれ。」

をを得ざれ。」

をを得ざれ。」

をを得ざれ。」

をを得ざれ。」

をを得ざれ。」

をを得ざれ。」

をを得ざれ。」

をを得ざれ。」

をを得ざれ。」

をを得ざれ。」

をを得ざれ。」

をを得ざれ。」

をを得ざれ。」

をを得ざれ。」

をを得ざれ。」

して下り去る。三日の後、普化却つて上來して問ふ、「和尚三日の前、甚麼をか説く。」①濟、便ち打す。三日の後、克符上來して問ふ、「和尚前日、普化を打して什麼をかせん。」②濟亦打す。晩に至りて小參に曰く、「有る時は、人を奪ふて境を奪はず、有る時は、境を奪ふて人を奪はず。有る時は、人境兩ながら俱に奪ひ、有る時は、人境俱に奪はず。」僧有りて問ふ、「如何なるか是れ奪人不奪境。」③濟の曰く、「煦日發生して地に鋪く錦、嬰兒髪を垂れて白きこと絲の如し。」④如何なるか是れ奪境不奪人。」⑤濟の云く、「王令已に行はれて天下に徧し、將軍塞外に烟塵を絶す。」⑥如何なるか是れ人境兩俱奪。」⑦濟の曰く、「井汾、信を絶し、獨り一方に處す。」⑧如何なるか是れ人境俱不奪。」⑨濟の云く、「王、寶殿に登れば、野老謳歌す。」⑩克符頌す、「奪人不奪境、緣自ら請訛を帯ぶ。玄旨を求めんと擬欲すれば、思慮反つて責む慶。驪珠光燦爛、蟾桂影、婆娑、靦面に差互無し、還つて應に網羅に滯るべし。」⑪奪境不奪人、言を尋ねて何れの處か真ならん、禪を問へば禪是れ妄、理を究むれば理親に非ず、日照して寒光滌し、山遙にして翠色新なり。直饒ひ玄に會得するも、也た是れ眼中の塵。」⑫人境兩俱奪、從來正令行す、佛と祖とを論せず、

① 人と境。人とは能觀の主、境とは所觀の物、即ち心と物、主觀と客觀となり。
 ② 濟。一本には濟の上に「臨」の字あり。
 ③ 井汾絶信。井汾は共に州名なり。唐の吳元濟なる者、蔡州城に據り、井汾二州を押取して、命に従はず、亦信を通ぜずと。
 ④ 請訛。錯雜して分解し難きと。
 ⑤ 蟾桂。桂月のこと。
 ⑥ 婆娑は舞ふ貌。又一本には婆を「婆」に作る、誤なり。
 ⑦ 吹毛劍。支那に於ける名劍の名、刃の上に毛を覆きて之を吹けば、毛は兩斷せらると云ふ。
 ⑧ 木に値ふ首。首龜浮木に値ふの喩。
 ⑨ 碧落。天のこと。
 ⑩ 後の首山竹篋の話と合せ見るべし。

那ぞ聖凡の情を説かん。①吹毛の劍を犯さんと擬して、還つて木に値ふ首の如し、進前して妙會を求め、特地に精靈を斬る。」②人境俱人奪、思量意徧からず、主賓言異ならず、問答理俱に全し。澄潭の月を踏破し、碧落の天を穿開す。妙用を明むる能はず、淪溺して無縁に在り。」
 佛日體盆
 國師水枕 祖庭事苑に曰く、「未だ出處を見ず。」
 祖心背觸 [會元十七] 黃龍の祖心、室中に常に拳を擧して僧に問うて曰く、「喚んで拳頭と作さば則ち觸す、喚んで拳頭と作さざれば則ち背く、喚んで甚麼とか作さん。」
 道一長短 [南岳讓法嗣] [傳燈六] 僧あり、馬祖の前に四畫を作す、上の一畫は長く、下の三畫は短し。問うて曰く、「一長三短と道ふことを得ず、此の四句の外を離れて、請ふ和尚答へよ。」師乃ち畫一畫して云く、「長短と道ふことを得ず、汝に答へ了んぬ。」

石樓無耳 [石頭法嗣] [會元五] 汾州の石樓、因に僧問ふ、「未だ本來の性を識らず、乞ふ師、方便して指せ。」師の云く、「石樓耳朶無し。」僧云く、「某甲、自ら非を知る。」師の云く、「老僧還つて過有り。」僧曰く、「和尚過甚麼の處に在る。」師云く、「過汝が非處に在り。」僧禮拜す。師使ち打す。眞溪具眼 [曹溪法嗣] 處州の廣利容禪師、初め眞溪に住す、僧あり、來り參す。師、拂子を豎起し、

て云く、「真溪老漢、還つて具眼なり麼。」僧云く、「某甲敢て和尚の過を見ず。」師云く、「老僧、閑梨が手裡に死在す。」僧、手を以て胸を指して便ち出づ。師云く、「閑梨、先師に見え來る。」晩に至りて師茶を喫す。僧、蓋を拈起して曰く、「者箇は是れ諸佛出世邊の事、作麼生か是れ未出世邊の事。」師、手を以て蓋を撥却して云く、「閑梨、老僧が手裡に死在するに至る。」僧云く、「五里の牌は郭門の外に在り。」師云く、「故無く師僧を惑亂す。」僧便ち起つて茶を謝す。師云く、「特に相訪ふことを謝す。」

●閑梨、具には阿閑梨耶とす、梵語なり、譯して軌範、又は正行と云ふ、僧の敬稱。
●未、一本には「來」に作る、誤り。
●頭白齒黃、年老ゆるを寓つて云ふ、よい年をしての意。
●不審し、慈明の答處は、却つて翠岩の夫れに同じ。

可眞點胸「慈明法嗣」。「普燈三」翠岩の可眞禪師、慈明大師に到る。慈明見て便ち問うて曰く、「如何なるか是れ佛法の大意。」可眞曰く、「雲の嶺上に生ずるなく、月の波心に落つる有り。」明曰く、「頭白齒黃にして、猶ほ這の見解を作す。」可眞涙を垂れて指示を求む。明云く、「爾我れに問ふべし。」可眞、前話を以て之を問ふ。明曰く、「雲の嶺上に生ずるなく、月の波心に落つる有り。」即ち其の所に於て頓に大法を明む。翠岩に住す、世推して天下の法窟と爲す。

昌禪擔板

德山招扇「傳燈十六」襄州高亭の簡禪師、初め江を隔てて德山を見て、遙に合掌して呼んで云く、

「不審し。」德山、手中の扇を以て再び之を招く。簡、急に開悟して、乃ち横に趨りて去り、更に回顧せず。後に襄州に法を開き、德山に嗣ぐ。

迦葉利竿「會元二」阿難、迦葉に問うて云く、「師兄、世尊金襴の袈裟を傳ふる外、別に何物をか傳ふる。」迦葉、阿難と召ぶ。難、應諾す。葉云く、「門前の利竿を倒却着せよ。」

●利竿、旗ざた、寺院の標幟として建つるもの。或は云ふ、説法の時、之を建てて以て是れあるを示すなりと。
●登對、宮中に登對して陛下に對して法話せるなり。
●乘、一本には、垂に作る、誤なり。
●頗講經論、一本には「棄經論」に作る。

佛光錦帳 佛光無碍禪師、蘇州永安より詔に赴きて、大相國寺の惠林禪院に住す。慧恭皇后、嘗て簾下に登對罷んで、空に乘じて去るを見たまふ。爾より太官の進する所の御膳を以て供養す。復た禪師、所食の餘を取つて、宮に還らしむ。又地錦を以て法衣を製し、自ら禪牌を綴りて之を賜ふて、以て奉法の誠を表す。冬月、紅錦帳子、乃至服飾器皿の類を賜ふ。光、遂に宮中賜ふ所の法衣を以て、回つて法雲の佛照禪師に施す。法雲復た洪州寶峯湛堂和尚に寄與す。書に云く、「地錦の法衣、師弟に與ふ、先師の道を行せよ。」湛堂、寂を示す。山門に留めて今に至るまで猶ほ存せり。

祐國金襴

清終海島

亮隱西山「會元三」洪州西山の亮座主、頗る經論を講ず、因に馬祖に參す。祖問うて曰く、「見説ら

く、座主、大いに經論を講じ得と、是なりや否や。亮曰く、不^①敢。祖曰く、甚^②麼を將つてか講ずる。亮曰く、心を將つて講ず。祖曰く、心は工伎兒の如く、意は和伎者の如し、争か講じ得ること解せん。亮、聲を抗げて云く、「心既に講じ得ずんば、是れ虚空講じ得ること莫しや。」祖曰く、「却つて是れ虚空講じ得たり。」師、袖を拂つて出づ。祖乃ち召して云く、「座主。師、首を回らす。祖の曰く、「生より老に至る、只だ是れ者箇。」師、豁然として大悟して、遂に禮拜す。祖曰く、「者の鈍根の阿師、禮して作麼かせん。亮、寺に歸つて衆に告げて曰く、「某甲講する所の經論、人の及び得る無しと謂へり。今日、馬祖に一問せられて、平生の工夫、氷のごとくに釋す。」已にして乃ち西山に隱る、更に消息なし。今に至るまで西山の中に人、往往之を見る。政和中に士人あり、姓は熊、其の名を失へり、世世邦陽の人たり。洪の諸山に遊び、道を翠岩に過ぐ。時の長老、思文は即ち其の郷人なり、二力を遣して轎を荷はしむ。昇いて空相に至る、經る所の林壑、隱翳す。忽ち一僧を觀る、貌古り神清く、龐眉雪頂なり。葉を編んで衣と爲し、盤石に坐す。壁間に佛圖澄の像を畫くが如し。心に其の異人なるを疑ふ。自ら惟らく、亮公西山に隱る、恐らくは或は是れならんと。③ 跟踏して問うて曰く、「是れ亮公なること莫しや否や。」僧、手を以て東に向つて指

①不^①敢。謙遜の辭、どう致しにしてなどの如し。
 ②往往。一本には「仁仁」に作る。
 ③政和。宋の徽宗の時の年號。
 ④二力。二人の力者。
 ⑤佛圖澄。師子覺と譯す、西域の人なり、晉の懷帝の時、支那に來る、葉を受くるもの常に數百人と。
 ⑥跟踏。踵む貌。

す。熊、手に隨つて回顧して、僧の所在を失す、時に小雨新に霽れたり。熊、其の坐處を撫づるに石猶ほ温なり。回顧躊躇して、大息して曰く、「風縁厚からず、遇ふて猶ほ遇はざるがごとし」と。大道松妖。「汾陽法嗣」。「僧寶傳下」泉大道、保真庵に住す。蓋し衡湘の險絶なる處に至りて、夜、地に祝融峯の下に坐す。大蟒有り、之を盤繞す。泉、衣帯を解きて其の腰に縛ひつく。中夜に見えず。明日策を杖いで獨山之を尋ねれば、衣帯枯松の上に纏はる。蓋し松の妖なり。黃龍赤斑。「傳燈二十一」福州鼓山の智岳了宗大師、鄂州の黃龍に至りて問うて曰く、「久しく黃龍と響く、到り來れば只だ赤斑蛇を見る。」黃龍の曰く、「汝只だ赤斑蛇を見て且つ黃龍を識らす。」宗の曰く、「如何なるか是れ黃龍。」曰く、「滔滔地。」宗の曰く、「忽ちに金翅鳥の來るに遇はば、又作麼生。」曰く、「性命存し難し。」宗曰く、「恁麼ならば即ち他に吞却せられん。」曰く、「開梨が供養を謝す。」

⑦妖。一本には「天」に作る。
 ⑧金翅鳥。鳥類の王にして龍を取つて食ふと。
 ⑨度牒。出家を許可する官書。

黃牛拒戒。「會元十」政黃牛は錢塘の人なり、餘杭功臣山に住す。幼にして孤なり、童子と爲つて卓識あり、詞皆人の意表に出づ。其の師人に稱す。大檀越ありて、之を奇として度牒を以て之に施す。跪きて捧げ謝して受けず。其の師、故を問へば、「恩輕しく受くべからず、彼れ我れを知る者に非ず、特に師の言を以て百千を一の童子に施す。其の終身を保つに、能く物を施すとも報を責

めざらんや。如來世尊の大願度生、則ち慈應有り、今の妙法蓮華經是れなり、當に節を折つて誦持すべし。恩併せて一に歸す、義に於て當れりと爲す。師是れより益之を奇しむ。年八十にして、果して其の志を以て大僧となり、游方して道を問ふ。三十年にして乃ち罷む。

師子遇姦 「會元一」 端師子は 錢穆父、官に赴く。浙東に之を見て約すらく、明日飯せんと。端泰明ほひ獨り往きて、雨を避けて、道傍の人家に入る、幼婦出て迎ふ。俄に其の夫至る、詭り逐ふて、竟に羅卒の爲に收へらる。穆父の吏、客を速いで、之を見て故を問へば、曰く、「煩はしくとも聲を錢公に寄せよ、本來齋に赴く中途、奸情事發す、請ふ自ら飯せよ。」穆父之を聞きて、驚き且つ笑ふ。客を顧みて曰く、「此の僧胸中に一點の疑事なし。」

石頭路滑 「青源思法嗣」 「會元三」 鄧隱峰、馬祖を辭す。祖云く、「什麼の處にか去る。」峯云く、「石頭に去る。」祖云く、「石頭路滑かなり。」峯云く、「竿木身に隨ふ、場に逢ふて戲を作す。」遂に石頭に到る。繩床を繞ること三匝、錫を振うて立つて云く、「是れ何の宗旨ぞ。」頭の云く、「若天蒼天。」峯語なし。回りて祖に舉似す。祖曰く、「更に去つて他に問へ、他の語有るを待つて、汝便ち嘘す。」

五祖機峻 「普燈十一」 斬州五祖の法演禪師、海會より東山に遷る。太平の佛鑑、龍門の佛眼の三人、山頭に詣りて省觀す。祖、着舊主事を集めて、湯菓を備へて夜話す。祖、佛鑑に問ふ、「舒州熟すや否や。」對へて曰く、「熟す。」祖曰く、「太平熟すや否や。」對へて曰く、「熟す。」祖曰く、「太平熟すや否や。」對へて曰く、「熟す。」祖曰く、「諸莊共に稻を收むること多少。」佛鑑、籌慮する間、祖、色を正しくして聲を厲して曰く、「汝濫りに一寺の主と爲る、事巨細となく悉く究心せんことを要す。常住の出計は一衆の係る所、汝猶ほ知るとなし、其の他の細務言はざるに見つべし。山門の執事は因を知り果を識り、師翁の若く慈明祖師を輔けん乎。汝思はずや、常住の物重きこと山の如きかを。」蓋し演祖尋常、機辯峻捷なることは是の如し。

明招虎尾 「羅山道閑法嗣」 「會元十三」 明招、疎山に問ふ、「虎、七子を生む、第那箇か。」尾巴な

- ①ここに「會元一」とあるも誤なるべし。
- ②端師子。中卷推倒回頭、總翻不托の章を見よ。
- ③錢穆父。人の名。
- ④竿木。又干木に作る、自由自在に飛び廻ることを得るために用ふる三尺許の棒なりと、一説には盜賊の用ふる探り棒とも云ひ、又拄杖とも云ふ。
- ⑤蒼天。かなしい哉。
- ⑥去。一本には「云」に作る。
- ⑦嘘。字彙に曰く、「吹なり、又氣を出すに急なるを吹と曰ひ、緩きを嘘と曰ふ。」

- ①三。佛果圓悟、佛鑑、佛眼の三人は、五祖下の後傑にして、世に三佛と稱す、今三人と云ふも、只だ二人の名を誦す、或は佛果の名を遺したるものか。
- ②常住。叢林に於て會計其他の事務を執る所。
- ③師翁。楊岐方會を指す、楊岐は慈明に師事して、勤苦を揮らす、金穀を典りて能く其の師を輔弼せり。
- ④機辯。機鋒辯舌の略。
- ⑤尾巴なし。巴は鼻なり、即ち頭も尾もなきなり。

ること二聲せよ。」峯去つて前に依つて問ふ。石頭猶も嘘すること兩聲、峯又語なし。回つて祖に舉似す。祖云く、「汝に向つて道ふ、石頭路滑かなりと。」馬祖、丹霞に問ふ、「甚麼の處よりか來る。」霞曰く、「石頭。」祖曰く、「石頭路滑かなりと、還つて汝を。」隨倒すや。「霞曰く、「若し隨倒せば即ち來らず。」

山云く、「第七箇尾巴無し。」

老宿鼠糞 「傳燈二十七」 昔老宿有り、一夏並に師僧の爲に説話せず。僧

有り、自ら歎じて曰く、「我れ只だ與麼に空しく一夏を過ぐ、敢て和尚の

佛法を説くを望まず、正因の兩字を聞くことを得ば、亦得てん也。」老

宿之を開きて曰く、「閑梨、誓速なること莫れ、若し正因を論せば、

一字も也た無し」と。恁麼に道ひ了つて、乃ち齒を扣くこと三下して曰

く、「適來端無く、與麼に道ふ。」隣房の僧、聞いて乃ち曰く、「好一錢

の糞、兩顆の鼠糞に汚却せらる」と。

法演四戒 佛鑑和尚、初め舒州太平の請を受けて、五祖に禮辭す。祖曰く、

「大凡そ住院、己戒と爲る者四あり。第一には、勢使ひ盡すべからず。

第二には、福受け盡すべからず。第三には、規矩行じ盡すべからず。第

四には、好語説き盡すべからず。何故ぞ、好語説き盡せば、人必ず之を

易んす。規矩行じ盡せば、人必ず之を繁なりとす。福若し受け盡せば、

縁必ず孤なり。勢若し使ひ盡せば、禍必ず至る。」鑑、再拜して服膺して退く。

守初三頓 「雲門法嗣」 「傳燈二十三」 洞山の守初、雲門に詣る。門問ふ、「近離何れの處ぞ。」對へて

曰く、「查渡。」又問ふ、「夏、何れの處にか在りし。」對へて曰く、「湖南の報慈。」又問ふ、「幾時か離

る。」對へて曰く、「八月二十五。」門云く、「汝に三頓の棒を放す。」山罔然なり。良久して又問を申べ

て曰く、「適來の祇對、過有るを見ず。乃ち棒を賜ふことを蒙る、實に曉らざる所なり。」門、呵して

曰く、「飯袋子、江西湖南、便ち爾り、商略す。」山其の旨を悟りて曰

く、「他日正に入煙なき處に於て、一粒の米を蓄へず、十方の僧に飯せし

むべし。」即日辭し去る。

成禪一喝 「野錄上」 淨因の成禪師、法眞・圓悟・慈受、并に十大法

師と同じく太尉陳公良弼が府第に齋す。時に徽宗、私に幸して其の法會

を観る。善華嚴といふもの、衆に對して諸禪師に問うて曰く、「吾が佛

教を説く、小乗より圓頓に至りて、空有を掃除し、獨り圓頓を證し、

然る後、萬德莊嚴するを、方に名けて佛となす。而るに禪宗は一喝を以

て、凡を轉じて聖と成す、諸經論と相違背するに似たり。今一喝若し能

く五教に入れば、是れを正説と爲す、若し能く入らずんば、是れを邪

説と爲す。諸禪師、成を顧みる。成の曰く、「法師所問の如きは、三大禪

師の酬ゆるに足らず、淨因の小長老、以て法師をして惑無からしむべ

①傳燈二十七と會元六とに載する兩書の文を折衷せしものなり、多少の異同あり。

②正因。因を正因、緣因の二に分つ、涅槃經に出づ。三因佛性(正因佛性、了因佛性、正因佛性)の一。

③亦得。一本には此の二字なし。

④聞之。一本には「聽聞」に作る。

⑤悲擊なり。

⑥三下。一本には此の二字なし。

⑦隣房僧問。一本には「隣壁有老僧問得」に作る。

⑧錢。一本には「釜」に作る。

⑨安居なり。

⑩放。罪有りて刑せざるなり。

⑪飯袋子。罵る語、殺演しなり。

⑫便爾。此四字は傳燈二十三、會元十五の師の傳には、「便恁麼去」又は「與麼去」とあり、又一粒米の次に「不種一莖菜」とあり、又十方僧は「十方の往來」接待して云云とあり。

⑬野錄。羅湖野錄なり。

⑭淨因。東京に在り、宣和の初に住す。

⑮成。彌庵繼成は智海平に嗣ぐ、平は大滬詩に、詩は翠岩眞に、眞は慈明圓に嗣ぐ、治父道川の師なり。

⑯法眞。名は守一、慈受は名深、

し。成、善と召ぶ。善、應諾す。成の曰く、「法師の所謂、愚法小乗教とは乃ち有の義なり、大乘始教とは乃ち空の義なり、大乘終教とは乃ち不有空の義なり、大乘頓教とは乃ち即有即空の義なり、一乘圓教とは乃ち空にして有ならず、有にして空ならざるの義なり。我が一喝の如きんば、惟だ能く五教に入るのみに非ず、百工伎藝諸子百家に至るまで、悉皆能く入る。」成、乃ち喝一喝して、善に問うて曰く、「還つて聞かや。」善の曰く、「聞く。」成の曰く、「汝既に聞く、則ち此の一喝是れ有なり、能く小乗教に入る。」成、須臾にして又善を召して曰く、「還つて聞かや。」曰く、「聞かず。」成の曰く、「汝既に聞かず、則ち適來の一喝、是れ無なり、能く始教に入る。」成又善を顧みて曰く、「我れ初め一喝、汝既に有と道ふ、喝久しうして聲銷し、汝復た無と道ふ。無と道ふときは則ち元初より實に有り、有と道ふときは則ち今に實に無し。不有無、能く終教に入る。」成又曰く、「我れ一喝あるの時、有是れ有に非ず、無に因るが故に有なり。一喝なきの時、無是れ無に非ず、有に因るが故に無なり。即有即無、能く頓教に入る。」成又曰く、「我が此の一喝、一喝の用を作さ

- 共に圓照本の副子なり。
- 善華嚴。賢首の宗の雄者なり。
- 圓頓。四教、頓教共に大乘なり。
- 圓頓。一本には「眞常」に作る。
- 禪宗以一喝。一本には「禪師一喝」に作る。
- 五教。釋尊一代の教説を五種に判別したるもの、淺より深に進むなり。賢首の説によれば、小乗教(阿含)、大乘始教(解深密)、大乘終教(初伽、勝鬘)、頓教(維摩)、圓教(華嚴)となす。
- 愚法。一本には「佛之」に作る。
- 一本には「不空而不有、不有不空義也」に作る。
- 一喝。一本には「一喝喝」に作る。
- 頓教。一本には「終教」に作る。

す。有無及ばず、情解俱に忘す。有と道ふの時、纖塵も立せず、無と道ふの時、横に虚空に徧し。即ち此の一喝、百千萬億喝に入り、百千萬億の喝、此の一喝に入る。是の故に能く圓教に入る。善、覺えず、身座を起つて成の前に再拜す。成、復た善の爲に曰く、「唯だ一喝のみ然りとするにあらず、乃至語默動靜、一切時、一切處、一切物、一切事、理に契ひ機に契ひ、周遍して餘すことなし。」是に於て、四衆歡喜して、未だ聞かざる所を聞く、龍顏大いに悦ぶ。

太宗十問 (會元)

太宗皇帝、一日相國寺に幸す。僧の看經するを見

て、問うて曰く、「是れ甚麼の經ぞ。」曰く、「仁王經。」帝の曰く、「既にして寡人の經、甚に因つてか却つて卿が手裡に在る。」僧、對なし。「雪竇代つて曰く、「皇天親無し、唯だ德是れ輔く」と。」開寶塔に幸す。僧に問ふ、「卿は是れ甚人ぞ。」對へて曰く、「塔主。」帝の曰く、「朕が塔、甚麼としてか卿、主たる。」僧、對なし。「雪竇代つて曰く、「合國咸知る。」一日、因に僧、朝見す。帝、問ふ、「甚れの處よりか來る。」對へて曰く、「廬山の臥雲庵。」帝の曰く、「朕、聞く、臥雲深き處、天に朝せずと。甚としてか此に到る。」僧、對なし。「雪竇代つて曰く、「至化を逃れ難し」と。」僧、入對する次で、

- 一本には此の「百千萬億喝」の五字なし。
- 故。一本には此の字なし。
- 四衆。佛の四種の弟子、比丘、比丘尼、優婆塞(清信士)、優婆夷(清信女)のこと、初の二は出家、後の二は在家なり。
- 太宗皇帝。宋の第二代の主なり。
- 仁王經。仁王般若波羅密多經の略。
- 寡人の經。帝自ら仁王を以て任す、故に斯く云ふ。
- 開寶塔。太宗皇帝の造る所、塔の成る前後八年、費す所億萬と。

奏して曰く、「陛下還つて記得すや。」帝の曰く、「甚れの處にか相見し來る。」奏して曰く、「靈山に
たび別れて、直に如今に至る。」帝の曰く、「卿、何を以てか驗と爲す。」僧、對なし。「雪竇代つて云く、
「貧道得得として來る」と。」京寺回祿して、藏經悉く煨燼と爲る。僧、宣賜を乞はんと欲す。召して
問ふ、「昔日、摩騰燒かず、如今甚としてか却つて燒けたる。」僧、對なし。
「雪竇代つて云く、「陛下付屬を忘れず」と。」帝嘗て神人を夢む。報じて
曰く、「請ふ、陛下菩提心を發せんことを。」因に早朝、左右街に宣問す、
「菩提心作麼生か發せん。」街、對なし。「雪竇代つて云く、「實に謂へり、
古今聞くこと罕なり」と。」智寂大師、三界の圖を進む、帝問ふ、「朕、
那一界の中にか在る。」寂、對なし。「保寧勇代つて云く、「陛下何れの處に
か尊と稱せざる」と。」一日朝罷んで、帝鉢を擎げ、丞相王隨に問うて曰
く、「既に是れ、大庾嶺頭提不起、甚麼としてか却つて朕が手裡に在る。」
隨、對なし。

耽章 寶鏡 「洞山法嗣」 「僧寶傳」 曹山の寶鏡三昧、其の詞に曰く、

「是の如きの法、佛祖密に付す、汝今之を得たり、其れ善く保護せよ。
銀盃に雪を盛り、明月に鷺を藏す、之に類するに齊しからず、混すれば

①靈山。靈鷲山の略。耆闍崛山の譯名、釋尊說法の地。
②貧道。僧侶が自己を卑下して云ふ語。
③摩騰燒かず。摩騰等佛經を將來す、道士等之を惡んで法の優劣を争ひ、遂に佛經を火中に付す、而も摩騰、法力を以て能く佛經を燒かさざるを得たりと云ふ。
④三界。慾界、色界、無色界なり。
⑤大庾嶺。六祖能大師既に五祖の衣鉢を受けて、夜ひそかに去る、大衆之を知りて之を追ふ、明上座なるものあり、遂に大庾嶺に於て、祖に追及す、祖、石上に衣鉢を置きて曰く、「衣は信を表す、力を以て争ふべきにあらず」と、明上座之を取らんとするに、石上より提げ起すこと能はず、於茲大に前非を悔い、罪を謝して六祖に従つて道か修む。
⑥耽章。曹山の諱。
⑦銀盃盛雪。明月藏鷺。同中に異あるを示すの語なり。
⑧來機。愚人のこと。即ち師家の處に來りて問話する機類。
⑨窠臼。土中の穴のこと。身動きのとれぬ所。
⑩願符。思慮決せず、進退定まらざること。
⑪必。此の字他書には「不」の字に作る、從つて「物を得ず」と讀みならはせり、一般流布のものとも異なれども、今は原本に従ふ。其の他讀方も所々他に異なる處あれども、多く原本の讀方を其の儘に存せり。

即ち處を知る。意言に在らず、來機亦赴く、動すれば、窠臼を成し、
差へば、願符に落つ。背觸俱に非なり、大火聚の如し。但だ文彩に形る
れば、即ち染汚に屬す。夜半正明なり、天曉けて露れず、物の爲に則を
作し、用つて諸苦を抜く。有爲に非すと雖も、是れ語無きに不ず、寶鏡
に臨んで、形影相視るが如し。汝是れ渠にあらず、渠正に是れ汝、世の
嬰兒の、五相完具して、不去不來、不起不住、婆婆和和、有句無句、終に
必ず物を得るが如し。語未だ正しからざるが故に、重離六爻、偏正
回互す。疊んで三と爲す、變じ盡きて五と成る。莖「徒結の反、五味
を具ふる草なり。」草の味の如く、金剛の杵の如し。正中妙挾、敲唱
雙へ擧ぐ、宗に通じ塗に通ず、挾帶挾路、錯然として則ち吉なり。犯忤
すべからず、天真にして妙なり、迷悟に屬せず、因縁時節、寂然として
照著す。細にして無間に入り、大にして方所を絶す、毫忽も差へば、律
呂に應せず。今、頓漸有り、宗趣を立するに縁る、宗趣分る矣、即ち是
れ規矩なり。宗通じ趣極るは、眞常の流注、外寂に中搖ぐ、駒を係ぎ鼠
を伏す。先聖之を悲んで、法の檀度と爲る、其の顛倒に隨つて、繻を以

て素と爲す、顛倒相滅して、背心自ら許す。古轍に合はんと要せば、請ふ前古を觀よ。佛道成するに垂んとして、十劫に樹を觀ず、虎の缺の如く、馬の鬃あるが如し、下劣有るを以て、寶几珍御、驚異有るを以て、驚奴白牯、弄巧力を以て、射て百歩に中つ、箭鋒相直る、巧力何を預らん。木人方に歌ひ、石兒起つて舞ふ、情識の到るに非ず、寧ろ思慮を容るべけんや。臣君に奉じ、子父に順ず、順ならざれば孝ならず、奉せざれば輔に非ず。潛行密用、愚の如く魯の若し。但だ能く相續するこ

南衙題辭

新開鷄鴨 「巴陵新開顯慶大師」。傳燈二十二。僧、巴陵に問ふ、「祖意教意、是れ同か是れ別か。」陵曰く、「鷄寒うして樹に上り、鴨寒うして水に下る。」

石門鈞錐

「首山念法嗣」。會元十一。石門の蕙聰慈照禪師、上堂、「十五日已前は諸佛生じ、十五日已後は諸佛滅す。十五日已前は諸佛生ず、爾我が這裡を離るることを得ず。若し我が這裡を離るれば、我れに鈞子有り、

り、偏を鈞せん。十五日已後は諸佛滅す、偏我が這裡に住することを得ず、若し我が這裡に住せば、我れに錐子有り、偏を錐せん。且く道へ、正當十五日、鈞を用ふるが即ち是、錐を用ふるが即ち是。遂に偶有り、曰く、「正當十五日、鈞錐一時に息む。更に如何と問はんと擬せば、頭を回せば日又出づ。」

無餘喝道

萬卦頌詩

蚊鐵鐵牛

「會元九」泉州招慶院道匡禪師、僧問、「如何なるか是れ西來意。」師曰く、「蚊子、鐵牛に上る。」瀟山一日、雲岩に問ふ、「聞く、汝久しく樂山に在りと、是なりや否や。」岩云く、「是。」山曰く、「樂山大人の相如何。」岩の云く、「涅槃後に有り。」山曰く、「涅槃後有り、作麼生。」岩云く、「水灑げども著かず。」雲岩却つて瀟山に問ふ、「百丈大人の相如何。」山曰く、「巍巍堂堂、焯焯煌煌、聲前聲に非ず、色後に非ず、蚊子鐵牛に上る、汝背を下す處なし。」

鋸解秤槌

「會元十二」僧、大愚に問ふ、「如何なるか是れ佛。」愚曰く、「鋸解秤槌。」龐蘊是非 「傳燈八」龐居士、本溪和尚に問ふ、「丹霞、侍者を打つの意、何れの處にか在る。」溪曰く、「大老翁、人の長短を見ること有り。」士曰く、「我れ師と同參なるが爲に、方に敢て借問す。」溪

讀者諒之。
① 重離六爻。易の離の卦の重りたるもの。
② 偏正。偏は差別の現相を云ひ、正は平等の理體を云ふ。
③ 荜草。五味を具ふる草なり。
④ 金剛杵。印度古代の武器、又五胡杵とも云ふ、堅固不壞にして、能く物を破砕するが故に金剛の二字を冠す。
⑤ 頓漸。漸は漸前に修行して、諸種の階級を経て、佛果に上ること、頓は一超に佛地に入ること。佛敎の二門。
⑥ 係胸伏鼠。外寂なれども内痛々の意あり。
⑦ 十劫觀樹。法華化城喻品に出づ、大通智勝佛、十劫坐道場云云。
⑧ 驚奴白牯。下等なる動物の意を示す代表語なり。
⑨ 弄。弓の名人、支那の人。
⑩ 一本には「不順於母」に作る。

祖意。敎外別傳の禪。敎意は如來四十九年横一縱説の黃卷赤軸を所依とす。諸宗派。
龐蘊居士。馬祖に參じて宗旨の支奥に達す。

曰く、「若し恁麼ならば頭より舉し來れ、爾と共に商量せん。」士曰く、「大老翁、爾と共に人の是非を説くべからず。」溪曰く、「念翁、年老いたり。士曰く、「罪過罪過。」

清平 豐儉 「翠微 無學法嗣」。「傳燈十五」 頤州清平山令遵禪師、上

堂して曰く、「諸上座、夫れ出家の人は、須らく佛意を會して始めて得べし、若し佛意を會するとは、僧俗男女貴賤に在らず、但だ家の豐儉に隨つて、安樂にして便ち得たり。諸上座、盡く是れ久しく叢林に處り、徧く尊宿に參じて、且く作麼生か佛意を會する。試に出で來つて 大家の商量せよ。空しく氣高きこと莫れ、後に至りて一事成すこと無くして、一生空しく度らん。若し未だ佛意を會せずんば、直饒ひ 頭上に水を出し、足下に火を出して、身を焼き臂を鍊り、聰慧多辯、徒を聚むること一千二千、説法雲の如く雨の如く、天華亂墜することを講じ得とも、只だ箇の邪説と成らん。争か是非を競ひて、佛法を去ること大いに遠きこと 在らん。諸人幸に色身安健なるに値ふて、諸難に値はず、何ぞ妨げん、近前此の工夫を着けて、佛意を體取して好からん」と。

大顛佛光 「石頭迁法嗣」。「事苑四」 韓愈、潮州に至り、大顛禪師の名

を聽きて、累に之を邀ふるに至らず。一日大顛、特に往きて之に調す。愈が曰く、「三び請するに來らず、召さざるに何ぞ來る。」曰く、「三び請すれども來らず、侍郎の爲に召されずして來るを佛光と爲す。」愈曰く、「如何なるか是れ佛光。」顛の曰く、「看よ看よ。」

雪峰火焔 「會元七」 玄沙、因に雪峰、火を指して曰く、「三世の諸佛、

火焔の裡に在りて大法輪を轉す。」沙曰く、「近日王令稍嚴なり。」峯曰く、「作麼生。」沙曰く、「攬奪して市に行くことを許さず。」雲門曰く、「火焔、三世諸佛の爲に説法すれば、三世の諸佛立地に聽く。」

大惠遠僧 「圓悟勤法嗣」。「會元十九」 臨安府徑山の宗 杲大惠普覺禪師、

道法の盛なること一時に冠たり、衆二千餘、皆諸方の 俊又なり。侍郎張公九成亦之に従つて遊ぶ、灑然として契悟す。一日因に議して朝政に及ぶ。師と禍を連ぬ。紹興辛酉五月、衣牒を毀りて衡陽に屏居す。乃ち先徳の機語を哀めて間に與に拈提す。離つて三帙と爲す、目けて正法眼藏と曰ふ。凡そ十年、移りて梅陽に居すること又五年、高宗皇帝

- ① 清平。令遵法系を記すれば、石頭希遷、丹霞天然、翠微無學、清平。
- ② 無學。一本には「凡が」に作る。
- ③ 尊宿。尊は敬稱、宿は長老の義、學徳勝れたる僧のこと。
- ④ 大家。諸人といふ意、大方に同じ。
- ⑤ 商量。問答論議すること、此の語は元と商人の物品を賣買するに當り、其の價を論じ、其の量を請して定むることより轉用したるもの。
- ⑥ 頭上に水を出し足下に火を出す。神通妙用を得るなり、身か焼き臂を鍊るは難行苦行、刻苦精勵するなり。
- ⑦ 天華亂墜。諸天人が説法に感じて天の華を雨らすなり。
- ⑧ 韓愈。文章なり、唐の憲宗の時の人、元和十四年 憲宗佛

- 骨を禁中へ迎へて禮す。愈之を不可として上表す、帝怒りて之を潮州に貶す。愈、大顛と交遊密なり、世之を怪む、於レ茲孟尚書に書を與へく種種に之を誹疏す。書中に曰く、「一老僧あり、大顛と號す、頗る聰明道理を識る」と。
- ① 聽。一本には「聆」に作る。
- ② 玄沙師範。雪峰義存に嗣ぎ、雪峰は徳山宣鑑に嗣ぐ。
- ③ 杲。一本には「果」字に誤る。
- ④ 俊又。かしこき人、優れ人。
- ⑤ 張九成。字は子韶、無垢と號す、大惠に參じて禪旨を極む。官に仕へて禮部侍郎となる。
- ⑥ 衣牒。衣は三衣なり、牒は度牒にして昔時、僧尼となるとき、官より下し與へし許可證なり。師、神臂弓の頌を作る、官之を以て朝廷を諷るとなし、度牒を奪つて衡州に寓す。

特恩もて放されて還る。明年の春、僧伽梨を復す。四方席を虚しうして以て邀ふ、率に就かず。後に朝命を奉じて育王に居す。年を逾えて旨有り、徑山を改む、道俗歎慕初の如し。

寂音遭貶 [真淨文法嗣]。 [僧寶傳十九] 清源の惠 洪覺範、寂音尊者と

號す、崇寧元年、長沙の雲蓋に反る。是の時、陳公瓘瑩中、嶺外に

謫せらる、偈を以て寄せらる。且た其れが爲に華嚴經を負ふて嶺に入ら

んと欲す。偈に曰く、「大士遊方して興盡きて回る、家山の風月纖埃を絶

す。杖頭多少の閑田地、華嚴を挑取して嶺に入り來る。」師之に和して曰

く、「法に因りて相逢ふて一笑開く、俯して人世を看るに飛埃に過ぎたり。

湖湘嶺外分別することを休めよ、圓寂光の中共に往來す。」其の後、師、

公と遊ぶに坐して、誦を獲たり。

首山竹篋 [風穴沼法嗣]。 [會元十一] 首山、竹篋を拈じて僧に問ふ、「喚んで竹篋と作さば則ち觸

す、喚んで竹篋と作さずんば則ち背く。且く道へ、喚んで甚麼とか作さん。」

玄冥木劍

特。一本には「持」に作る。

僧伽梨。梵語なり、譯して大衣。重複衣とす。九條乃至二十五條の製裝を云ふ。即ち破

されて僧籍に復せるなり。

洪。一本には「供」に作る。誤なり。

崇寧。宋の徽宗の年號。

陳公。徽宗の時襄謙たり、清廉公直を以て知らる。

坐。連坐の略、連坐とは自己は罪なきも、他の犯人に連りて刑を受くるを云ふ。

竹篋。竹製の二尺許りの棒、禪家の手にする道具。

國譯禪苑蒙求卷之下終

禪苑瑤林注卷上

燕京大萬壽寺 無諍德 諫注
少林樂真子 志 明撰

嵩山少林，錯庵志明禪師，字伯昏，雅號樂真子，安州郟氏子，性忽繩墨，外簡朴而內精感，始爲
糠禪四祖，作貫花標月集，有潔首座者，激礪乃雉髮，師香林淨公受具，日夕咨參，咨扣勝靜普
之室，後徹證於東林，嘗懸木槌拭手，謂之槌巾，挂一枴，去留自適，人莫能親疏之，東林遷超化，
衆請補少林，師打籌，自誓長歌而去，歌曰：五乳峯前餅店開，饅頭如斗餅如篩，洛陽城裏多檀
信，隨耳遺簪競作齋，窮跛子，淡澗才，老來因甚舞三臺，拄筇徑上嵩陽道，笑指青山歸去來，挽
留不可，諸方咸仰其高致。

雪堂和尚注禪苑瑤林引

吾萬松老師以無上機讀盡天下書嘗謂余曰記事者必提其要纂言者必鉤其玄韓子之云良有以也嗣子雪堂諫公和尚以玉溪老取樂真禪苑瑤林欲板行之公爲之注釋焉幾六萬言或者恠其繁以師言告之公喝云東風吹落杏花枝箇裡紅香在何處

乙卯年二月二日

龍山居士雁門呂伯

鯤夫書

序

禪苑蒙求錯庵所製錯庵者卽比丘中李瀚王令也此書貫串二千言發明五百事其言辨而載其學涵而博可以爲禪門節事法海聯題使後學省十載之勞成半藏之記公慈悲足見以夫錯庵謂誰乃不搽紅粉拂袖於小林者也

正大乙酉臘前五日

友人幅巾男子楞軒居士題後

禪苑蒙求引

樂真禪師爲初機後學而設也。師以正法眼作文字禪，駢以對偶，諧以韻語，凡五百餘則，以使學者親覽，予且讀且笑曰：師把定要津，不通凡聖，何區區乎？此書無迺爲蛇畫足耶？師曰：子言誠是，雖然童稚無識，未能參叩，使成誦在口，粗知問津，則吾此書不爲助，譬猶教埽雪大使作舞，雖非本色，且要兒孫不墜素業耳。於是啖謝而爲引。

時大正三年正月二十六日

閑居士書

禪苑蒙求卷之上

釋迦七步。〔普曜經〕世尊降生，一手指天，一手指地，周行七步，目顧四方云：「天上天下唯我獨尊。」○和補曰：普曜經云：佛初生，刹利王家，放大智光明，照十方界地，湧金蓮華，自捧雙足，東西及南北，各行於七步，分手指天地，作師子吼聲，上下及四維，能尊我者。

達磨九年。〔傳燈三〕初祖於嵩山少林寺，面壁九年，人莫測之，時謂之壁觀婆羅門。○和補曰：傳燈第三云：師自梁涉魏，至洛陽，少林面壁而坐，經九年，方得二祖傳法。

靈山密付。〔會元一〕世尊在靈山會上，拈華示衆，是時皆默然，唯迦葉尊者破顏微笑，世尊曰：「吾有正法眼藏，涅槃妙心，實相無相，微妙法門，不立文字，教外別傳，付屬摩訶迦葉。」世尊至多子塔前，命摩訶迦葉分座合坐，以僧伽梨圍之，遂告曰：「吾以正法眼藏密付於汝，汝當護持傳付將來。」

少室單傳。〔傳燈三〕傳法諸祖，初以三藏教乘兼行，後達磨祖師單傳心印，破執顯宗，所謂教外別傳，不立文字，直指人心，見性成佛也。○和補曰：傳燈三云：達磨於少林，願惠可，告之曰：「昔如來以正法眼藏，方付迦葉，展轉而至我，我今付汝。」

青原與斧。〔六祖法嗣〕〔會元五〕吉州青原行思禪師，令石頭馳書往南岳讓和尙處，乃云：「回來與汝錙斧子去，石頭到彼便問，不慕諸聖，不重己靈，時如何？」岳曰：「子問太高生，何不向

下問頭曰：寧可永劫沈淪，不求諸聖解脫，便回原曰：返何速乎？頭曰：書亦不達，信亦不通，去時蒙許，錙斧子住山，便請思垂下一足，頭便禮拜，歸南岳住庵。

南岳磨磚。〔會元三〕 懷讓禪師居南岳時，馬祖在彼住庵，日唯坐禪，因往問曰：在此何爲？祖

曰：坐禪，何所圖？曰：圖作佛，讓一日將磚一片於庵前磨，祖曰：磨此何爲？岳曰：要作鏡，祖曰：磨磚豈得成鏡？曰：坐禪豈得成佛？祖曰：如何？岳曰：如人駕車，車若不行，打車即是，打牛即是，祖於是悟旨於言下，遂印心傳法，符西祖之識，馬駒踏殺天下人之語，南宗闢於江西。

大雄創寺。〔馬祖法嗣。傳燈六〕 洪州百丈懷海禪師，一日以禪宗肇自少室，至曹溪已來，

多居律寺，雖云別院，然於說法住持，未合規度，故常爾介懷，乃曰：佛祖之道，欲誕布化元，冀來際不泯者，豈當與諸部阿笈摩教爲隨行邪？遂制叢林清規，禪門獨行，自百丈始，今略叙其大要，偏示後學，令不忘本也。其諸軌度，山門備焉。大雄者大雄山，以居處岩巒峻極，故號之百丈。

百丈開田。〔懷海法嗣。會元四〕 百丈山涅槃和尚，一日謂衆曰：汝等與我開田，我與汝說

大義，衆開田了歸，請說大義，師乃展兩手，衆罔措。

馮仰體用。〔百丈法嗣。傳燈九〕 馮山與仰山摘茶次，馮曰：終日只聞子聲，不見子形，仰遂

撼茶樹，馮曰：子只得其用，不得其體，仰曰：和尚如何？馮良久仰曰：和尚只得其體，不得其用，馮云：放子三十棒，仰曰：和尚棒某甲喫，某甲棒教誰喫？馮曰：放子三十棒，玄覺云：且道，過在甚麼處。

曹洞正偏。〔人天眼目〕 曹洞家有五位君臣，謂：○正中偏，○偏中正，○正中來，○偏中至，○

兼中到。

雲門數句。〔雪峰法嗣。人天眼目〕 韶州雲門文偃禪師，示衆曰：人人自有光明在，看時不

見，暗昏昏作麼生，是諸人自己光明，自代云：厨庫三門，又云：好事不如無，又示衆云：聞聲悟道，見色明心，觀世音菩薩，將錢買胡餅，放下手，元來却是饅頭。○僧問：如何是祖師西來意，

師云：日裏看山。○僧問：如何是透法身句？師云：北斗裏藏身。○僧問：如何是諸佛出身處？師

云：東山水上行。○僧問：如何是正法眼藏？師云：普。○僧問：不起一念，還有過也無？師云：須彌

山。○僧問：如何是啐啄之機？師云：響。○僧問：如何是學人自己？師云：遊山玩水。○僧問：如何

是吹毛劍？師云：祖。○僧問：殺父殺母，佛前懺悔，殺佛殺祖，向什麼處懺悔？師云：露。○僧問：佛

法如水中月，是否？師云：清波無透路。○僧云：和尚從何得？師云：再問復何來？僧云：便恁麼去

時如何？師云：重疊關山路。

臨濟三玄。〔黃檗法嗣。傳燈十二〕 鎮州臨濟義玄禪師曰：夫一句語須具三玄，一玄門須

具三要，有權有用，汝等諸人作麼生會？三玄者：體中玄，玄中玄，句中玄。

世尊良久。〔會元一〕 外道問佛，不問有言，不問無言，世尊良久，外道讚歎云：世尊大慈大悲，

開我迷雲，令我得入，外道去後，阿難問佛：外道有何所證，而言得入？佛言：如世良馬，見鞭影而行。

維摩默然。〔會元二〕 維摩會上，三十二菩薩各說不二法門，文殊曰：我於一切法，無言無說

無示無識，離諸問答，是爲菩薩入不二法門。於是文殊問維摩詰：我等各自說已，仁者當說何等是菩薩入不二門？時維摩詰默然無言。文殊歎曰：善哉善哉，乃至無有文字語言，菩薩真入不二法門。

帝釋插草。〔僧寶傳中〕佛以手指地曰：此處宜建梵刹。天帝釋將一莖草插其處曰：建梵刹竟，佛乃微笑。

布袋乞錢。〔傳燈二十七〕佛祖統紀有傳：明州奉化縣布袋和尚者，未詳氏族，自稱名契此，形裁臞，烏罪反，脰奴罪反，蹙額顴腹，出語無定，寢臥隨處，常以杖荷一布囊，凡供身之具盡貯囊中，入鄞肆聚落，見物則乞，或醃醢魚葷，才接入口，分少許投囊中，時號長汀子布袋師也。有一僧在師前行，師乃拈背一下，僧回頭，師曰：乞我一文錢。曰：道得即與汝一文師放下布囊，叉手而立。

黃檗一掌。〔傳燈十二〕見百丈野狐處。

大愚三拳。〔歸宗常法嗣〕〔傳燈二〕臨濟初在黃檗斷際禪師會中，第一座，勉令問話。濟適上問曰：如何是佛法的大意？黃檗便打。如是三問三回被打，將辭往諸方。第一座告黃檗曰：義玄上座，雖是後生，却甚奇特，來辭和尚，願更垂提誘。來日濟上辭黃檗，指往高安，見大愚。濟到大愚，愚問曰：什麼處來？濟曰：黃檗來。愚曰：黃檗有何言句？濟曰：義玄三度問西來的意，三度蒙賜棒，不知過在什麼處。愚曰：黃檗怎麼老婆心，爲汝得徹，猶竟過在濟於言下。大悟云：元來黃檗佛法無多子。愚怛住濟曰：着尿床鬼子，適道過在什麼處？如今却道黃檗

佛法無多子，偏見箇什麼道理。速道。濟於大愚肋下築三拳。大愚托開云：汝師黃檗非干我事。濟辭大愚回黃檗。檗云：汝回太速生。濟云：祇爲老婆心切，便人事了。侍立次，黃檗云：大愚有何言句？濟遂舉前話。檗云：這大愚老漢待見痛與一頓。濟云：說什麼待？即今便與。隨後便打黃檗一掌。黃檗云：這風顛漢，却來信裏捋虎鬚。濟便喝。檗云：侍者引這風顛漢參堂去。李翱問道。〔傳燈十四〕唐李翱，字習之，參藥山問道。山以手指上下曰：會麼？翱曰：不會。山云：雲在青天，水在鉢，翱乃述偈云：鍊得身形似鶴形，千株松下兩函經。我來問道無餘說，雲在青霄水在鉢。

陳操論禪。〔陳尊宿弟子〕〔傳燈九〕睦州刺史陳操，尚書飯雲門。偃而問曰：儒書卽不問，三乘十二分教自有講師，如何是衲僧行脚事？曰：曾問幾人來？曰：卽今問上座。偃曰：卽今且置。作麼生是教意？曰：黃卷赤軸。偃曰：此是文字語言，作麼生是教意？曰：口欲談辭喪，心欲緣而慮忘。偃曰：口欲談辭喪，爲對有言，心欲緣而慮忘，爲對妄想。作麼生是教意？尚書無以酬之。偃曰：聞公常看法華經，是否？曰：不敢。曰：經曰：治生產業，皆與實相不相違背。且道：非非想天，有幾人退位，又無以酬之。偃呵譏之而去。

靈雲見花。〔馮山法嗣〕〔傳燈十一〕福州靈雲志勤禪師，初在馮山，因見桃花啓悟。迺曰：三十年來尋劍客，幾逢落葉又抽枝。自從一見桃花後，直到如今更不疑。馮山一日曰：從緣得入，永無退轉。後玄沙問曰：諦當甚諦當，敢保老兄未徹在。

香嚴擊竹。〔傳燈十一〕鄂州香嚴智閑禪師，初參馮山，不契辭抵南陽忠國師遺跡，憩焉。一

日因山中芟除草木，以瓦礫擊竹作聲，俄失笑問，廓然自省，乃述偈曰：一擊忘所知，更不假修治，處處無蹤跡，聲色外威儀，諸方達道者，盡言上上機。

沙彌尋思。〔傳燈五〕石頭希遷禮六祖，爲師未受具，屬祖將示滅，遷曰：和尚百年後，希遷當何所依？祖曰：尋思去。及祖順世，遷每於靜處端坐，寂若忘生，第一座問曰：汝師已逝，空坐奚爲？遷曰：我稟遺誡，故尋思爾。座曰：汝有師兄行思在青原，汝當依焉。師言甚直，汝自迷爾，遷遂詣靜居，卽嗣青原之道。

道者竟宿。〔會元一〕五祖弘忍大師者，蘄州黃梅人也，先爲破頭山中栽松道者，嘗請於四祖曰：法道可得聞乎？祖曰：汝已老，脫有聞，其能廣化耶？儻若再來，吾尙可遲汝，迺去行水邊，見一女子浣衣，揖曰：寄宿得否？女曰：我有父兄，可往求之。曰：諾，我卽敢行，女首肯之，遂同策而去。女周氏季子也，歸輒孕，父母大惡，逐之，女無所歸，日傭紡，里中夕止於衆館之下，已而生一子，以爲不祥，因拋濁港中，明日見之，泝流而上，氣體鮮明，大驚，遂舉之，成童隨母乞食，里人呼爲無姓兒，逢一智者，歎曰：此子缺七種相，不逮如來，後遇信大師，得法嗣，化於破頭山。

烏窠吹毛。〔道欽法嗣。會元二〕杭州烏窠道林禪師，因棲樹上，時爲烏窠，有侍者會通，辭去，師謂曰：汝今何往？曰：諸方學佛法去。師曰：若是佛法，吾此間亦有少許，曰：如何是和尙佛法？師於身上拈起布毛吹之，會通便悟。

龍潭滅燭。〔天皇道吾法嗣。傳燈十五〕德山因造龍潭崇信禪師，卽時辭去，龍潭留之，

夕於室外默坐，龍問：何不歸來？山對曰：黑龍潭乃點燭與山，山擬接，龍便吹滅，山乃禮拜，龍曰：見什麼？曰：從今向去，不疑天下老和尚舌頭也。至明日，便發，龍潭謂諸徒曰：可中有一箇漢，牙如劍樹，口似血盆，一棒打不迴頭，他時向孤峯頂上，立吾道在。

字公搖頭。〔會元七〕太原孚上座，徧歷諸方，名聞宇內，嘗遊浙中，登徑山法會，一日於大佛殿前有僧問：上座曾到五臺否？師曰：曾到。曰：還見文殊麼？師曰：見。曰：什麼處見？師曰：徑山佛殿前見。其僧後適閩川，舉似雪峯，曰：何不教伊入嶺來？師聞乃趨裝而邁，初上雪峯，麻院憩錫，因分甘子與僧，長慶稜和尚問：什麼處將來？師曰：嶺外將來。曰：遠涉不易，擔負得來？師曰：甘子甘子，方上參雪峯，禮拜訖，立于座右，雪峯才顧視，師便下，看主事，異日雪峯見師，乃指日示之，師搖手而出，雪峯曰：汝不肯我，師曰：和尚搖頭，某甲擺尾，什麼處不肯？和尚曰：到處須諱却，師不出世，諸方目爲太原孚上座。

居士翹足。

三角禾豆。〔馬祖法嗣。會元三〕潭州三角山德印禪師，僧問：如何是三寶？師曰：禾麥豆，曰：學人不曾，師曰：大眾欣然奉持。

南華稻粟。婆子作齋。〔會元六〕龐行婆入鹿門寺設齋，維那請意旨，婆拈梳子，插向髻後，曰：回向了也，便出去。

甘贊設粥。〔南泉弟子。傳燈十〕池州甘贊行者，入寺設粥，仍請南泉念誦，泉乃白槌曰：請

大衆爲狸奴白牯念摩訶般若波羅蜜多，甘拂袖便出。南泉粥後，問典座：「行者在甚麼處？」座曰：「當時便去也。」泉便打破鍋子。

灌溪劈箭。〔臨濟法嗣〕。〔傳燈十二〕。魏府灌溪志閑禪師，因僧問：「久響灌溪，到來只見漚麻池。」師曰：「汝只見漚麻池，不見灌溪。」僧曰：「如何是灌溪？」師曰：「劈箭急。」

疏山嚙鐵。〔傳燈十七〕。撫州疎山圓照光仁禪師，身相短陋，精辨冠衆，洞山門下，時有嚙鐵之機，激揚玄奧，咸以仁爲能證量者。諸方三昧，可以詢乎矮師叔。

天鉢花開。

九峰麥熟。〔延壽法嗣〕。九峯道詮禪師，僧問：「承聞和尚親見延壽來，是否？」詮曰：「山前麥熟未也。」

亞子延僧。

則天賜浴。〔事苑〕。唐武則天皇后，嵩山老安、北宗神秀，入禁中供養，因澡浴次，宮姬給侍，獨安怡然，無他，后歎曰：「入水始知有長人。」云云。

尙書打毬。〔禪林類聚一〕。王常侍，睦州蹤禪師，一日師問：「今日何故入院？」追王云：「爲看馬打毬，所以來追。」師云：「人打毬，馬打毬。」王云：「人打毬，師云：人困麼？」云：「因師云：馬困麼？」師云：「露柱困麼？」王恤然無對，歸至私第中，夜間忽然省得，明日見師云：「某會信昨日事也。」師云：「露柱困麼？」王云：「困。」師遂許之。

大夫雙陸。〔傳燈八〕。唐陸互大夫，與南泉見八雙陸，遂拈起骰子云：「恁麼不恁麼，只與麼信。」

彩去時如何。泉曰：「臭骨頭十八。」

行者失笑。〔明安玄法嗣〕。〔僧寶傳中〕。雪竇初在大陽玄禪會中，典客與僧夜話，雖黃古今，至趙州栢樹子因緣，爭辨不已，有行者立其傍，失笑而去。客退，雪竇呼至，數之曰：「對賓客敢笑耶？」對曰：「知客有古今之辨，無定古今之眼，故敢笑。」曰：「且趙州意，偏作麼生會？」因以偈對曰：「一兔橫身當古路，蒼鷹繞見便生擒。後來獵犬無靈性，空向枯椿舊處尋。雪竇大驚，乃與結友。」或云：「卽承天宗禪師也。」予謂：聞此，可以想見當時法席之盛也。

陸亘合哭。〔傳燈十〕。陸亘大夫，因南泉示寂，院主問曰：「大夫何不哭？」先師亘曰：「道得卽哭，主無語。」長慶代云：「合笑不合哭。」

大寂吹耳。〔馬祖法嗣〕。〔會元三〕。洪州勸潭惟建禪師，一日在馬祖法堂後坐禪，祖見乃吹建耳兩吹，建起定，見是和尙，却復入定。祖歸方丈，令侍者持一椀茶與建，建不顧，便自歸堂也。

尊者撥眉。〔傳燈七〕。賓頭盧尊者，赴阿育王宮大會，王問：「尊者親見佛來，是否？」尊者以手撥開眉毛曰：「會麼？」王曰：「不會。」尊者曰：「阿耨達池龍王，請佛齋，時貧道亦預其數。」賓頭盧指吾身曰：「如何是？」

寒山茄串。〔會元二〕。天台寒山子，因衆僧炙茄，次將茄串向一僧背上一打，僧回首，山呈起茄串云：「是甚麼？」僧曰：「這風顛漢。」山向傍僧曰：「偏道，這僧費却我多少鹽醋。」

解脫粥筲。〔牛頭忠法嗣〕。〔會元二〕。古清涼傳：大隋五臺縣昭果寺解脫禪師，自文殊示心。

印之後，乃謙卑自牧，專精侍衆，厥後文殊躬臨試驗，解脫每清旦，爲衆營粥，文殊急見於前，脫殊不顧視，文殊警之曰：「吾是文殊，吾是文殊，脫以攪粥筯，便打曰：『文殊自文殊，解脫自解脫，殊乃說偈曰：』苦瓠連根苦，甜瓜徹蒂甜，修行三大劫，却被老僧嫌。」

陳老蒲鞋。〔黃檗法嗣〕睦州龍興道蹤禪師，卽陳尊宿也，見黃檗造悟住高安米山寺，以母老，東歸，露草履以給侍，後住龍興寺。

龐蘊渡籬。〔馬祖弟子〕〔傳燈〕襄州龐蘊居士，一女名靈照，常隨製竹渡籬，令覆之，以供朝夕。

悟本紙燃。〔雲巖晟法嗣〕〔會元十五〕洞山守初禪師，僧問：「如何是正法眼？」師曰：「紙燃無油，初嗣雲門，洞山悟本傳中，無紙燃之事。」

法眼香匙。〔桂琛法嗣〕〔傳燈二十四〕昇州清涼院文益大法眼禪師，與悟空禪師向火，拈起香匙，問悟空云：「不得喚作香匙，兄喚作什麼？」空云：「香匙。」師不肯，悟空却後二十餘日，方明此語。

光仁女子。〔良价法嗣〕〔傳燈十七〕疎山握木蛇，有僧問：「手中是什麼？」師提起曰：「曹家女。」

玄則童兒。〔天益法嗣〕〔傳燈二十四〕金陵報恩院玄則禪師，初問青峯：「如何是佛？」青峯曰：「丙丁童子來求火。」師得此語，藏之於心，及謁淨惠，詰其悟旨，師對曰：「丙丁是火，而更求火，亦似玄則將佛問佛，淨惠曰：『幾放過，元來錯會。』師雖蒙開發，頗懷猶豫，復退思，既殆莫曉，玄理，乃投誠請益，淨惠曰：『汝問我，與汝道，師乃問，如何是佛？』淨惠曰：『丙丁童子來求火，師豁然知

歸後住報恩院。

九峰拽擺。〔智門祚法嗣〕〔僧寶傳下〕九峯長老勤公曰：「楊岐牽犁，九峯拽把。」

保福扶犁。〔雪峯法嗣〕〔傳燈十〕潭州保福院從展禪師，因舉盤山道，光境俱忘，復是何物，

洞山道，光境未忘，復是何物，師曰：「據此二尊宿商量，猶未得勦絕，乃問長慶：『如今作麼生道？』得勦絕，慶良久，師曰：『情知和尙向鬼窟裏作活計，慶却問作麼生。』師云：『牛扶犁水過膝。』

玄泰布衲。〔石霜諸法嗣〕〔傳燈十六〕南嶽玄泰上座，不知何許人也，沈靜寡言，未嘗衣帛，衆謂之泰布衲。

克符紙衣。〔臨濟法嗣〕〔會元十一〕涿州紙衣克符和尙也。

庵主不顧。〔臨濟法嗣〕〔傳燈十二〕蓮華峰祥庵主，拈拄杖示衆云：「古人到這裡，爲什麼不肯住，衆無語，自代云：『爲他途路不得力，復云：』畢竟如何？」又自云：「柳標橫擔不顧人，直入千峰萬峰去，柳標拄杖也。」

良遂盡知。〔會元四〕壽州良遂座主，參麻谷蒙印可，返都城講肆，散席告諸徒曰：「諸人知處，良遂總知，良遂知處，諸人不知。」

常侍擲筆。〔馮山弟子〕〔會元九〕襄州王敬初常侍，視事次，米和尙至，常侍迺舉筆，米曰：「還判得虛空否？」常侍擲筆入廳，更不出，米致疑，至明日，憑鼓山供養主，入探其意，米隨之，潛立展蔽間，伺供養主纔坐，便問：「昨日米和尙，有甚麼言句，便不得見？」常侍曰：「師子咬人，韓獝逐塊，米師聞得卽省，前謬，遽出卽笑曰：『我會也，我會也。』」侍曰：「會卽不無，爾試道。」米曰：「請常侍

舉侍乃堅起一隻筋米曰這野狐精公曰這漢徹也

太傅過泥（會元九） 馮山因泥壁次李軍容來具公裳直至師背後端笏而立師回首見便

側泥盤（作接泥勢）李便轉笏作進泥勢師便拋下泥盤同歸方丈

于頓失色（會元三） 于頓相公問紫玉山道通禪師如何是黑風吹其船勛漂墮羅刹鬼國

師云于頓客作漢問恁麼事恁麼于公失色師乃指云遮箇是漂墮羅刹鬼國于又問如何是佛師喚于頓頓應諾師云更莫別求

李勃懷疑（傳燈七） 江州刺史李勃問歸宗嘗聞須彌納芥子則不疑芥子納須彌莫是妄

談否宗云人傳史君李萬卷是否刺曰不敢宗以手摩頂至踵乃曰都如椰子大萬卷詩書向甚處著刺俛首而已

石鞞張弓（傳燈十四） 撫州石鞞惠藏禪師常以弓箭接人三平到師作挽弓勢云看箭三

平作避勢師云平生架一張弓一隻箭只射得半箇聖人

禾山打鼓（九峰虔法嗣） （碧巖九） 禾山隆源無般和尚垂語云習學謂之聞絕學謂之隣

過此二者是爲真過僧出問如何真過師云解打鼓又問如何是真諦師云解打鼓又問即心即佛不問如何是非心非佛師云解打鼓又問上人來時如何接師云解打鼓

歸宗拽石（馬祖法嗣） （傳燈） 雲門所謂雪峯毬歸宗拽石

木平般土（蟠龍可文法嗣） （傳燈） 袁州善道木平和尚凡有新到未容參禮先令般土三擔示與頌曰東山路側西山低新到莫辭三擔泥嗟汝在途經日久明明向道却成迷

宣鑿斫牌（會元七） 德山卓牌於鬧市牌上書字曰佛來也打祖來也打傳燈巖頭卓牌巖

頭巖教後在鄂州湖邊作渡子兩岸立板牌一所書云如有渡者請擊此牌一下凡有擊者

師乃舞撓而渡之然德山卓牌未見所出○祖庭事苑會元云雪峰一日見玄沙來三箇木毬一齊輾玄沙便作斫牌勢雪峯深肯之故宣鑿作玄沙

白雲搖舡

道吾起拜（關南道常法嗣） （傳燈十一） 襄州關南道吾和尚僧問如何是和尙深深處師

下禪床作女人拜云謝子遠來無可祇對

迦葉作舞（會元一） 世尊因乾闥婆王獻樂其時山河大地盡作琴聲迦葉起作舞王問迦

葉豈不是阿羅漢諸漏已盡何更有餘習佛曰實無餘習莫謗法也王又撫琴三遍迦葉亦

三度作舞王曰迦葉作舞豈不是佛曰實不曾作舞王曰世尊何得妄語佛曰不妄語汝撫

琴山河大地木石盡作琴聲豈不是王曰是佛曰迦葉亦復如是所以實不曾作舞王乃信

受

涌泉騎牛（石霜諸法嗣） （傳燈十六） 台州涌泉景欣禪師有彌德一禪客到於路次見師

騎牛不識師曰蹄角甚分明爭奈騎者不識師驟牛而去二禪客憩於樹下煎茶師廻下牛近前不審與坐喫茶師問二禪客近離什麼處曰離那邊師曰那邊事作麼生彼提起茶盞師曰此猶是遮邊那邊事作麼生二人無對師曰莫道騎者不識好

牧庵跨虎（佛眼法嗣） （普燈十六） 隆興府黃龍牧庵法忠禪師居南嶽每跨虎出游儒釋

望塵而拜。

徑山蟪蛄。〔瀉山法嗣。傳燈十一〕杭州徑山洪諲禪師，徑山第三祖。僧問：如何是長？師云：千聖不能量。問：如何是短？師云：蟪蛄眼裏著不滿。其僧不肯，便去舉似石霜。霜云：只爲太近。實頭僧云：如何是長？霜云：不屈曲。云：如何是短？霜云：雙六盤中不喝彩。

地藏鸚鵡。〔玄沙法嗣。會元八〕障州羅漢院桂琛禪師，障牧王公請於闔城西之石山建精舍。曰：地藏請師駐錫焉。僅逾一紀，後遷止障州羅漢院。大闡玄要，學徒臻湊。師問僧：什麼處來？曰：秦州來。師曰：將得什麼物來？曰：不將得物來。師曰：汝爲什麼對衆漫語？其僧無語。師却問：秦州豈不是鸚鵡？僧曰：鸚鵡出隴西。師曰：也不較多。

石霜侍師。〔道吾法嗣。傳燈十五〕潭州石霜慶諸禪師，道吾將捨衆順世，以師爲嫡嗣。躬至石霜而就之。師日勤侍，全于師禮。暨道吾歸寂，學侶雲集，盈五百衆。

慈覺養母。

谷泉配役。〔僧寶傳〕衡嶽谷泉禪師，嘉祐中，男子冷清，天言誅師坐。清曾經由庵中，決杖配郴州牢城，盛暑負土經通衢，放擔說偈曰：今期六月六，谷泉被氣壅，不是上天堂，定是入地獄。言訖微笑，泊然如蟬蛻。

長興遭虜。〔白水仁法嗣。會元十三〕重雲智暉禪師，歸終南圭峯，舊居建寺，後唐明宗賜額曰：長興。僧問：如何是隨照失宗？師云：家遭劫賊。

宣老爲男。〔瑯琊覺法嗣。會元十二〕歸宗宣禪師，漢州人，瑯琊廣照之嗣，與郭功甫厚善。

忽一日，南康守以事臨之，宣令人馳書與功甫，且祝送書者云：莫令縣君見功甫，時任南昌尉。書云：某更有六年世緣未盡，今日不奈抑逼，何欲託生君家，望君相照，乃化去。功甫得書，驚喜盈懷。中夜某妻夢寢，髮髻見宣入臥內，不覺失聲云：此不是和尚來處。功甫問其故，妻答所見。功甫呼燈，以宣書示之，果有娠。及生，卽名宣光。纔周歲，記問如昔。逮三歲，白雲端和尚過其家，功甫喚出相見，望見便呼師姪。端云：與和尚相別幾年耶？宣屈指云：四年也。端云：在甚處相別？宣云：白蓮莊。端云：以何爲驗？宣云：爹爹媽媽，明日請和尚齋。忽門外推車過，端云：門外什麼聲？宣作推車勢。端云：過後如何？宣云：平地一條溝。甫及六歲，無疾而化。

信公作女。〔天皇法嗣。傳燈十四〕海印信和尚，瑯琊桂府人也。住蘇州定惠寺，年八十餘。平日受朱防禦家供養，屢到其宅。一日朱問曰：和尚後世能來弟子家中託生否？師微笑諾之。及歸寺，得病數日而化。其遷化日，朱家生一女子，圓照本禪師時住瑞光，聞其事往訪之。方出月，抱出一見，便笑。圓照喚云：海印偏銷了也。女子哭數聲化去。

四賢問道。〔會元十九〕于頔相公見紫玉，裴休相國問黃檗高僧，楊億內翰參透廣惠，李遵勗太尉見石門大悟。

三佛下語。〔會元十九〕三佛在五祖時，嘗於一亭上夜話。歸方丈，燈已滅。五祖乃於暗中曰：各人下轉語。佛鑑對云：彩鳳舞丹霄。佛眼曰：鐵蛇橫古路。佛果云：看脚下。五祖曰：滅吾宗者，乃克勤。〔圓悟也。爾〕

真際庭栢。〔會元四〕趙州觀音院亦日東院從諗禪師，曹州鄆鄉人也。姓鄆氏，諡真際大師。

僧問，如何是祖師西來意，師云：庭前栢樹子。僧云：和尚莫將境界示人，師云：我不將境界示人，僧云：如何是祖師西來意，師云：庭前栢樹子。

守初麻斤。〔雲門法嗣。〕〔傳燈二十三〕 洞山守初禪師，僧問：如何是佛，師云：麻三斤。

浮石露卜。〔子湖蹤法嗣。〕〔傳燈十一〕 障州浮石和尚，因上堂云：山僧開箇卜鋪，能斷人貧

富，定人死時，有僧出云：雖卻生死貧富，不落五行，請師直道。師云：金木水火土。

王老賣身。〔王南泉俗姓。〕〔傳燈八〕 池州南泉普願禪師，示衆云：王老師賣身去也，還有人

買得麼，有僧出云：某甲買泉云：不作貴，不作賤，作麼生買，師云：無對。

香巖原夢。〔傳燈九〕 馮山臥次，仰山問訊，馮山轉面覷後，仰云：某甲是和尙弟子，何用形跡

馮山作起勢，仰山便出，馮山喚回云：我適來得一夢，汝試原看，仰山將一盆水并手巾，度與

馮山，馮山遂洗面，香巖至，馮云：我適來與寂子作一上神通，不因小小巖云：某甲下面，一一

知得，馮云：試道看，巖點一椀茶，與馮山，馮云：二子神通，過於鶯子〔舍利弗也〕。

普化描真。〔會元三〕 普化和尙，幽州盤山寶積和尚法嗣，山臨遷化，謂衆云：還有人描得吾

真麼，衆皆寫真呈山，山皆叱之，普化出云：某甲描得，山云：何不呈似老僧，普化便打筋斗而

出，山云：這漢向後如風狂，接入去，山乃奄化。

婆子偷笋。〔會元四〕 趙州路逢一婆子，問曰：甚處去，婆云：偷趙州笋去，忽遇老僧，又作麼生，

婆便與一堂州休去。

行者施銀。〔傳燈十四〕 藥山令供養主化，甘贊行者，問：什麼處來，僧曰：藥山來，甘曰：來作麼

僧曰：教化，甘曰：還將藥來麼，僧曰：行者有什麼病，甘便捨銀兩挺，曰：若有人即送來，無人即

休，山恠其僧回急，僧曰：佛法相當得兩挺銀，山令舉其語，舉了，山令僧速送銀，還行者家，行

者見僧迴云：猶來，遂添銀施之。

莊宗得寶。〔傳燈十二〕 後唐莊宗，車駕幸河北，回至魏府行宮，詔興化存獎禪師，問云：朕收

中原，獲得一寶，未曾有人酬價，獎曰：請陛下寶看，帝以兩手舒幘，頭脚獎曰：君王之寶，誰敢

酬價，安覺徵曰：且道，興化肯莊宗，若肯莊宗，興化眼在甚麼處，若不肯莊宗，過在甚麼處，龍

顏大悅，賜紫衣師號，獎皆不受，乃賜馬與師乘，騎馬忽驚，師墜傷足，帝復賜藥救療，師喚院

主，與我做箇木棒，拐子，主做了將來，師接得，還院行，問僧曰：汝等還識老僧麼，曰：爭得不識，

和尚，師云：跛脚法師，說得行不得。

船子得鱗。〔藥山儼法嗣。〕〔會元五〕 透州華亭船子德誠禪師，節操高逸，度量不群，自印心

於藥山，與道吾雲岩爲同道交，泊離藥山，乃謂二同志曰：公等應各據一方，建立藥山宗旨，

予率性疎野，唯好山水，樂情自遣，無所能也，他後知我所止之處，若遇靈利座主，指一人來，

或堪雕琢，將生平所得，以報先師之恩，遂分携，至透州華亭，泛一小舟，隨緣度日，以接四方

往來之者，時人莫知其高蹈，嚴號船子和尙，一日泊船岸邊，閑坐，有官人問：如何是和尙，日

用事，師豎起橈子曰：會麼，官人曰：不會，師云：棹撥清波，金鱗罕遇，師有偈曰：三十年來坐釣

臺，釣頭往後得黃能，金鱗不遇空勞力，收取絲綸歸去來，道吾後到京口，遇夾山上堂，僧問：

如何是法身，山曰：法身無相，曰：如何是法眼，山云：法眼無瑕，道吾不覺失笑，山便下座，請問

如何是法身，山曰：法身無相，曰：如何是法眼，山云：法眼無瑕，道吾不覺失笑，山便下座，請問

道吾某甲適來祇對這僧話必有不是致令上座失笑望上座不吝慈悲吾曰和尚一等是出世未有師在山曰某甲甚處不是望爲說破吾云某甲終不說請和尚却往華亭船子處去山云此人如何吾曰此人上無片瓦下無卓錫和尚若去須易服而往山乃散衆東裝直造華亭船子纔見便問大德住甚麼寺山云寺即不住住即不似師云不似箇甚麼山曰不是目前法師曰甚處學得來山云非耳目之所到師云一句合頭語萬劫繫驢轡師又問垂絲千尺意在深潭離釣三寸子何不道山擬開口被師一橈打落水中山纔上船師又曰道道擬開口師又打山豁然大悟乃點頭三下師云竿頭絲線從君弄不犯清波意自殊山遂問拋綸擲釣師意如何師云絲懸淥水浮定有無之意山云語帶玄而無路舌頭談而不談師云釣盡江波金鱗始遇山乃掩耳師云如是如是遂屬云汝向去直須藏身處沒蹤迹沒蹤迹處莫藏身吾二十年在藥山祇明斯事汝今既得他後莫住城隍聚落但向深山裏鏗頭邊覓取一箇半箇無令接續斷絕山乃辭行頻頻回顧師遂喚闍梨山乃回首師豎起橈子曰汝將謂別有乃覆船入水而逝也○三十年來海上遊水清魚現不吞鈞釣竿斫盡重栽竹不計功程得便休〔船子誠之頌〕

趙州狗子〔南泉法嗣〕〔大惠書〕趙州僧問狗子還有佛性也無州云無又問一切衆生皆有佛性因其狗子卻無州云有業識在

臨濟真人〔傳燈十二〕臨濟上堂云赤肉團上有一無位真人常從汝等諸人而門出入未證據者看看時有僧問如何是無位真人師下禪床把住云道道其僧擬議師托開云無位

真人是什麼乾屎橛便歸方丈。

華林二虎〔馬祖法嗣〕〔傳燈八〕潭州華林善覺禪師常持錫夜出林麓問七步一振錫一稱觀音名號一日觀察使裴休訪之問云師還有侍者否師云有一兩箇裴曰在甚麼處師乃喚大空小空時二虎自庵後而出裴休視之驚悸師語之云有客且去二虎哮吼而去裴問云師作何行業感得如此師良久曰會麼曰不會師云山僧常念觀音

青原一鱗〔會元五〕石頭遷問青原思禪師曹溪大師還識和尚不思曰汝今識吾否曰識亦爭識得思曰衆角雖多一鱗足矣

道吾裴鬼三聖到道吾吾預知以緋抹額持神杖於門下立聖曰小心祇候吾應諾聖參堂了再上人事吾具威儀方丈內坐聖纔近前吾曰在事相借問得麼聖曰也是適來野狐精出去

拾得呵神〔傳燈二十七〕天台拾得者不言名氏因豐干禪師山中經行至赤城道側聞兒啼聲遂尋之見一子可數歲初謂牧羊子及問之云孤棄于此豐干乃名爲拾得携至國清寺付典座僧曰或人來認必可還之有護伽藍神廟每日僧厨下食爲鳥所有拾得以杖扶之曰汝食不能護安能護伽藍乎此夕神附夢于合寺僧曰拾得打我請且諸僧說夢符同一寺紛然牒申州縣郡符至云賢士隱遁菩薩應身宜用旌之號拾得爲賢士隱石而逝大覺潑水〔勸潭法嗣〕〔會元十五〕明州育玉山懷遠大覺禪師障州龍溪陳氏子誕生之夕夢僧伽降室因小字泗州既有異兆僉知祥應歸亂出家卅角圓頂篤志道學寢食無廢

一日洗面，潑水于地，微有省發，即募參尋遠，造泐潭法席，投機印下。

與教墮薪。〔韶國師法嗣。〕會元十。杭州興教洪壽禪師，同國師普請次，聞墮薪有省，作偈曰：撲落非佗物，縱橫不是塵，山河及大地，全露法王身。

三師行說。杭州大慈寰中禪師，嗣百丈海，示衆曰：說得一丈，不如行取一尺，說得一尺，不如行取一寸。洞山曰：我不恁麼道。僧曰：作麼生。洞山曰：說取行不得底，行取說不得底。○雲居曰：行時無說路，說時無行路，不說不行時，合行什麼路。

二老疎親。〔傳燈七〕。夾山與定山同行，言語次，夾山云：生死中有佛，即不迷生死。定山云：生死中無佛，即無生死。二人往返不決，上山參禮。夾山便舉前話問大梅，未審那箇親。梅云：一親一疎。夾山云：那個親。梅曰：且去。明日來。夾山明日再上問。梅云：親者不問，問者不親。

文殊白槌。〔會元一〕。世尊陞座，文殊白槌曰：諦觀法王法，法王法如是，世尊便下座。

百丈捲席。〔會元三〕。百丈海一日與馬祖遊山，見野鴨子。祖問曰：是甚麼。丈曰：野鴨子。曰：甚處去。丈云：飛過去。祖遂引手扭百丈鼻頭，丈作痛聲。祖曰：何曾飛過。丈於是大悟。至明日祖陞座，丈出卷卻面前禮拜席，祖便下座。

大達妄想。〔馬祖法嗣。〕〔傳燈八〕。汾州無業禪師，謚大達國師，凡有學者致問，答曰：莫妄想。洛誦消息。〔會元五〕。洛誦到天仙，仙問甚處來。誦云：南溪來。仙云：還將得南溪消息來麼。誦云：消息則未息。仙云：最苦是未息。誦云：且道未息箇什麼。仙云：一回見面，千載不志名。

鉢拂袖使出，仙云：弄死蛇手有甚限。

藥山曲調。〔石頭法嗣。〕〔傳燈十四〕。高沙彌住庵後，雨裏來相看。藥云：偏來也。師云：是藥云。

是藥云：可殺濕師云：不打遮箇鼓笛。雲岩云：皮也無。打什麼鼓道。吾云：鼓也無。打什麼皮。藥云：今日大好曲調。

青原階級。〔傳燈五〕。青原往曹溪，作禮問曰：當何所務。即不落階級。祖云：汝曾作什麼來。原曰：聖諦亦不爲，何階級之有。祖深器之，謂有二祖見少林氣象。

夾山揮劍。〔華亭法嗣。〕〔會元五〕。夾山僧問：撥塵見佛時如何。師云：直須揮劍。若不揮劍，漁父棲巢，僧後問：石霜撥塵見佛時如何。霜云：渠無國土，甚處渠逢。僧回舉似師。師上堂舉了，乃曰：門庭施設，不如老僧入理深談，猶較石霜百步。

隱峰飛錫。〔馬祖法嗣。〕〔傳燈八〕。五臺山隱峰禪師，姓鄧氏，時稱鄧隱峰。唐元和中，荐登五臺，路出淮西，屬吳元濟阻兵，遂拒王命，官軍與賊交鋒，未決勝負。師云：吾當去解其患。乃鄧錫空中，飛身而過，兩軍將士仰觀，事符預夢，闔心頓息。

洞山寒暑。〔傳燈八〕。僧問洞山：寒暑到來，如何回避。山云：何不向無寒暑處回避。僧云：如何是無寒暑處。山云：寒時寒殺，熱時熱殺，閻梨。

谷山聲色。〔傳燈八〕。谷山問透溪和尚：聲色純真，如何是道。溪云：亂道作麼。谷山卻從東邊過，西邊立。溪云：若不恁麼，即禍事也。谷山卻過東邊，溪乃下禪床，方行兩步，被谷山捉住云：聲色純真，事作麼生。溪便掌谷山，谷山云：十年後，要箇人下茶也無在。溪云：要谷山老漢什麼。谷山呵呵大笑三聲。

元祐廻牒。〔黃龍南法嗣。〕〔僧寶傳下〕雲居元祐禪師住玉潤寺時徐王聞其名奏賜紫方袍師作偈辭之曰爲僧六十髮先素無補空門悔出家願乞封廻禮部牒免辜盧老衲袈裟鹿門辭勅。

華亭藏身。〔藥山法嗣。〕〔會元五〕見前船子得鱗處。

雲門聞額。〔雪峰法嗣。〕〔額阿葛切鼻莖上音。〕

北禪烹牛。〔福嚴良雅嗣。〕〔會元十五〕潭州北禪賢和尚除夜小參云年窮歲暮無可與諸人分歲且烹一頭露地白牛炊黍米飯煮野菜羹向槽樅火唱村田何故免見倚它門戶傍它墻剛被時人喚作郎下座歸方丈少頃倚遇上座即法昌也入方丈云和尚門外有公人長賢曰作什麼遇日和尚納皮角賢拈頭帽擲在地上遇便去拾賢下禪床捉住云捉賊捉賊遇將頭帽裹向賢頭上云天寒且還和尚賢呵呵大笑遇便出去。

三角喝賊。〔瀉山祐法嗣。〕〔傳燈十八〕蕪州三角山法遇庵主因荒亂魁師入山執刃而問和尚有甚財寶師曰僧家之寶非君所宜魁曰是何寶師振聲一喝魁不悟以刀加之保寧擱口。〔楊岐法嗣。〕〔普燈四〕保寧仁勇禪師再受保寧請上堂拍掌三下擱口搖手下便下座。

洪英搯膝。〔黃龍南法嗣。〕〔林間錄上〕翠巖真點胸好問僧文殊是七佛之師因甚麼出女子定不得罔明從下方來因甚出得女子定莫有對者獨英邵武方其問時以手搯其膝而去真笑曰賣匙箸客未在。

恭語不灰。〔黃龍南法嗣。〕〔見大惠武庫拾遺〕黃龍恭首座出世住禪林法昌遇和尚遇問曰見說備爲黃龍燒香是否曰不敢遇云龍生龍子須是解與雲吐霧始得恭曰隨家豐儉遇曰備未拈香早鈍置黃龍了也恭曰且莫多口遇曰備且道黃龍實頭處作麼生恭提起坐具遇喚行者討坐具來行者提在手中遇便打曰備三十年後也道見老僧來恭後住衡之華光乃有坦率之風羅有司民其衣華光既遭回祿而恭語錄於灰燼中字畫無損餘紙悉盡信般若之明驗矣。

玄言上石。〔梁山緣觀法嗣。〕〔僧寶傳中〕野州大陽山警玄禪師遊方初到梁山問如何是無相道場山指觀音曰這箇是吳處士畫師擬進語山急索曰這箇是有相底那箇是無相底師遂有省便禮拜山曰何不道取一句師云道即不辭恐上紙筆山笑曰此語上碑去在滿號銀山。

秀名鐵壁。〔天衣懷法嗣。〕〔僧寶下〕法雲圓通法秀禪師叢林號爲秀鐵面。

龍牙禪板。〔悟本法嗣。〕〔傳燈十七〕湖南龍牙山居遁禪師在翠微時問云如何是祖師意微云與我過禪板來師便過禪板與微微接得便打師云打即任打要且無祖師意又問臨濟如何是祖師意濟曰與我過蒲團來師乃過蒲團與濟濟接得便打師云打即任打要且無祖師意後有僧問和尚行脚時問二尊宿祖師意未審二尊宿道眼明也未師云明即明也要且無祖師意東禪齊云衆中道佛法即有只是無祖師意若恁麼會有何交涉別作麼生會無祖師意底道理。

長慶蒲團。〔雪峰法嗣。會元七〕福州長慶惠稜禪師。歷參禪苑後。參靈雲問。如何是佛法大意。雲云。驢事未去。馬事到來。師如是往來。雪峯玄沙十二年間。坐破七箇蒲團。不明此事。一日捲簾。忽然大悟。乃有頌曰。也大差矣。也大差矣。捲起簾來見天下。有人問我解何宗。拈起拂子劈口打。峰舉謂玄沙曰。此子徹去也。沙曰。未可。此是意識著述。更須勘過始得。至晚衆僧上來問訊。峯謂師云。備頭陀未肯。汝在。汝實有正悟。對衆舉來。師又有頌云。萬象之中獨露身。唯人自肯。乃方親。昔時謬向途中覓。今日看來火裡冰。峯乃顧汝曰。不可。更是意識著述。師問峯云。從上諸聖。傳受一路。請師垂示。峯良久。設禮而退。峯乃微笑。師入方丈。參峯曰。是甚麼。師云。今日天晴好。普請。自此醅問。未嘗爽於玄旨。

盤山肉案。〔馬祖法嗣。會元三〕盤山一日於街市見人。在肉肆買肉。云。精底割一斤來。屠兒放下刀。叉手云。長史那箇不是精底。山聞之。忽然大悟。告馬祖。祖又印可之。

蜆子臺盤。〔良价法嗣。傳燈十七〕京兆府蜆子和尙。不知何許人也。事迹頗異。居無定所。自印心於洞山。混俗闖川。不畜道具。不循律儀。冬夏唯披一衲。逐日江岸採掇蝦蜆。以充其腹。暮即宿東山白馬廬紙錢中。居民目爲蜆子和尙。華嚴靜禪師聞之。欲決真假。先潛入紙錢中。深夜師歸。嚴把住曰。如何是祖師西來意。師遽答云。神前酒臺盤。嚴放手曰。不虛與我同根生。嚴後赴莊宗。詔入長安。師亦先至。每日歌唱自拍。或乃佯狂深雪去來。俱無蹤跡。厥後不知所終。

巴陵銀椀。〔雲門偃法嗣。傳燈二十二〕新開巴陵禪師。僧問。如何是提婆宗。師云。銀椀裏。

盛雪。

雲巖寶冠。〔馬祖法嗣。會元三〕池州魯祖寶雲禪師。僧問。如何是諸佛。師云。頭上有冠者。不是。曰。如何即是。師曰。頭上無寶冠。

荆門積鼻。〔北塔忠廣法嗣。會元十五〕荆門軍玉泉承皓禪師游方。參北塔發明心要。得大自在。三昧製積鼻。書歷代祖師名字。乃曰。唯有文殊普賢較些子。且書於帶上。故叢林目爲皓布裩。元豐間。首衆於襄陽。谷隱有鄉僧。亦効之。師見而詬曰。汝具何道理。敢以爲戲事耶。嘔血無及耳。尋於鹿門。如所言而逝。

疎山布單。〔良价法嗣。會元十三〕疎山開福州大瀉安和尙。示衆曰。有句無句。如藤倚樹。師特入嶺。到彼。值瀉泥壁。便問。承聞和尙道。有句無句。如藤倚樹。是否。瀉曰。是。師曰。忽遇樹倒。藤枯。句歸何處。瀉放下泥盤。呵呵大笑。歸方丈。師云。某甲三千里賣却布單。特爲此事而來。和尙何得相弄。瀉喚侍者。取三百錢。與這上座去。遂囑曰。向後有獨眼龍。爲子點破在。瀉山次日上堂。師出問。法身之理。絕玄微。不奪是非之境。猶是法身邊事。如何是向上事。瀉舉起拂子。師云。此猶是法身邊事。瀉曰。如何是法身向上事。師奪拂子。摺折擲向地上。便歸衆。瀉曰。龍蛇易辨。衲子難瞞。後聞婺州明招謙和尙出世。徑往禮拜。招問。甚處來。師云。閩中來。招曰。曾到大瀉否。師曰。到。招曰。有何言句。師舉前話。招曰。瀉山可謂頭正尾正。祇是不遇知音。師亦不省。復問。忽遇樹倒藤枯。句歸何處。招曰。却使瀉山笑轉新。師於言下。大悟。乃曰。瀉山元來笑裡有刀。遙望禮拜悔過。

芭蕉拄杖。〔南塔光涌法嗣〕 郢州芭蕉山惠清禪師，上堂拈拄杖示衆曰：「備有拄杖子，我與備拄杖子，備無拄杖子，奪却備拄杖子，靠拄杖下座。」

資福利竿。〔如寶法嗣〕 吉州資福真邃禪師，〔第二世住〕 謂衆云：「隔江見資福利竿，便迴去，脚跟也好與三十棒，況過江來，時有僧才出，師曰：『不堪共語，問如何是古佛心。』師曰：『山河大地。』」

祿清紅萼。〔圓智法嗣〕 〔傳燈十五〕 祿清和尚，僧問：「不落道吾機，請師道。」師云：「庭前紅萼樹，生葉不生花，良久云：『會麼？』僧云：『不會。』師云：『正是道吾機，因什麼？』僧禮拜，師便打云：『須是老僧打，備始得。』」

惠稜牡丹。〔雪峯法嗣〕 〔會元八〕 地藏與長慶保福入州，見牡丹障子，保福云：「好一朵牡丹花。」長慶云：「莫眼花。」地藏曰：「可惜許，一朵花。」

南泉翫月。〔會元三〕 南泉翫月次，趙州問：「幾時得似這箇時節？」泉云：「王老師二十年前，亦曾恁麼來。」

保福遊山。〔雪峯法嗣〕 〔會元七〕 長慶稜和尚與保福遊山，保福問：「古人道：『妙峯山頂，莫卽遮箇便是也。』無慶曰：『是卽是，可惜許。』」

寶林冷笑。

韶陽熱謾。〔僧寶傳上〕 雲門以拄杖擊繩床曰：「適來許多葛藤，貶向什麼處去也。」靈利底見不靈利底，著我熱謾。」

乾峯一路。〔良价法嗣〕 〔會元十三〕 乾峯僧問：「十方薄伽梵，一路涅槃門，未審路頭在甚麼處？」峯拈拄杖劃一劃云：「在這裡。」僧請益雲門，門拈起扇子云：「扇子踣跳上三十三天，墜著帝釋鼻孔，東海鯉魚打一棒，雨似盆傾。」

兜率三關。〔真淨文法嗣〕 〔會元十七〕 兜率從悅禪師設三關以問學者，一曰：「撥草參玄，只圖見性，卽今上人性在什麼處？」二曰：「識得自性，方脫生死，眼光落地時，作麼生脫？」三曰：「脫得生死，知去處，四大分離，向什麼處去？」

谷泉逐遇。〔汾陽照法嗣〕 〔會元十二〕 南岳芭蕉庵大道谷泉禪師，因倚遇上座來參，遇後住法昌寺名也，問庵主在麼，師曰：「誰？」曰：「行脚僧。」師曰：「作甚麼？」曰：「禮拜庵主。」師曰：「恰值庵主不在。」曰：「備尊。」師曰：「向道不在，說甚麼？」備我拽棒趨出，遇次日再來，師又趨出，遇一日又來，問庵主在麼，師曰：「誰？」曰：「行脚僧。」揭簾便入，師攔胸搗住曰：「我這裡，狼虎縱橫，屎尿鬼子，三回兩度來討甚麼？」曰：「人言庵主親見汾陽來。」師解衣抖擻曰：「備道我見汾陽，有多少奇特？」曰：「如何是庵中主？」師曰：「入門須辨取。」曰：「莫祇這便是麼？」師曰：「賺却幾多人。」曰：「前言何在？」師曰：「聽事不真，喚鐘作甕。」曰：「萬法泯時全體現，君臣合處正中邪去也。」師曰：「驢漢不會，便休。」亂統什麼？曰：「未審客來將何祇待？」師曰：「雲門餠餅，趙州茶。」曰：「恁麼則謝師供養去也。」師叱曰：「我這裡大種也未，有，早言謝供養。」

圓照戲端。〔天衣懷法嗣〕 〔僧寶傳〕 圓照禪師，元祐初，自京師惠林寺退歸姑蘇，見端師子於甘露，曰：「汝非端師子乎？」曰：「是。」師戲之曰：「村裡師子耳，端應聲曰：『村裏師子，村裏弄眉尾與。』」

眼一齊動，開却口肚裏直籠統，不愛人取拳，直饒弄到帝王宮，也是一場乾打閩，師粹美不悟其護也。

誌公難逸。〔會元三〕寶誌禪師，初金陵東陽民，朱氏之婦，上巳日，聞兒啼，鷹巢中，梯樹得之，舉以爲子，七歲依鍾山大沙門僧檢出家，專修禪觀，宋太始二年，髮而徒跣，著錦袍往來皖山劍水之下，以剪尺拂子，拄杖頭負文而行，天鑑二年，梁武帝詔問弟子煩惑未除，何以治之，答曰：十二帝問其旨如何，答曰：在書字時節刻漏中，益不曉，帝嘗詔畫工張僧繇寫師像，僧繇下筆輒不自定，師遂以指勞面門，分披出十一面觀音，妙相殊麗，或慈或威，僧繇竟不能寫。

六祖難塑。〔傳燈五〕六祖因蜀僧名方辨來謁祖，云：善捏塑，祖正色曰：試塑看，方辨不領旨，乃塑祖真，可高七寸，曲盡其妙，祖觀之曰：汝善塑性，不善佛性，酬以衣物，僧禮謝而去。

章敬撥空。〔馬祖法嗣。傳燈七〕京兆府章敬寺懷惲禪師，或問祖師所傳心地法門，爲是真如心，妄想心，非真，非妄心，爲是三乘教外別傳底心，師云：汝見目前虛空麼，曰：信知常在，目前人自不見，師曰：汝莫認影像，曰：和尚作麼生，師以手撥空三下，曰：作麼生，師曰：汝向後會去在。

雲門抽願。〔人天眼目〕雲門每顧見僧，卽曰：鑿啖，而錄之者曰：顧鑿啖，德山密禪師，刪去顧字，但曰：鑿啖，叢林目以爲抽願，頌北塔祚禪師，作偈曰：雲門顧鑿啖，嚙嚙，擬議遭渠鑿啖，任是張良多智巧，到頭於是也難施。

悟本稱奇。〔雲巖晟法嗣。會元十三〕瑞州洞山良价悟本禪師，參馮山問云：頃聞南陽忠國師有無情說法話，某甲未究其微，馮曰：開梨莫記得麼，師云：記得，馮曰：汝試舉一徧看，師遂舉，僧問：如何是古佛心，國師曰：牆壁瓦礫，曰：豈不是無情，國師曰：是，僧云：還解說法否，國師云：常說熾然，說無間歇，僧云：某甲爲甚麼不聞，國師云：汝自不聞，不可妨他聞者也，僧曰：未審甚麼人得聞，國師曰：諸聖得聞，僧云：和尚還聞否，國師云：我不聞，僧云：和尚既不聞，爭知無情解說法，國師曰：賴我不聞，我若聞，卽齊於諸聖，汝卽不聞，我說法也，僧曰：恁麼則衆生無分去也，國師云：我爲衆生說，不爲諸聖說，僧云：衆生聞後如何，國師云：卽非衆生，僧云：無情說法，據何典教，國師云：灼然言不該典，非君子之所談，汝豈不見華嚴經云：刹說衆生說三世一切說，師舉了，馮曰：我這裏亦有，祇是罕遇其人，師云：某甲未明，乞師指示，馮豎起拂子曰：會麼，師云：不會，請和尚說，馮曰：父母所生口，終不爲子說，師曰：還有與師同時慕道者否，馮曰：此去灤陵攸縣石室相連，有雲巖道人，若能撥草瞻風，必爲子之所重，師云：未審此人如何，馮云：他曾問老僧學欲奉師去時，如何老僧對他道，直須絕滲漏，始得，他道：還得不違師旨也，無老僧道，第一不得道，老僧在這裏，師遂辭歸馮山，徑造雲巖，舉前因緣了，便問：無情說法，甚麼人得聞，巖云：無情得聞，師云：和尚聞否，巖曰：我若聞，汝卽不聞，吾說法也，師云：某甲爲甚麼不聞，巖豎起拂子曰：還聞麼，師云：不聞，巖云：我說法，汝尙不聞，豈況無情說法乎，師云：無情說法，該何典教，巖曰：豈不見彌陀經云：水鳥樹林，悉皆念佛念法，於此有省，乃述偈曰：也太奇兮也太奇，無情說法不思議，若將耳聽終難會，眼處聞時方得知。

大禪叫悟。(歸宗常法嗣)。(會元四) 五臺山大禪佛智通禪師在歸宗常和尚會下。禪宗有二大禪佛。一名景通。嗣仰山。一曰智通。嗣歸宗常。忽一夜叫云。我大悟也。衆駭之。次日歸宗上堂。集衆云。昨夜大悟出來。禪佛出曰。某甲。宗云。汝見箇什麼道理。言大悟。禪佛曰。師姑元來女人作。宗默而異之。

義存歸庵。(會元七) 雪峯義存禪師住庵時。有兩僧禮拜。峯見來。以手托庵門。放身出云。是什麼。僧亦云。是什麼。峯低頭歸庵。

老觀閉戶。(黃檗法嗣)。(傳燈十二) 福州烏巖山靈觀禪師。時稱老觀。尋常扃戶。人罕見之。唯一信士。每至食時。送供方開。一日雪峯。伺便扣門。師開門。峯驚胸掬住曰。是凡是聖。師睡曰。這野狐精。便推出閉却門。峯曰。也祇要識老兄。

尙座觀魚。(禪林類聚) 深明二上座。同行見捕魚。見一魚透出網。深云。俊哉。大似箇禿僧。相似。明曰。爭似當時不入他網。深云。爾猶缺悟在。明行三十里方省。

師伯見兔。(雲巖晨法嗣) 潭州禪山師伯僧密禪師。與洞山行次。忽見白兔走過。師曰。俊哉。洞曰。作麼生。師云。大似白衣拜相。洞曰。老老大大。作這箇說話。師曰。爾作麼生。洞曰。積代簪纓。暫時落魄。

明教蓋杏。(洞山聰法嗣)。(禪林類聚九) 明教嵩禪師。初自洞山遊康山。托迹開先法席。主者以其佳。少年銳文字。命掌書記。笑曰。我豈爲汝一盃蓋杏湯耶。因去之。(林間錄) 馬祖鹽醃。馬祖闍化於江西。南嶽讓問衆曰。道一爲衆說法否。衆曰。已爲衆說法。讓曰。總未

見人持箇消息來。衆無對。因遣一僧去。囑曰。待伊上堂時。但問作麼生。伊道底言語記將來。僧去。一如讓旨。回謂讓曰。馬祖云。自從胡亂後。三十年不曾少鹽醬。讓然之。

竹林麻鞋。

木平草屨。(俱遇反)

地藏種田。(玄沙法嗣)。(會元八) 福州地藏桂琛禪師。因插鋤次。見僧便問。什麼處來。僧云。南方來。師云。南方佛法如何。僧曰。商量浩浩地。師云。爭似我這裏種田博飯喫。僧云。爭奈三界何。師云。汝喚什麼作三界。僧無語。

懶瓚煨芋。(四祖法嗣) 唐南岳山明瓚禪師者。未知氏族生緣。初遊方。詣嵩山。普寂盛行禪法。師往從焉。然則默證寂之心契。人牢推重。尋於衡岳閑居。衆僧營作。我則晏如。縱被詆詞。殊無愧耻。時目之懶瓚也。唐德宗聞其名。遣使詔之。使者至其室。宣言。天子有詔。尊者當起謝恩。師方撥牛糞火。尋煨芋而食。寒涕垂頤。未嘗答。使者笑曰。且勸尊者拭涕。師曰。我豈有工夫爲俗人拭涕耶。竟不起。使回奏。德宗甚欽嘆之。

天蓋浴室。

侍者巡鋪。(會元四) 趙州因與文遠侍者行。乃指一片地曰。這裏好造箇巡鋪。文遠便去。路傍立曰。把將公驗來。師遂與一摺。遠曰。公驗分明過。

老諗四門。(碧巖二) 趙州上堂。正人說邪法。邪法悉皆正。邪人說正法。正法悉皆邪。諸方難見易識。我這裡易見難識。問。如何是趙州。師曰。東門西門南門北門。

大禪叫悟。(歸宗常法嗣。(會元四) 五臺山大禪佛智通禪師在歸宗常和尚會下。禪宗有二大禪佛。一名景通。嗣仰山。一日智通。嗣歸宗常。忽一夜叫云。我大悟也。衆駭之。次日歸宗上堂。集衆云。昨夜大悟出來。禪佛出曰。某甲。宗云。汝見箇什麼道理。言大悟。禪佛曰。師姑元來女人作。宗默而異之。

義存歸庵。(會元七) 雪峯義存禪師住庵時。有兩僧禮拜。峯見來。以手托庵門。放身出云。是什麼。僧亦云。是什麼。峯低頭歸庵。

老觀閉戶。(黃檗法嗣。(傳燈十二) 福州烏巖山靈觀禪師。時稱老觀。尋常局戶。人罕見之。唯一信士。每至食時。送供方開。一日雪峯。伺便扣門。師開門。峯驚胸掬住曰。是凡是聖。師睡曰。這野狐精。便推出閉却門。峯曰。也祇要識老兄。

尙座觀魚。(禪林類聚) 深明二上座。同行見捕魚。見一魚透出網。深云。俊哉。大似箇衲僧相似。明曰。爭似當時不入他網。深云。爾猶缺悟在。明行三十里方省。

師伯見兔。(雲巖展法嗣) 潭州禪山師伯僧密禪師。與洞山行次。忽見白兔走過。師曰。俊哉。洞曰。作麼生。師云。大似白衣拜相。洞曰。老老大大。作這箇說話。師曰。爾作麼生。洞曰。積代簪纓。暫時落魄。

明教蓋杏。(洞山聰法嗣。(禪林類聚九) 明教嵩禪師。初自洞山遊康山。托迹開先法席。主者以其佳。少年銳文字。命掌書記。笑曰。我豈爲汝一盃蓋杏湯耶。因去之。(林間錄) 馬祖鹽醃。馬祖闍化於江西。南嶽讓問衆曰。道一爲衆說法否。衆曰。已爲衆說法。讓曰。總未

見人持箇消息來。衆無對。因遣一僧去。囑曰。待伊上堂時。但問作麼生。伊道底言語記將來。僧去。一如讓旨。回謂讓曰。馬祖云。自從胡亂後。三十年不曾少鹽醃。讓然之。

竹林麻鞋。
木平草屨。(俱遇反)

地藏種田。(玄沙法嗣。(會元八) 福州地藏桂琛禪師。因插鋤次。見僧便問。什麼處來。僧云。南方來。師云。南方佛法如何。僧曰。商量浩浩地。師云。爭似我這裏種田博飯喫。僧云。爭奈三界何。師云。汝喚什麼作三界。僧無語。

懶瓚煨芋。(四祖法嗣) 唐南岳山明瓚禪師者。未知氏族生緣。初遊方。詣嵩山。普寂盛行禪法。師往從焉。然則默證寂之心契。人罕推重。尋於衡岳閉居。衆僧營作。我則晏如。縱被詆訶。殊無愧耻。時目之懶瓚也。唐德宗聞其名。遣使詔之。使者至其室。宣言天子有詔。尊者當起謝恩。師方撥牛糞火。尋煨芋而食。寒涕垂頤。未嘗答。使者笑曰。且勸尊者拭涕。師曰。我豈有工夫爲俗人拭涕耶。竟不起。使回奏。德宗甚欽嘆之。

天蓋浴室。
侍者巡鋪。(會元四) 趙州因與文遠侍者行。乃指一片地曰。這裏好造箇巡鋪。文遠便去。路傍立曰。把將公驗來。師遂與一擱。遠曰。公驗分明過。

老諗四門。(碧巖二) 趙州上堂。正人說邪法。邪法悉皆正。邪人說正法。正法悉皆邪。諸方難見易識。我這理易見難識。問。如何是趙州。師曰。東門西門南門北門。

師備三句。(僧寶傳四) 福州玄沙宗一大師，法名師備，本州閩縣人也，姓謝氏，疾大法難舉，罕遇上根，學者依語生解，隨照失宗，乃示綱宗三句曰：第一句，且自承當，現成具足，盡十方世界，更無他，故祇是仁者，更教誰見，誰聞，都來是汝心王所爲，全成不動智，只欠自承當，喚作開方便門，使汝信，有一分真常流注，亘古亘今，未有不是，未有不非者，然此句，只成平等法，何以故，但是以言遺言，以理逐理，平常性相接，物利生耳，且於宗旨，猶是明前不明，後，號爲一味平實，分證法身之量，未有出格之句，死在句下，未有自由分，若知出格量，不被心魔所使，入到平中，便轉換落落地，言通大道，不墮平懷之見，是謂第一句綱宗也。第二句，廻因就果，不着平常一如之理，方便喚作轉位投機，生殺自在，縱奪隨宜，出生入死，廣利一初，迥脫色欲愛見之境，方便喚作頓超三界之佛性，此名二理雙明，二義齊照，不被二邊之所動，妙用現前，是謂第二句綱宗也。第三句，知有大智性相之本，通其過量之見，明陰洞陽，廓屬沙界，一真體性，大用現前，應化無方，全用全不用，全生全不生，方便喚作慈定之門，是謂第三句綱宗也。

彥從不會。(元安法嗣)。(會元六) 澧州洛浦元安禪師，一日謂門弟子曰：吾且夕行矣，有問問諸人，若對得，分付鉢袋子，曰：若道這箇是，即是頭上安頭，若道不是，即斬頭覓活，堂中第一座，對曰：青山不舉足，日下下挑燈，安曰：去，汝扶吾宗不起，有彥從上座曰：去，此二途，請和尚不問，安曰：未，更道，彥從曰：彥從道不盡，安曰：我不管汝道不盡，曰：彥從無侍者，祇對和尚，安乃歸方丈，中夜喚彥從至曰：汝今日祇對老僧，甚有道理，據汝合體，得先師意旨，先師

道，目前無法，意在目前，不是目前法，非耳目所到，且道，那句是賓，那句是主，彥從茫然不知，答，安曰：苦苦，三更時，衆請安代答，安曰：慈舟不泛滄波上，劍峽徒勞放木鵝，泊然而化。

法遠不去。(鴻山法遠也) 葉縣省和尚，嚴冷枯淡，衲子敬畏之，浮山遠與天衣懷，在衆時，特往參扣，正值雪寒，省詞罵驅逐，以至將水潑，且過衣服皆濕，其他僧皆怒而去，唯遠懷，併疊敷具，整衣復坐於且過中，省到詞曰：爾更不去，我打爾，遠近前云：某二人，數千里特來，參和尚禪，豈以一杓水潑之便去，若打殺也不去，省笑曰：爾兩箇要參禪，卻去掛搭。

道吾舞笏。(會元四) 襄州關南道吾和尚，僧問：如何是祖師西來意，師以簡(笏也)揖曰：瞎。○雲頂山德敷禪師，頌古今大意曰：道吾舞笏同人會，石鞮彎弓作者請。(傳燈二十九)

穉魔擊杖。(靈湍法嗣)。(傳燈十) 宋傳曰：名常遇，姓陰，范陽人，出家於燕北安國寺，來居五臺山之秘魔岩，即文殊降龍之所，因爲名焉，常持一木叉，每見僧來禮拜，即叉却僧頭云：那箇魔魅，教爾去出家，那箇魔魅，教爾行脚，道得也，又下死，道不得也，又下死，速道，學者少，有酬對，唯晉州葦山景通(即大禪佛也)才到，便逃入懷中坐，師於葦山背撫三下，山便走出云：三千里外賺我來。

雲岩摸枕。(藥山儼法嗣) 道吾問雲岩：大悲千手眼，那箇是正眼，岩曰：如入夜間背手摸枕，子，吾曰：我會也，岩曰：作麼生會，吾曰：遍身是手眼，岩曰：道也太煞道，祇道得八成，吾曰：師兄作麼生，岩曰：遍身是手眼。

南泉指花。(傳燈八) 陸亘大夫與南泉語話次，夫曰：肇法師道：天地與我同根，萬物與我一體，也甚奇怪。南泉指庭前牡丹花，召大夫云：時人見此一株花，如夢相似。

曹山白酒。(良价法嗣)。(傳燈十七) 曹山清銳問某甲孤貧，乞師拯濟。師曰：銳開梨，近前來。

銳近前，師云：泉州自家酒三盞，猶道未霑唇。玄覺曰：什麼處是與他酒喫。

實際清茶。(傳燈十) 趙州問僧：曾到此間否？僧云：曾到。州云：喫茶去。又問僧：曾到此間否？僧云：不曾到。州云：喫茶去。院主問：曾到且從，不曾到如何喫茶去。州乃喚院主，主應諾。州云：喫茶去。

懸泉皂角。(岩頭法嗣)。(會元八) 黃龍山海機超惠禪師，初參岩頭問：如何是祖師西來意。頭曰：備還救糞。惠曰：解頭曰：且救糞去。後到玄泉問：如何是祖師西來意。泉拈起一盞皂角曰：會麼？惠曰：不會。泉放下皂角，作洗衣勢。惠便禮拜曰：信知佛法無別。泉曰：備見甚麼道理。惠曰：某甲曾問岩頭，頭曰：備還解救糞。惠曰：救糞也祇是解粘和尙，提起皂角亦是解粘。所以道：無別。泉呵呵大笑。惠遂有省。

洞山苧麻。

祐禪拈柿。(傳燈十二) 仰山隨馮山遊山，到盤陀石上坐，仰侍立次，忽鷄銜一紅柿落在面前。馮拾與仰，仰接得，洗了度與馮。馮曰：子甚處得來。仰曰：此是和尙道德所感。馮云：汝也不得無分。即分半與仰。玄沙云：大小馮山，被仰山一坐，至今起不得。

從展度瓜。(雪峰法嗣)。(會元七) 保福簽瓜次，大原孚至。師云：道得與汝瓜喫。孚曰：獨將來，

師度與一片，字接得便去。

導師金鎖。(會元三) 導師云：法本不相碍，三際亦復然。無爲無事人，猶是金鎖難。

象骨鍊枷。(會元十五) 雲門謂雪峯，峯方堆跪坐，爲衆說法。門犯衆出，熟視曰：項上三百斤鍊枷，何不脫卻。峯曰：因甚到與麼。門以手自拭其目，趨出。峯心異之。明日陞座曰：南山有龜鼻蛇，諸人出入好看門，以拄杖擡出，又自驚懷，自是輩流改觀。象骨即雪峯之別山，以形似而稱。

祖心叱狗。(黃龍南法嗣)。(僧寶傳下) 隆興府黃龍寶覺初心禪師，與轉運判官夏倚公立。至論肇論，會萬物爲自己者，及情與無情共一體。時有狗臥香卓下。師以壓尺擊狗，又擊香卓曰：狗有情即去，香卓無情自住。情與無情如何得成一體。公立不能對。師云：纔入思推便成刺法，何曾會萬物爲己哉。

靈祐餵鷄。(會元九) 馮山餵鷄生飯，回頭見仰山曰：今日爲伊上堂一上。仰曰：某甲隨例得聞。馮曰：聞底事作麼生。仰曰：鷄作鷄鳴，鵲作鵲噪。馮曰：爭奈聲色何。仰曰：和尙適來道甚麼。馮曰：我祇道爲伊上堂一上。仰曰：爲甚麼喚作聲色。馮曰：雖然如此驗過，也無妨。仰云：大事因緣，又作麼生驗。馮豎起拳，仰曰：終是指東畫西。馮曰：子適來問甚麼。仰曰：問和尙大事因緣。馮曰：爲甚麼喚作指東畫西。仰曰：爲著聲色。故某甲所以問過。馮曰：並未曉了此事。馮曰：寂子聲色，老僧東西。

元珪放戒。(惠安國師法嗣)。(會元二) 嵩嶽元珪禪師，謁安國師，頓悟玄旨，遂卜居岳之巖。

塢一日有異人，峩冠袴褶而至，從者極多，輕步徐舒，稱謁大師，大師觀其容貌，奇偉非常，迺論之曰：善來仁者，胡爲而至？彼曰：師寧識我耶？師云：吾觀佛與衆生，等吾一目之，豈分別耶？曰：我此岳神也，能生死於人，師安得一目我哉？師曰：吾不生，汝焉能死？吾視身與空等，視吾與汝等，汝能壞空與汝乎？苟能壞空及壞汝，吾則不生不滅，汝尙不能如是，又焉能生死？吾耶？神稽首曰：我亦聰明，正直於餘神，詎知師有廣大智辨乎？願授以正戒，令我度世。師曰：汝既乞戒，即既戒也，所以者何？戒外無戒，又何戒哉？神曰：此理也，我聞茫昧，止求師戒，我身爲門弟子，師卽爲張座乘爐，正凡與授五戒酒肉姪殺盜等語，師曰：如上佛戒，而無心拘執，以有心爲物，而無心想身，如是則先天地生，不爲精，後天地死，不爲老，迺至無我無汝，孰爲戒之語？神曰：我神通亞佛，師云：汝神通十句五能五不能，佛則十句七能三不能，神悚然避席，跪啓曰：可得聞乎？師云：汝能戾上帝，東天行而西，七曜乎？曰：不能。師云：汝能奪地祇，融五岳而結四海乎？曰：不能。師曰：是謂五不能也。佛能空一切相，成萬法智，而不能即滅定業，佛能知群有性，窮億劫事，而不能化導無緣，能度無量有情，而不能盡衆生界，是謂三不能也。定業亦不罕久，無緣亦謂一明，衆生界本無增減，亘古無一人能主有法，有法無主，是謂無法，無法無主，是謂無心，如我解佛亦無神通也，但能以無心通達一切法爾。神曰：我誠淺昧，未聞空義，師所授戒，我當奉行，今願報德，展我小神通而使已發心，初發心未發心，不信心，不信心五等人，因我神蹤，知有佛有神，有能有不能，有自然非自然者，師云：無爲是，無爲是，神曰：佛亦使神護法，師寧懲叛佛耶？願如意垂誨，師不得已，而言曰：東岩寺之障，莽然無樹，

北軸有之，而背非屏擁，汝能移北樹於東嶺乎？神曰：已聞命矣，然昏夜間，必有喧動，願師無駭，作禮而退。師門送嵐，飄烟霞，紛紜間錯，幢幡環珮，凌空出沒焉，其夕果有暴風，迅雷，霹靂，振電，棟宇搖蕩，宿鳥聲喧，師謂衆曰：無怪，神與我約矣，詰旦和霽，則北岩松栝，盡移東嶺，森然行植。

竈墮翻邪。(會元二) 嵩嶽破竈墮和尚，不稱名氏，言行叵測，隱居嵩嶽，山塢有廟，甚靈，廟中唯安一竈，遠近祭不輟，卒殺物命甚多，師一日，領侍僧入廟，以杖敲三下，咄云：汝本泥瓦合成，聖從何來，靈從何起，又打三下，竈廼傾破，須臾有青衣峩冠，設拜師前，師曰：汝是何人，云：我本此席神，久受業報，今日蒙師說無生法，得脫此處，特來致謝，師云：是汝本有之理，非吾強言，神再拜而沒，侍僧云：某甲久在和尙左右，未蒙指示，竈神有何所得，遂得昇濟，師云：我別無道理爲他，只向他道，汝本泥瓦合成，聖從何來，靈從何起，侍僧默然，師云：會麼，云：不會，本有之性，爲甚不會，侍僧禮拜，師曰：破也墮也。○安國師號爲破竈墮。

玄沙指虎。玄沙一日普請，往海坑斫柴，見一虎，僧云：和尙虎，師曰：是汝虎，歸院後僧問：適來見虎云：是汝，未審尊意如何，師曰：娑婆世界，有四重障，若人透得，許汝出陰界，東禪齊云：上座古人，見了道，我身心如大地虛空，如今還透得麼。

歸宗斬蛇。(馬祖法嗣)(傳燈七) 廬山歸宗寺智常禪師，有座主來參，值師鋤草，忽見一條蛇，師以鋤便鏗，主云：久饗歸宗，到來只見箇龜行沙門，師云：爾龜我龜，主云：如何是細師作斬勢，主云：恁麼則依而行之，師云：依而行之則且置，爾什麼處見我斬蛇，主無語。

古德火抄。(會元九) 巴州魯祖山寶雲禪師尋常見僧來便面壁南泉聞云我尋常向僧道向佛未出世時會取尚不得一箇半箇他恁麼地驢年去。○玄覺云爲復唱和語不肯語保福問長慶只如魯祖節文在什麼處被南泉恁麼道長慶云退已讓於人萬中無一個羅山云陳老師當時若見背上與五火抄何故如此爲伊解放不解放。○玄沙云我當時若見也與五火抄。○雲居錫云羅山玄沙總恁麼道爲復一般別有道理若擇得出許上座佛法有去處。○玄覺云且道玄沙五火抄打伊著不著。

靈樹風車。(傳燈十一) 韶州靈樹如敏禪師僧問如何是西來意師云童子莫徭兒僧云乞指示師云汝從虔州來問是什麼得恁麼難會師云火官頭上風車子。

禪苑蒙求卷之上終

禪苑蒙求卷之中

能仁雙趺。(傳燈一) 梵云釋迦此言能仁涅槃經爾時迦葉與諸弟子在耆闍崛山入于正定於正受中忽然心驚舉身戰懷從定中出見諸山地皆大振動即知如何已入涅槃於是將諸弟子尋路疾行悲哀速往正滿七日至拘尸那城右邊寶棺七匝盈目流淚說偈讚嘆其偈云世尊我今大苦痛情亂昏悶迷濁心我今爲禮世尊頂爲復哀禮如來肩爲復敬禮大聖手爲復悲禮如來腰爲復敬禮如何膺爲復深心禮佛足何因不見佛涅槃唯願示我敬禮處世尊大悲即現千輻輪相出於棺外回示迦葉從千輻輪放千光明徧照十方一切世界然後還自入棺封閉如故。

達磨隻履。(傳燈三) 初祖自付法傳衣之後凡九載示有涅槃葬於熊耳山吳坂後三年有魏使宋雲奉使西域還見祖於葱嶺手携隻履語宋雲曰汝主已厭代我歸西國去雲初不解既歸帝果崩遂聞奏後魏孝莊帝帝乃令發塔但見一履遂奉勅取於少林寺供自開元十二年被竊去臺華嚴寺中後亦失所在。

盧能賣薪。(傳燈五) 惠能大師俗姓盧氏三歲喪父其母守志鞠養及長家尤貧窶師樵采以給一日鬻薪於市中聞客讀金剛經至應無所住而生其心悚然有省直抵黃梅東山五祖見而器之。

懶融負米。(四祖法嗣)。(會元二) 牛頭山法融禪師者，潤州延陵人也，姓章氏，年十九學通經史，尋閱大部般若，曉達真空，忽一日歎曰：儒道世典，非究竟法，般若正觀，出世舟航，遂隱茅山，投師落髮，後入牛頭山幽棲寺北岩之石室，有百鳥啣花之異，唐貞觀中，四祖遙觀氣象，知彼山有奇異之人，乃躬自尋訪，問寺僧：此間有道人否？曰：出家兒，那箇不是道人？祖曰：阿那箇是道人？僧無對，別僧曰：此去山中十里許，有一懶融，見人不起，亦不合掌，莫是道人麼？祖遂入山，見師端坐自若，曾無所顧，祖問：在此作甚麼？師曰：觀心，祖曰：觀是何人？心是何物？師無對，便起作禮，曰：大德高棲何所？祖曰：貧道不決所止，或東或西，師曰：還識道信禪師否？祖曰：何以問他？師曰：嚮德滋久，冀一禮謁，祖曰：道信禪師貧道是也，師曰：因何降此？祖曰：殊來相訪，莫更有宴息之處否？師指後面曰：別有小庵，遂引祖至庵前，遠庵唯見虎狼之類，祖乃舉兩手作怖勢，師曰：猶有這箇在，祖曰：這箇是甚麼？師無語，少選祖却於宴坐石上，書一佛字，師視之悚然，祖曰：猶有這箇在，未曉，乃稽首請說真要，祖曰：夫百千法門，同歸方寸，河沙妙德，忽在心源，一切戒門，定門，慧門，神通變化，悉自具足，不離汝心，一切煩惱業障，本來空寂，一切因果，皆如夢幻，無三界可出，無菩提可求，人與非人，性相平等，大道虛曠，絕思絕慮，如是之法，汝今已得，更無闕少，與佛何殊，更無別法，汝但任心自在，莫作觀行，亦莫澄心，莫起貪嗔，莫懷愁慮，蕩蕩無礙，任意縱橫，不作諸善，不作諸惡，行住坐臥，觸目遇緣，總是佛之妙用，快樂無憂，故名爲佛，師曰：心既具足，何者是佛？何者是心？祖曰：非心不問，佛問佛非，不心，師既不許作觀行，於境起時，心如何對治？祖曰：境緣無好醜，好醜起於心，心若不強

名，妄情從何起，妄情既不起，真心任徧知，汝但隨心自在，無復對治，卽名常住法身，無有變異，吾受璨大師頓教法門，今付於汝，汝今諦受吾言，只住此山，向後當有五人達者，紹汝玄化，祖付法訖，遂返雙峰，終老，師自爾法席大盛，唐永徽中，徒衆乏糧，師往丹陽綠化去，去山八十里，躬負米一石入斗，朝往暮還，供僧三百，二時不闕，三年(會元二) 璨大師者三祖也，黃檗吐舌。(會元三) 百丈大智再參馬祖，祖見來，豎起拂子，丈云：只觸此用，離此用，祖以拂子掛齋處，良久云：汝以後開兩片皮，將何爲人？丈亦豎起拂子，祖云：只觸此用，離此用，丈亦掛齋處，祖便振威一喝，丈大悟，直得三日耳聾，後黃檗來參，舉此途聞吐舌。

丹霞掩耳。(傳燈十四) 鄂州丹霞天然禪師，初參石頭，因緣相契，躬執爨役，凡三年，忽一日石頭告衆曰：來日剗佛殿前草，至來日，大衆與童行各備鐵鐮剗草，唯師以盆盛水洗頭，於和尚前胡跪，石頭見而笑之，便與剃髮，方與說戒法，師乃揜耳而去，後謁馬祖，入僧堂，騎聖僧頂，衆皆驚呼，祖見之曰：我子天然下來，師下作禮，曰：謝賜名。

龍牙行拳。(悟本法嗣)。(傳燈二十七) 龍牙僧問：十二時中，如何着力？師曰：如無手人欲行拳，始得。

俱胝豎指。(天龍法嗣)。(傳燈十一) 婺州金華山俱胝和尚，始以庵居，以尼實際激厲其志，方有慕大之心，俄然天龍至庵，因是具陳實際到庵之緣，扣之，天龍豎一指示之，師卽領悟，將示寂之秋，謂衆曰：吾得天龍一指頭禪，一生用不盡，言訖奄化。

提婆赤幡。(碧巖二) 第十五祖迦那提婆大士，初得法，已至巴連弗城，聞諸外道欲障佛法，

計之既久，大士乃執長幡，入彼衆中，其幡八尺，竿長丈二，於彼而立，更不移步。外道曰：汝何不前？曰：汝何不後？外道曰：汝似賤者，曰：汝似良人。外道曰：汝解何法？曰：汝百不解。外道曰：我欲得佛，曰：我灼然得。外道曰：汝不合得，曰：元道，我得。汝實不得。外道曰：汝既不得，云何言得？曰：汝有我故，所以不得。我無我故，自當得佛。彼既辭屈，乃問曰：汝名何等？曰：我名提婆。外道素聞其名，乃悔過致謝，梵曰：提婆，此云天。

玄沙白紙。〔會元七〕玄沙合僧馳書，僧上雪峰，峰上堂，開緘見三幅白紙，乃呈示大衆云：會麼？良久云：不見道。君子千里同風，僧歸舉似玄沙。沙曰：山頭老漢，蹉過也不知。

茂源掩鼻。〔性空法嗣〕傳燈十五：天台平田普岸禪師，嘗訪歙州茂源和尚，源才起迎，岸近前把住云：開口即失，閉口即喪，去此二途，請師別道。源以手掩鼻，岸放開云：一步較易，兩步較難。源云：著甚死急。岸云：若不是，師不免諸方檢點。

石霜咬齒。〔傳燈十五〕石霜僧問：如何是祖師西來意？師乃齧齒示之。僧不會，後問九峰曰：先師咬齒意旨如何？峯曰：我寧可截舌，不犯國諱。又問雲蓋，蓋曰：我與先師有甚麼冤讎？汾陽六人。〔會元十一〕汾州太子院善照禪師，天下道俗慕仰，不敢名，同曰：汾州，并汾地苦寒，師罷夜參，有異比丘，振錫而至，謂師曰：會中有大士六人，奈何不說法，言訖陞空而去。師密記以偈，曰：胡僧金錫光，請法到汾陽，六人成大器，勸請爲敷揚。

洞山三子。〔雲岩曇展嗣〕碧岩九：洞山曰：貪嗔癡太無知，賴我今朝識得伊。行時便打，坐時便搥，分付心王子，細推無量劫來不解脫。問：汝三人知不知？神昇諷曰：古人與麼道，神昇

則不然，貪嗔癡實無知，十二時中任從伊。行時即往，坐時即隨，分付心王，擬何爲，無量劫來元解脫，何須更問知不知。

招慶煎茶。〔道閑法嗣〕會元八：王太傅入招慶煎茶，時朗上座與明招把茶，銚朗翻却茶銚，太傅見問：上座茶爐下是什麼？朗云：捧爐神。太傅云：即是捧爐神，爲什麼翻却茶銚？朗云：仕官千日失在，一朝太傅拂袖便去，明招云：朗上座，招慶飯了，却去江外打野樵。朗云：和尚作麼生？招云：非人得其便。

雲岩拂地。〔藥山儼法嗣〕會元五：雲岩掃地，次道吾曰：太區區生，師云：須知有不區區者。吾曰：恁麼則有？第二月也。師豎起掃帚曰：是第幾月？吾便行。玄沙聞云：正是第二月。禪鑑符識。

青州應記。〔大陽立法嗣〕僧寶傳十七：〔下卷在青續大陽處〕○僧寶傳第十七云：投子義青禪師，本社人，李氏子也，移住投子云云。初開山慈濟，有記曰：吾塔若紅，是吾再來，邦人偶修飾其塔，作瑪瑙色，未幾青領院事。

首山綱要。〔風穴法嗣〕僧寶傳三：汝州首山省念禪師，綱宗偈曰：咄哉拙郎君，汾陽注曰：素潔條然，巧妙無人識，運機非面目，打破鳳林關，蕩盡玲瓏性，著靴水上立，塵泥自異，咄哉巧女兒，汾陽曰：妙智理分融，撥梭不解織，無間巧不立，看他關鷄人，旁觀審騰，距爭功不自傷，水牛也不識，全力能負，不露頭角。

明安宗旨。〔梁山靈觀嗣〕僧寶傳十三：明安曰：體妙失宗者，滯在語路，句失宗旨，機昧終

始者謂當機暗昧，只在語中，宗旨不圓，句句須是有語中無語，無語中有語，始得妙旨密圓也。

法華赴齋。（僧寶二十）法華志言大士者，莫知其所從來，初見之於景德寺，七俱胝院，梵相奇古，直視不瞬，口啄袈裟，不可識，相傳言誦法華經，故以爲名。至和三年，仁宗始不豫，國嗣未立，天下寒心，上夜焚香默禱曰：翌日化成殿，具齋，虔請法華大士，俯臨無却，清旦上道衣，凝立次待，俄馳奏言：法華自右腋門徑趨至寢殿，侍衛呵止不可，上笑曰：朕請而來也。有頃至，輒升御榻，跏趺而坐，受供訖，將去，上曰：朕以儲嗣未立，大臣咸以爲言，浸尋晚暮，嗣息有無，法華其一決之。師索筆引紙，連書曰：三十三，凡數十行，擲筆無他語，皆莫測其意。其後英宗登極，乃蹶安懿王第十三子，方驗前言也。

德普預祀。（夾山善會嗣）（僧寶傳二十九）禾山德普禪師，元祐五年十二月二十五日，謂左右曰：諸方尊宿，死叢林，必祭，吾以爲徒靈設，吾若死，汝曹當先祭，乃令從今辨祭，衆以其老又好戲語，復云：和尚幾時遷化，曰：汝輩祭絕，卽行。於是韓寢堂坐師其中，置祭讀文，跪揖上食，師飢浪自如，自門弟子下及莊力，日次爲之。至明年元日祭絕，曰：明日雲晴乃行，至時晴忽雪，雪止師安坐焚香而化。

長沙猛虎。（南泉法嗣）（傳燈十）湖南長沙景岑禪師，與仰山翫月次，山曰：人人盡有者箇，只是用不得，師云：恰是請汝用，山云：汝作麼生用，師擲胸一踢，踢倒，山起來云：爾直下似箇大蟲，自此諸方號爲岑大蟲。

百丈野狐。（會元三）百丈禪師每上堂，有一老人隨衆聽法，一日衆退，唯老人不去，師問：汝是何人，老人曰：某非人也，於過去迦葉佛時，曾住此山，因學人問：大修行底人，還落因果也無，某對曰：不落因果，遂五百生墮野狐身，今請和尚代一轉語，貴脫野狐身，師云：汝問老人曰：大修行底人，還落因果也無，師云：不昧因果，老人於言下大悟，作禮曰：某已脫野狐身，住在山後，敢乞依亡僧法，送師令維那白，推告衆，食後送亡僧，大衆聚議：一衆皆安，涅槃堂又無病人，何故如是，食後師領衆，至山後岩下，以杖挑出一死野狐，乃依法火葬，師至晚上堂，舉前因緣，黃檗便問：古人錯祇對一轉語，墮五百生野狐身，轉轉不錯，合作箇甚麼，師曰：近前來，向汝道，槩近前打師一掌，師拍手笑云：將謂胡鬚赤，更有赤鬚胡，馮山舉問：仰山，仰云：黃檗常用此機，馮云：汝道天生得從人得，仰曰：亦是稟受師承，亦是自性宗通，馮曰：如是如是，時馮山在會下作典座，司馬頭陀舉野狐話問典座，作麼生，座撼扇門三下，司馬曰：太麤生，座曰：佛法不是這箇道理。

汾陽師子。（會元十一）汾州上堂，謂衆曰：汾陽門下有西河師子，當門踞坐，但有來者，卽便咬殺，有何方便，入得汾陽門，見得汾陽人，若見汾陽人者，堪與祖佛爲師，不見汾陽人，盡是立地死漢。

江西馬駒。（會元三）馬大師諱道一，生漢州什仿，姓馬氏，六祖謂南岳曰：向後佛法從汝邊去，生一馬駒子，踏殺天下人，師道行江西，時人稱之爲馬祖。

紫胡獐狗。（南泉法嗣）（會元四）衡州子湖岩利蹤禪師，一日上堂云：子湖有一隻狗，上取

人頭中取人心，下取人足，擬議即喪身失命也。僧問：如何是子湖一雙狗？師曰：嗥嗥。
三聖瞎驢。〔臨濟法嗣〕。〔會元十一〕 臨濟臨遷化時，據坐云：吾滅後，不得滅却吾正法眼藏。
三聖出云：爭敢滅却和尚正法眼藏。濟云：已後有人問，爾向他道什麼？三聖便喝。濟云：誰知吾正法眼藏，向這瞎驢邊滅却，言訖端然示寂。

懶安白牯。〔百丈海法嗣〕。〔傳燈九〕 福州長慶大安禪師，號懶安，郡之陳氏子，受業於黃檗山，習律乘，嘗自念言：我雖勤苦而未聞玄極之理，乃孤錫遊方，將往洪井，路出上元，逢一老父，謂師曰：師往南昌，當有所得，師即造百丈，禮而問曰：學人欲來識佛，何者？師曰：大似騎牛覓牛，師曰：識得後如何？丈曰：如人騎牛至家，師曰：未審始終如何？保任？丈曰：如牧牛人執杖視之，不令犯人苗稼，師自茲領旨，更不馳求，同參祐禪師，創居馮山，師躬耕助道，及祐歸寂，衆請接踵住持，上堂，汝諸人，想來就安來覓甚麼？若欲作佛，汝自是佛，擔佛傍家走，如渴鹿趁陽燄，相似何時得相應去？汝欲作佛，但無許多顛倒攀緣，妄想惡覺垢淨，衆生之心，便是初心，正覺佛更向何處別討？所以安在馮山三十年來，喫馮山飯，屙馮山屎，不學馮山禪，祇看一頭水牯牛，若落路入草，便把鼻孔拽轉來，纔犯人苗稼，即鞭撻調伏，既久可憐生，受人言詮，今變作箇露地白牛，常在面前，終日露迤迤地，趁亦不去。
佛喚花奴。〔馬祖法嗣〕。〔傳燈八〕 温州佛喚和尚，僧問：如何是異類？師敲碗云：花奴花奴，喫飯來。
南山鼈鼻。〔傳燈十六〕 見前象骨鐵枷之處。

東海鯉魚。〔雲門錄〕 見前乾峰一路之下。

國師塔樣。〔六祖法嗣〕。〔會元二〕 西京光宅寺慧忠國師，以化緣將畢，涅槃時至，乃辭代宗，代宗曰：師滅後，弟子將何所記？師曰：告檀越，造取一所無縫塔，曰：就師請取塔樣，良久曰：會麼？曰：不會。師云：貧道去後，有侍者應真，卻知此事。師滅後，代宗詔應真入內，舉問前語，真良久曰：聖上會麼？曰：不會。述偈曰：湘之南潭之北，中有黃金充一國，無影樹下合同船，瑠璃殿上無知識。

貧福轆模。〔如寶法嗣〕。〔禪林類聚十五〕 鶴湖禪師，初開堂日，資福令人送轆模與師，師書火字封還，資福開封，見皺眉久不語，鹿苑和尚畫一圓相，福云：拘尸那國親行，此令。

鹽官索扇。〔馬祖法嗣〕。〔會元三〕 杭州鹽官鎮國海昌禪院齊安禪師，一日喚侍者，與我將犀牛扇子來，者云：扇子已破，師曰：扇子既破，還我犀牛兒來，者無對。

仰嶠呈珠。〔傳燈九〕 東邑因仰山來參，問云：汝何處人？山云：廣南人。邑云：廣南有鎮海明珠，是否？山云：是。明邑云：此珠作何形？山曰：白月則現，黑月則隱。邑曰：汝將得來否？山云：將得來。邑云：何不呈似老僧？山云：昨到馮山，亦就惠寂索此珠，直得無言可對，無理可伸。邑云：真師子兒，作大師子吼。

長慶淘金。〔雪峯法嗣〕。〔會元七〕 長慶僧問：衆生淘金，誰是得者？師曰：有伎倆者。曰：學人還得也無？師曰：大遠在。

伏牛下書。伊闕伏牛山自由禪師，與大寂送書與忠同師，國師問曰：馬大師以何法示徒？對

曰：即心即佛。國師曰：是甚麼語話。良久又問：此外更有甚麼言教。師曰：非心非佛。或云：不是心，不是佛，不是物。國師云：馬大師即恁麼，不審和尚此間如何。國師曰：三點如流水，曲似刈禾鎌。師後隱于伏牛山，此二句心字也。

惠然透網。（傳燈十二）鎮州三聖院惠然禪師，問雪峰云：透網金鱗，以何爲食。峯云：待爾透網來，卽向爾道。師云：一千五百人善智識，話頭也不識。

希運掃髮。（會元十一）見前黃檗一掌之下。

傳明散衆。（船子法嗣）（傳燈十五）夾山會禪師，謚傳明大師，散衆之事，見船子得鱗處。

慈受棄徒。（會元十六）東京惠林懷深慈受禪師，祝髮後四年，訪道方外，依淨照於嘉禾資

聖，照舉良途，見麻谷因緣，問曰：如何是良途。知處師卽洞明，出住資福，屢滿戶外，蔣山佛鑑

勲禪師，行化至師，引巡察，至千人街坊，鑑問：既是千人街坊，爲甚麼祇有一人。師云：多虛不

如少實。鑑云：恁麼那。師赧然，偶朝廷以資福爲神霄宮，道士宮也，因棄往蔣山，留西庵，陳請

益，鑑曰：資福知是般事，便休。師云：某實未穩，望和尚不外。鑑舉情女離魂語，反覆窮之，大悟。

疑碍，呈偈曰：祇是舊時行履處，等閑舉著便誚訛。夜半一陣狂風起，吹落桃花知幾多。鑑拈

几曰：這底豈不是活祖師意。未幾被旨住焦山。

三峰玉瑄。（會元十一）臨濟行脚時，到三峰平和尙處，平問：甚處來。濟曰：黃檗來。平曰：黃檗

有何言句。濟曰：金牛昨夜遭塗炭，直至如今不見蹤。平曰：金風吹玉管，那箇是知音。濟曰：直

透萬重關，不住青霄內。平曰：子這一問，太高生。濟曰：龍生金鳳子，衝破碧琉璃。平曰：且坐喫

茶。

大哥金鋤。（青林虔嗣）（會元十三）襄州石門獻齋禪師，京兆人也，初問青林，如何用心，得

齊於諸聖。林仰面良久曰：會麼。師曰：不會。林曰：去。無子用心處。師禮拜，乃契悟，更不他遊，遂

作團頭。一日歸侍立次，林曰：子今日作甚麼來。師云：種菜來。林曰：徧界是佛身，子向甚處來

種。師云：金鋤不動土，靈苗在處生。林欣然，來日入園，喚齋園梨。師應諾。林曰：刺我無影樹，留

與後人看。師曰：若是無影樹，豈受我耶。林曰：不受我，且止。爾曾見他枝葉麼。師云：不曾見。林

曰：既不曾見，爭知不受我。師云：祇爲不曾見，所以不受我。林曰：如是如是。初住南岳，爾若未

幾遷夾山，道由潭州，時楚王馬氏，出城迎接，便問：如何是祖師。西來大意。師云：好大哥，御駕

六龍千古秀，玉街排仗出金門。王大喜，延入天冊府，供養數日，方至夾山。僧問：如何是西來

意。師曰：玉璽不離天子手，金箱豈許外人知。問：不落機關，請師便道。師曰：湛月還機無可比，

君今曾問幾人來。曰：卽今問和尚。師云：好大哥，雲綻不須落九尾，恕君殘壽速歸丘。師以蠻

夷作亂，遂離夾山，至襄州，創石門寺，再振玄風。僧問：月生雲際時如何。師曰：三箇孩兒抱華

鼓，好大哥，莫來攔我毬門路。師應機多云：好大哥，時稱大哥和尚。

德山行棒。（傳燈十五）朗州德山宣鑑禪師，凡見僧入門便棒。○傳燈第十五云：師尋常遇

僧到參，多以拄杖打。臨濟聞之，遣侍者來參。德山若打汝，但接取拄杖，當胸一拄。侍者到方

禮拜，師乃打。侍者接得拄杖，與一拄。師歸方丈，侍者廻舉，似臨濟。臨濟云：從來疑遮箇漢。

臨濟下喝。（入天眼目）臨濟凡見僧入門便喝。○入天眼目云：師謂僧曰：有時一喝，如金剛

王寶劍有時一喝，如踞地師子；有時一喝，如探竿影草；有時一喝，不作一喝用。汝作麼生會，僧擬議，師便喝。

趙州布衫。〔傳燈十〕 趙州僧問，萬法歸一，一歸何處。師云：我在青州作一領布衫，重七斤。普化直襪。〔傳燈十〕 普化一日於街市中，就人乞直襪，人皆與之。師俱不要，臨濟令院主買一箱。一具，師歸來，濟云：與汝做得箇直襪了也。師便自擔去，繞街市，叫云：臨濟與我做直襪了也。我往東門遷化去，市人競隨看之。師云：我今日未來，日往南門遷化去，如是三日，人皆不信。至第四日，無人隨看，獨出城外，自入棺內，倩路行人釘之。即時傳布，市人競往開棺，乃見全身脫去，祇聞空中鈴響隱隱而去。

佛日茶籃。〔會元十三〕 杭州佛日本空禪師，行脚時到夾山，夾山一日普請次，維那命師送茶。師云：某爲佛法來，不爲送茶來。那云：和尚令請上座。師云：和尚卽得，師乃將茶去作務處。見夾山，遂撼茶甌，作聲，山不同。願。師云：齏茶三五椀，意在饜頭邊。山云：餅有傾茶勢，籃中幾箇甌。師云：餅有傾茶勢，籃中無一甌，便傾茶大衆皆舉目。師云：大衆鶴望，請師一言。山云：路逢死蛇莫打殺，無底籃子盛將歸。師云：手執夜明符，幾箇知天曉。山召大衆，已有人也歸去來，乃住普請。

道者酒榼。〔林間錄下〕 宗道者不知何許人，往來舒蘄間，多留於投子，性嗜酒，無日不醉，村民愛敬之，每飽以醇醪，居一日，方入浴，聞有尋宗者，度其必送榼至，裸而出，得酒徑去，人皆大笑，而宗傲然不作，嘗散衣下山，有迹而問者，如何是道者家風，對云：袈裟裏草鞋，意旨如

何。曰：赤脚下桐城。陳退夫初赴省韓，過宗，戲問曰：確此行，欲作狀元，得否。宗熟視曰：無時卽得，莫測其言也。而退夫果以第三名上第，時彥作魁，方悟無時之語。宗見雪竇，而超放自如，言法華之流也。

香林一燈。〔雲門法嗣〕。〔傳燈二十二〕 益州青城香林院澄遠禪師，僧問：如何是室內一盞燈。師云：三人證龜成鼈。

賢女三物。〔會元一〕 七賢聖女姊妹，同遊屍陀林，一姉指屍曰：屍在這裏，人在甚處。諸姉諦觀，悉皆悟道。感帝釋雨花，贊歎曰：諸姉有何所須，我能給施。女曰：我家四事七珍具足，唯要三般物，一無根樹一株，二無陰陽地一片，三叫不應谷一所。帝釋曰：一切所須，我悉有之。若此三物，我實無之，遂同往白佛。佛言：我諸弟子，不解此義，唯諸菩薩乃解此義。

石頭碌磚。〔青原法嗣〕。〔傳燈十四〕 南岳石頭希遷禪師，於唐天寶，荐之衡山南寺，寺之東有石狀如臺，乃結庵其上，時號石頭和尚。僧問：如何是禪。師云：碌磚。問：如何是道。師云：木頭。雲門屎橛。〔雲門錄〕 僧問：雲門如何是佛。師云：乾屎橛。

二僧卷簾。〔傳燈二十四〕 法眼因僧齋前上參，師以手指簾，時有二僧同去卷簾，師云：一得一失。

三老翫月。〔會元三〕 馬祖與百丈，西堂南泉，翫月次，祖曰：正當與麼時如何。堂曰：正好修行。丈曰：正好供養。泉拂袖便行。祖曰：經入藏，禪歸海，唯有南泉獨超物外。

惠滿二針。〔傳燈三〕 相州隆化寺惠滿禪師，志存儉約，唯蓄二針，冬則乞補，夏則捨之，自云：

一 生心無法怖，身無蠢蠢睡而不夢，常行乞食，住無再宿，所至伽藍，破柴製履。
古德三轍。(會元三) 藥山惟儼禪師，一日馬祖問：子近日見處作麼生？師曰：皮膚脫落盡，唯一真實有。祖曰：子之所得，可謂協於心體，布於四肢，既然如是，將三條篋束取肚皮，隨處住山去。

演師禮字。五祖法演禪師，在受業寺，逐字禮蓮經，一夕遇屎字，欲唱禮蓮疑，乃白諸老宿曰：如何屎字，亦稱爲法寶，某禮至此，疑不自解。老宿曰：據汝所問，可以南詢，汝正是宗門中根器也。祖遂南遊。

行者唾佛。(會元六) 有一行者，隨法師入佛殿，行者向佛而唾，法師曰：行者少去，就何以唾佛？行者曰：將無佛處來，與某甲唾，師無對。

東坡解帶。(東林總弟子)。(會元十六) 南康軍雲居山了元佛印禪師，一日與學徒入室次，適東坡居士到，面前師云：此間無坐榻，居士來，此作甚麼？士曰：暫借佛印四大爲坐榻，師云：山僧有一間，居士若道得，即請坐，道不得，即輸腰下玉帶子。士欣然曰：便請。師云：居士適來道，暫借山僧四大爲坐榻，祇如山僧四大本空，五陰非有，居士向甚麼處坐？士不能答，遂留玉帶，師却贈以雲山衲衣，士乃作偈曰：百千燈作一燈光，盡是恒沙妙法王，是故東坡不敢惜，借君四大作禪床，病骨難堪玉帶圍，鈍根仍落箭鋒機，會當乞食歌姬院，奪得雲山衲衣，此帶閱人如傳舍，流傳到我亦悠悠，錦袍錯落猶相稱，乞與伴狂老萬回。

表休納笏。(黃檗弟子)。(禪林類聚十七) 石霜諸禪師，表相國來，師拈起表笏問：在天子手中爲珪，在老僧手中且道，喚作甚麼？表無對，師乃留下笏。

舜老民衣。(洞山聰法嗣)。(僧寶傳中) 雲居舜老夫住棲賢，群將貪墨，師不忍，以常住物，結

情固位，尋有謔於群將，民其衣，乃寓太平庵，仁廟聞其道行，復以僧服，龜鉢孟，再領棲賢入院，有偈曰：無端被謔枉遭迍，半載有餘作俗人，今日再歸三峽寺，幾多道好幾多嗔。

芙蓉束髮。(投子青法嗣)。(僧寶傳中) 芙蓉道楷禪師，大觀元年，開封尹李孝壽奏楷道行卓冠叢林，宜有以褒顯，即賜紫御梨，號定照禪師，云云。後遭罪，著緹掖束髮。○楷焚香謝恩罷，上表辭之曰：伏蒙聖慈，特差彰善閣祇候諱諱，賜臣定照禪師號，及紫衣牒一道，臣感戴睿恩已，即時焚香升座，仰祝聖壽，訖伏念臣行業迂疎，道力綿薄，常發誓願，不受利名，堅持此意，積有歲年，庶幾如此，傳道後來，使人專意佛法，今雖蒙洪恩，若遂忝冒，則臣自違素願，何以教人，豈能仰稱陛下所以命臣住持之意，所有前件恩牒，不敢祇受，伏聖慈，察臣微悃，非敢飾詞，特賜俞允，臣沒齒行道，上報天恩，下下聞之，以付李孝壽，躬往諭朝，旌善之意，而楷確然不回，開封尹具以聞，上怒，以付有司，有司知楷忠誠，而適犯天威，問曰：長老枯悴，有疾乎？楷曰：平日有疾，今實無，又曰：言有疾，即於免罪，謹楷曰：豈敢僥倖而求脫罪，謹乎？吏大息，於受罰著緹掖，編管淄州，都城道俗，見者流涕。

思大吞佛。(北齊惠文弟子)。(會元二) 寶誌，令人傳語與思大曰：何不下山救化衆生，目視雲漢，作甚麼？師曰：三世諸佛，被我一口吞盡，有何衆生可度。

大士講經。(傳燈二十七) 梁武帝請傳大士講金剛經，大士纔陞座，以尺揮案一下，便下座。

武帝愕然，誌公問：陛下還會麼？帝云：不會。誌公云：大士講經竟。

老盧幡動。（會元七）六祖自傳衣之後，至儀鳳初，屆南海，遇印宗法師於法性寺，講涅槃經，祖寓止廊廡間，因風颺利竿，旛動，聞二僧對論，一云：幡動，一云：風動，往復數回，曾未契證，祖云：可容俗士預高論，不僧曰：試爲說看，祖云：不是風動，不是幡動，仁者心動，僧於言下大悟，印宗竊聽此語，竦然異之。

僧伽鈴鳴。（會元一）伽耶舍多，初見十七祖僧伽難提時，持一寶鑑，趨迎於前，難提問云：汝持圓鑑，意欲何爲，舍多童子，乃以偈答曰：諸佛大圓鑑，內外無瑕翳，兩人同得見，心眼皆相似，父母以其與難提應對有異，遂使之出家，難接受之，携還精舍，他日風撼其殿之銅鈴，鏗然發聲，復問曰：鈴鳴乎？風鳴耶？答曰：非風非鈴，我心鳴爾。

麻谷振錫。（馬祖法嗣）（傳燈五）麻谷持錫到章敬，遶禪床三匝，振錫一下，卓然而立，敬云：是是，麻谷又到南泉，遶禪床三匝，振錫一下，卓然而立，泉云：不是不是，麻谷云：當時章敬道：是和尙爲什麼？道不是，泉云：章敬卽是是，爾不是，此是風力所轉，終成敗壞。

普化搖鈴。（會元四）鎮州普化和尙者，不知何許人也，師事盤山，密受真訣，而伴狂出言無度，暨盤山順世，乃於此地行化，或城中，或塚間，振一鐸曰：明頭來，明頭打，暗頭來，暗頭打，四方八面來，旋風打，虛空來，連架打，一日臨濟，令僧捉住曰：總不恁麼來時如何？師拓開云：來日大悲院裡有齋，僧回舉似濟，濟曰：我從來疑著這漢，凡見人無高下，皆振鐸一聲，時號普化和尙，或將鐸就人耳邊振之，或拊其背，有回顧者，卽展手曰：乞我一錢，師嘗於園闔間，搖

鐸唱云：竟箇去處不可得，時道吾遇之，把住問曰：汝擬去甚處？師曰：汝從甚麼處來？吾無語，師擊手便去。

隱山晦迹。（馬祖法嗣）（傳燈八）潭州龍山禪師，亦名隱山，洞山价禪師，初遊方，與密伯師者偕行，經長沙龍山之下，見溪流菜葉，价回瞻峯巒深透，謂密曰：箇中必有隱者，乃並溪而進十許里，有老僧，癯甚，以手加額，呼曰：此間無路，汝輩何自而至？价曰：無路且置，庵主自何而入？曰：我不曾雲水，价曰：庵主住山幾計時？曰：春秋不涉，价曰：庵主先住耶？曰：不知，价曰：爲什麼不知？曰：我不曾人天來，价曰：得何道理，便爾住山？曰：我見泥牛闌入海，直至而今無消息，价卽班密之下，而拜之，問：如何是主中賓？曰：青山覆白雲，又問：如何是主中主？曰：長年不出戶，又問：主賓相去幾何？曰：長江水上波，又問：賓主相見，有何言說？曰：清風拂白月，价再拜求依止，老僧笑云：三間茆屋從來住，一道神光萬境閑，莫作是非來辨我，浮生穿鑿不相關，於是自焚其庵，深入層峯。

洞山除名。（曇晟法嗣）（傳燈十五）洞山將圓寂，謂衆云：吾閑名世，誰爲吾除得？衆皆無對，時沙彌出曰：請和尙法號，師曰：吾閑名已謝。

盧陵米價。（會元五）青原僧問：如何是佛法大意？師云：盧陵米作什麼價？

偃溪水聲。（會元七）玄沙因鏡清來參問，學人乍入叢林，乞師指箇入處，沙云：還聞偃溪水聲麼？清云：聞，沙云：從者裏入，清忽大悟。

大士側坐。雙林傳云：善惠大士受武帝請，於重雲殿講三惠般若，王公貴人，或見大士坐不

正問曰：何不正坐？答曰：正人無正性，側人無側心。

道者橫行。（德山遠法嗣）（會元十五）廬山開先善暹禪師，臨江軍人也，操行清苦，徧游師廬，以明悟爲志。參德山，見山上堂，顧視大眾曰：師子嘯呻，象王回顧，師忽有省，入室陳所解。山曰：子作麼生會？師曰：後園驢喫草，山然之。後至雪竇，竇與語，喜其超邁，目曰：海上橫行通道者，遂命分座，四方英衲敬異之。

智岩懸囊。（牛頭融法嗣）（會元二）牛頭山智岩禪師者，曲河人也，姓華氏，弱冠智勇過人，身長七尺六寸，隋大業中爲郎將，常以弓挂漣瀝水囊，隨行所至，汲用累從。大將往討，頻立戰功。唐武德中，年四十，遂乞出家。

惠忠掛鐺。（牛頭智威嗣）（會元二）惠忠禪師，平生一袴一鎗，常有供僧穀兩廩，三虎爲之守，靈異甚夥，度人亦甚衆。

佛日豆爆。（雲居膺法嗣）（傳燈二十）佛日禪師參夾山，山問：什麼處來？師曰：雲居來。山曰：即今在什麼處？師云：在夾山頂上。山曰：老僧行年在坎，五鬼隨身，師上階禮拜，山問：關梨與什麼人同行？師云：木上座。山曰：何不來看？師云：和尚看他有分。山曰：在什麼處？師云：在堂中。山相共下堂，師乃取拄杖擲山前，曰：莫從天台得來否？師云：非五岳之所生。山曰：莫從須彌山得來否？師云：月宮亦不逢。山曰：怎麼即從人得也？師曰：自己尙是冤家，從人得堪作什麼？山曰：冷灰裏有一粒豆爆，喚維那來，明窓下安排着。

典座蟲生。（傳燈十五）石霜諸禪師，初造大渴，願藉名役作，勤勞杵臼間甚久，祐見之，疑處

曰：檀信物不可拋撒，曰：不敢，祐俯拾得一粒，曰：此非拋撒者耶？師擬對之，祐曰：勿輕此一粒，百千粒從此粒生，曰：卽如是，此粒從何生乎？祐爲大笑，至晚陞座，曰：大眾來，理有蟲。

惠可了了。（傳燈三）初祖初居少林寺九年，爲惠可說法，祇教曰：外息諸緣，內心無喘，心如墻壁，可以入道。師種種說，心性理道未契，祖祇遮其非，不爲說。無念心體，師云：我已息諸緣。祖曰：莫不成斷滅去否？師云：不成斷滅。祖云：何以驗之？云：不斷滅。師曰：了了常知，故言之不可及。祖云：此是諸佛所傳心體，更勿疑也。

瑞岩惺惺。台州瑞岩彥禪師，一生常坐，喚主人公，復自應諾，乃云：惺惺着，向後莫被人欺瞞。後有僧到，玄沙舉似，沙云：一等是弄精魂也，甚奇怪。沙復云：何不且在彼中？僧云：已遷化了。沙云：而今喚應否？僧無對，沙云：蒼天蒼天。慈道罐破。

文悅益傾。（大愚守芝嗣）（僧寶傳下）雲峯文悅禪師坐後架，架下東破桶盆，自架而墮，忽開悟，頓見芝從前用處，走搭伽梨上，寢堂，芝迎笑云：維那且喜大事了畢，師再拜汗下，不及吐一詞而去，服勤八年。官人千衆，惠安單丁。

清涼十願。（華嚴第四之祖）清涼國師澄觀，字大休，會稽人，姓夏侯氏，卽以十事自勵，曰：體不損沙門之表，心不違如來之制，坐不背法界之經，性不染情碍之境，足不履尼寺之塵，脇

不觸居士之榻，目不視非義之綵，舌不味過午之饌，手不釋圓明之珠，宿不離衣鉢之側，云云，見六學僧傳。

達磨四行。(傳燈三十) 達磨大師略辨大乘，入道四行，夫入道多途，要而言之，不出二種，一是理入，二是行入，理入者，謂藉教悟宗，深信含生同一真性，但爲客塵妄想所覆，不能顯了，若也捨妄歸真，凝住壁觀，無自無他，凡聖等一，堅住不移，更不隨於文教，此即與理冥符，無有分別，寂然無爲，名之理入，行入者，謂四行，其餘諸行，悉入此中，何等四耶，一、報冤行，二、隨緣行，三、無所求行，四、稱法之行，云何報冤行，謂修道行人，若受苦時，當自念言，我從往昔無數劫中，棄本從末，流浪諸有，多起冤憎，違害無限，今雖無犯，是我宿殃惡業，果熟非天，非人所能見知，甘心忍受，都無冤訴，經云，逢苦不憂，何以故，識達故，此心生時，與理相應，體冤進道，故說言報冤行，二、隨緣行者，衆生無我，並緣業所轉，苦樂齊受，皆從緣生，若得勝報榮譽等事，是我過去宿因所感，今方得之，緣盡還無，何喜之有，得失從緣，心無增減，喜風不動，冥順於道，是故說言隨緣行也，三、無所求行者，世人長迷，處處貪著，名之爲求，智者悟真理將，俗反，安心無爲，形隨運轉，萬有斯空，無所願樂，功德黑暗，常相隨逐，三界久居，猶如火宅，有身皆苦，誰得而安，了達此處，故舍諸有，息想無求，經云，有求皆苦，無求乃樂，判知無求，真爲道行，故言無所求行也，四、稱法行者，性淨之理，目之爲法，此理衆相斯空，無染無著，無此無彼，經云，法無衆生，離衆生垢，故法無有我，離我垢，智者若能信解此理，應當稱法而行，法體無慳，於身命財，行檀捨施，心無恪惜，達解三空，不倚不著，但爲去垢，稱化衆生，而不取相。

此爲自行，復能利他，亦能莊嚴菩提之道，檀施既爾，餘五亦然，爲除妄想，修行六度，而無所行，是爲稱法行。

長髯功德。(傳燈十四) 長髯曠禪師，初參石頭，頭問甚麼處來，曰：大庾嶺頭來，曰：嶺頭一舖，功德成就也未，曰：成就了，只欠點眼，曰：莫眼點否，曰：便請，石頭垂下一足，師便禮拜，曰：見什麼道理，禮拜，曰：如紅爐一點雪。

黃梅佛性。(傳燈十三) 五祖大滿禪師，因有一居士，姓盧，名惠能，自蘄州來參，師云：汝自何來，曰：嶺南，師曰：欲須何事，曰：唯求作佛，師云：嶺南人無佛性，若爲得佛，曰：人有南北，佛性豈然，師知是異人，迺呵曰：著槽廠去，能禮足而退，便入於杓臼之間，服勞。

善財採藥。(會元二) 文殊合善財採藥云：是藥採將來，善財拈起一枝草，度與文殊，文殊接得，示衆云：此藥亦能殺人，亦能活人。

大慈識病。(百丈法嗣)。(會元四) 杭州大慈寰中禪師，示衆云：山僧不解答話，只是識病時，有僧出，師便歸方丈。

馬祖展足。(傳燈八) 鄒隱峯，一日推車次，馬祖展脚在路上坐，峯云：請師收足，祖云：已展不縮，峯云：已進不退，迺推車碾過，損祖脚，祖歸法堂，執斧子云：適來碾損老僧脚，底出來，峯便出於祖前，引頸，祖迺置斧。

大覺引頸。(禪林類聚十七) 魏府大覺禪師，僧問：學人仗鎧鎗劍，擬取師頭時如何，師便引頸，僧云：斬便打。

靈祐踢瓶。(會元九) 百丈海禪師因司馬頭陀。湖南來謂丈曰。頃在湖南尋得一山名大
馮。是一千五百人善知識所居之處。丈曰。老僧住得否。陀曰。非和尚所居。丈曰。何也。陀曰。和
尚是骨人。彼是肉山。設居徒不盈千。丈曰。吾衆中莫有人住得否。陀曰。待歷觀之時。華林覺
爲第一座。丈令侍者請至。問曰。此人如何。陀請警歎一聲。行數步。陀曰。不可。丈又令喚靈祐
禪師。師時爲典座。陀一見乃曰。此正是馮山主人也。丈是夜召師入室。變曰。吾化緣在此。馮
山勝境。汝當居之。嗣續吾宗。廣度後學。而華林聞之曰。某甲忝居上首。典座何得住持。丈曰。
若能對衆。下得一語出格。當與住持。即指淨瓶問曰。不得喚作淨瓶。汝喚作什麼。林曰。不可。
喚作木椀也。丈乃問師。師踢倒淨瓶。便出去。丈笑曰。第一座輪却山子也。師遂住焉。是山峭
絕。復無人煙。猿猴爲伍。橡栗充食。經于五七載。絕無來者。師自念言。我本住持。爲利益於人。
既絕往還。自善何濟。即捨庵而欲他往。行至山口。見蛇虎狼豹交橫在路。師云。汝等諸獸。不
用。擱吾行路。吾若於此山有緣。汝等各自散去。吾若無緣。汝等不用動。吾從路過。一任喫言
訖。蟲虎四散去。師乃回庵。未及一載。安上座。(即懶安也) 同數僧從百丈來。輔佐於師。安
曰。某與和尚作典座。待僧及五百人。不論時節。即不造粥。便放某甲下。自後山下居民。稍稍
知之。率衆共營梵宇。連帥李景讓。奏號同慶寺。相國裴公休。嘗咨玄奧。繇是天下禪學輻輳
焉。

寂子撲鏡。(仰山名惠寂)。(傳燈十一) 仰山因馮山。送一面鏡來。接得上堂云。且道是馮山
鏡。仰山鏡。若道是馮山。又在仰山手裡。若道是仰山底。又是馮山送來。道得即不打破。道不

得即打破。三問衆。無對。遂撲破。

悟本鏗頭。(曇晟法嗣)。(會元十三) 洞山與密師伯。鉏茶園。師擲下鏗頭曰。我今日一點氣

力無。密曰。若無氣力。爭解恁麼道。師曰。汝將謂有氣力底是。

烏臼杓柄。(馬祖法嗣)。(會元三) 烏臼和尚問僧。近離甚處。曰。定州。師云。定州悟道何似這

裡。曰。不別。師云。若不別。更轉被中去。便打。僧云。棒頭有眼。不得草草打人。師云。今日打著一

箇。也打三下。僧便出去。師云。屈棒元來有人喫。在。曰。爭奈杓柄在。和尚手裏。師云。汝若要。山

僧回與。汝僧近前奪棒。打師三下。師曰。屈棒屈棒。曰。有人喫。在。師曰。草草打著箇漢。僧禮拜。

師云。卻與麼去也。僧大笑而出。師曰。消得恁麼。

良禪破關。(傳燈十七) 良禪客問欽山。一鏃破三關時如何。山曰。放出關中主看。良云。恁麼

則知過必改。山云。更待何時。良云。好箭放着所在。便出。山云。且來闍梨。良回首。山把住云。一

鏃破三關。即且止。試與欽山發箭看。良擬議。山打七棒云。且聽這漢。疑三十年。

女子出定。(會元一) 諸佛要集經。文殊尸利欲見佛集。不能得到。諸佛各還本處。文殊尸利

到諸佛集處。有一女人。近彼佛坐。入三昧。文殊尸利入禮佛足。已。白佛言。云何此女人。得近

佛坐。而我不得。佛告文殊尸利。汝覺此女人。令從三昧起。汝自問之。文殊尸利即彈指覺之。

而不可覺。以大聲喚。亦不可覺。投手牽亦不可覺。又以神足動三千大千世界。猶亦不覺。文

殊尸利白佛言。我不令覺。是時佛放大光明。照下方世界。是中有。一菩薩。名棄諸蓋。即時從

下方來到佛所。頭面禮足。一面而立。佛告棄諸蓋菩薩。汝覺此女人。即時彈指。此女從三昧

起文殊尸利白佛以何因緣我動三千大千世界不能令此女起棄諸蓋菩薩一彈指便從三昧起佛告文殊尸利汝因此女初發阿耨多羅三藐三菩提是女人因棄諸蓋菩薩發阿耨多羅三藐三菩提以是故汝不能令覺頌家謂網明菩薩乃傳燈錄所載未詳按何經論檢藏乘不見所出祖庭事苑文名也

曇照叫苦〔南泉法嗣〕會元四 荆南白馬曇照禪師常云快活快活及臨終叫苦苦閻羅老子來取我也院主問曰和尚當時被節度使拋向水中神色不動如今何得恁麼地師舉枕子云汝道當時是如今是院主無對

亡僧索命〔聯燈五〕鹽官會下有一主事僧將死鬼使來取僧告曰某甲身為主事未暇修行乞容七日得否使曰待爲白王若許卽七日後來不然須臾便至言訖去至七日後方來覓其僧不見後有人舉問一僧若來時如何擬抵他洞山代云被他覓得也

大容林蟬

古德爛杏〔禪林類聚十七〕僧問白兆和尚如何是萬行兆云今年桃核也無說什麼爛杏

翠岩把梢〔慈明法嗣〕林間錄下 福州海善侍者慈明高弟當時龍象數道吾真楊岐會

然皆推服之嘗至金鑿真點胸云云開法於翠岩嘗曰天下佛法如一隻船大寧道寬師兄坐頭南福頭在其中可真把梢去東也由我去西也由我善公尋還七閩云云

風穴據令

石鞏赴鹿〔會元三〕石鞏昔爲弋者因逐群鹿從馬祖庵前過問祖曰和尚見鹿過不祖置

曰汝是何人曰獵者祖曰汝解射曰解射祖曰汝一箭射幾個曰一箭射一箇祖曰汝不解射曰和尚莫解射不祖曰解射曰一箭射幾箇曰一箭射一群曰彼此是命何用射他一群祖曰汝既知如是何不自射曰若教某甲自射直是無下手處祖曰者漢曠卻無煩惱今日頓息師卽毀弓箭截髮投祖出家

南泉斬貓〔傳燈八〕南泉一日東西兩堂爭貓兒師見提起云道得卽不斬衆無對師斬貓兒爲兩段

祇林揮劍〔永泰端法嗣〕湖南祇林和尚每叱文殊普賢皆爲精魅手持木劍自謂降魔才有僧參禮便云魔來也魔來也以劍亂揮歸方丈如是十二年後置劍無言僧問十二年前爲甚麼降魔師云賊不打貧兒家十二年後爲甚麼不降魔師曰賊不打貧兒家

藥幡抽刀〔石頭法嗣〕會元五 藥山與雲岩遊山腰間刀響岩問甚麼物作聲師抽刀口作斫勢

實際頂笠〔馬祖法嗣〕俱胝祖師初住菴有尼實際到菴戴笠子執錫遶師三匝云道得卽拈下笠子三問師皆無對尼便去師云日勢稍晚且留一宿尼曰道得卽宿師又無對尼去惠圓腰包 惠圓上座開封酸棗于氏子世業農少依邑之建福寺德光爲師性椎魯然勤渠祖道堅坐不臥居數歲得度出游廬山至東林寺每以己事請問朋輩見其貌陋舉止乖踈渠皆戲侮之一日行殿庭中忽足顛而仆了然開悟作偈俾行者書於壁曰這一交這一交萬兩黃金也合消頭上笠腰下包清風明月杖頭挑卽日離東林衆傳至照覺覺大喜曰衲子

參究若此善不可加，令人迹其所往竟無知者，照覺東林寺老。

上座鼻孔。鼓山問孚上座，父母未生前鼻孔在甚麼處，孚云：師兄先道，山云：只今生也，鼻孔在甚麼處，孚不肯，山云：備作麼生，孚云：將手中扇來，山以扇度與之，再問，孚點置之，山遂打一拳。

翠岩眉毛。〔雪峯存法嗣〕。〔會元七〕 翠岩夏末示衆云：一夏已來，爲兄弟說話，看翠岩眉毛在麼。

杉山拈尺。〔禪林類聚十七〕 杉山禪師，一日與龍居士坐次，師拈起尺子云：居士還見麼，士云：見，師云：見箇什麼，士云：杉山，師云：不得道著，云：爭得不道，師拋下尺子，居士云：有頭無尾，得僧，師云：不是者，老子今日還道不及，什麼處，師云：有頭無尾處，士云：強中覓弱，即得，弱中覓強，即無，師把住云：這老漢，就中無活處，無活處。

義存斫槽。〔會元七〕 洞山一日問雪峯，作甚麼來，峯曰：斫槽來，山曰：幾斧斫成，峯曰：一斧斫成，山曰：猶是這邊事，那邊事作麼生，峯休去，汾陽代云：某甲早困也。

座主鬼窟。〔傳燈七〕 鹽官因有講僧來參，師問云：座主蘊何事業，對云：講華嚴經，師云：經中有幾種法界，對云：廣說則重重無盡，略說則有四種法界，師豎起拂子云：遮箇是第幾種法界，座主沈吟徐思，其對師云：思而知，慮而解，是鬼家活計，日下孤燈，果然失照，果然失照，夾嶺鳳巢。〔夾山會法嗣〕。〔傳燈十六〕 澧州樂普山元安禪師，至夾山，庵子家巖夾山訝之，以書抵安，誠使者曰：此僧得書不發，明日當來，發之不來也，安得書果置之不答，使者具以

告夾山，夾山曰：且暮必至矣，俄報安至，夾山望見，呵曰：鷄棲鳳巢，非其同類，出去，安乃問曰：自遠趨風，請師一接，夾山曰：目前無閣梨，此間無老僧，安曰：錯，夾山曰：住住，且莫草草，思慮雲月是同，溪山各異，截斷天下人舌頭，則不無閣梨，爭教無舌人解語乎，安茫然不知答，夾山以杖擊之，安因茲服膺數歲。

泐潭苦瓜。〔龍潭信法嗣〕。〔傳燈十五〕 洪州泐潭寶峯和尚，有僧新到，師謂曰：其中事即易，不落其中事，始終難道，僧曰：某甲在途時，便知有此一問，師曰：更與二十年行脚，也不較多，曰：莫不契和尚意麼，師云：苦瓜那堪待客。

香林甜桃。

義玄拄鐮。〔傳燈十一〕 臨濟普請鋤地次，見黃檗來，拄鐮而立，檗云：這漢困那，師云：鐮也未舉，困箇什麼，檗便打，師接住棒，一送送倒，檗喚維那，維那扶起我，維那近前扶云：和尚爭容，得這風顛漢無禮，檗纔起打維那，師鐮地云：諸方火葬我，這裡一時活埋。

惠寂插鉢。〔傳燈十一〕 潞山忽問仰山，甚麼處來，仰曰：田中來，潞曰：田中多少人，仰插鉢而立，潞曰：今日南山大有人，仰舉鉢而去。

靈源真告。〔黃龍祖心法嗣〕。〔普燈六〕 黃龍佛壽禪師，名惟清，字覺天，號靈源叟，臨終前十日，自作無生常住真歸告銘曰：賢劫第四尊，釋迦文佛，直下第四十八世孫，惟清，雖從本覺，應緣出生，而了緣即空，初無自性，氏族親里，莫得而詳，但以正因一念，爲所宗承，是爾釋迦之遠孫，其號靈源叟，據自了因，所了妙性，無名字，中示稱謂耳爾，臨濟無位真人，傳大士之

心王類矣，亦正法眼藏，涅槃妙心，唯證乃知，餘莫能測者歟。所以六祖問讓和尚，什麼處來，曰：嵩山來。祖曰：什麼物恁麼來。曰：說似一物即不中。祖曰：還假修證否。曰：修證即不無，污染即不得。祖曰：即此不污染，是諸佛之所護念。汝既如是，吾亦如是。茲蓋獨標清淨法身，以遵教外別傳之宗，而揀云報化非真佛，亦非說法者，然非無報化，大功用謂若解通報化，而不頓見法身，則滯污染緣，乖護念旨，理必警省耳。夫少室道行，光騰後裔，則有雲門偃，奮雄音絕唱於國中，臨濟玄振大用，大機於天下，皆得正傳，世咸宗奉，惟清望臨濟，九世孫也。今宗教衰喪，其未盡絕滅者，唯二家微派，斑斑有焉。然名多媿實，顧適當危奇而朝露身緣，勢迫晞墜，因力病釋，俗從真，叙如上事，以授二三子，吾委息後，常用依稟觀究，即不違先聖法門，而自見深益，慎勿隨末法所尚，乞空文於有位，求為銘誌，張飾說，以淹吾，至囑至囑，因自所叙，曰：無生常住真歸告，且繫之以銘，銘曰：

無涯湛海，瞥起一漚，亘乎百年，曷浮曷休，廣莫清漢，歛生片雲，有無起滅，隱顯何分，了茲二者，即見實相，十世古今，始終現量，吾銘此旨，昭告汝曹，泥多佛大，水長船高。

玄泰山謠。〔石霜諸法嗣〕。〔傳燈十六〕。秦南嶺所居蘭若，在衡山之東，號七寶臺，誓不立門，徒四方後進，依附皆用交友之禮，嘗以衡山多被山民斬木燒畚，為害滋甚，乃作畚山謠，遠運傳播，達于九重，有詔禁止，故嶽中蘭若，無復延燎，師之力也。畚山謠。

畚山兒無所知，年年斫斷青山帽，就中最好衡嶽色，杉松利斧摧貞枝。

靈禽野鶴無因依，白雲迴避青煙飛，猿猴路絕岩崖出，芝木失根菲草肥，年年斫罷仍栽鋤，千秋終是難復初，又道今年種不多，來年更斫當陽坡，國家壽嶽當如此，不知此理如何。

紹銑設館。〔北禪賢法嗣〕。〔僧寶中〕。潭州興化紹銑禪師，時南禪師道價方增，荆湖衲子，趨入江南者，出長沙百里，無託宿所，多為盜卻掠路，因不通，師年五十，為館請僧主之，以接納，使得宿食而去，諸方高其為人。

福國栽橋。

六祖負金。〔傳燈五〕。江西志微禪師者，江西人也，姓張氏，名行昌，少任俠，自南北分化，二宗主雖亡，彼我而徒，侶競起愛憎，時北宗門人自立秀師為第六祖，而忌能大師傳衣為天下所聞，然祖是菩薩，預知其事，即置金十兩於方丈，時行昌受北宗門人之囑，懷及入祖室，將欲加害，祖舒頸而就，行昌揮及者三，都無所損，祖曰：正劍不邪，邪劍不正，只負汝金，不負汝命，行昌驚仆，久而方蘇，求哀悔過，即願出家，祖遂與金云：汝且去，恐徒眾翻害於汝，汝可他日易形而來，吾當攝受，行昌稟旨宵遁，終投僧出家，具戒精進，一日憶祖之言，遠來禮覲，問答機緣相契，祖曰：汝今徹也，宜名志微，師禮謝而去。

神光償債。〔會元一〕。二祖者武牢人也，姓姬氏，父寂未有子時，嘗自念言：我家崇善，豈令無子，禱之既久，一夕感異光照室，其母因而懷妊，及長，遂以照室之瑞名之，曰：光，自幼志氣不群，博涉詩書，尤精玄理，而不事家產，好遊山水，後覽佛書，超然自得，即抵洛陽龍門香山，依

室靜禪師出家，受具於永穆寺。浮游講肆，徧學大小乘義。年三十二，卻返香山，終日宴坐。又經入載，於寂默中，倏見一神人，謂曰：「將欲受果，何滯此耶？」大道匪遙，汝南矣。祖知神助，因改名神光。翌日，覺頭痛如刺，其師欲治之，空中有聲曰：「此乃換骨，非常痛也。」祖遂以見神事白于師。師視其頂骨，即如五峯秀出矣。乃曰：「汝相吉祥，當有所證。」神令汝南者，斯則少林達磨大士，必汝之師也。祖受教，造于少室，達磨遂因與易名曰惠可。傳授之後，於堯城縣匡救寺之三門，談無上道，聽者林會。時辨和法師於其寺講涅槃經，其徒聞師闢法，稍稍引去，和不能勝其憤，乃興謗于邑宰翟仲侃，侃惑其邪說，加師以非法。師怡然委順，識真者謂之債債。○皓月供奉，問長沙岑云：「了即業障本來空，未了應須債宿債。」師子尊者，二祖大師爲甚麼却債債？岑云：「大德不識本來空，如何是本來空？云業障是，如何是業障？是云本來空是，供奉無語。」長沙乃示偈云：「假有元非有，假滅亦非無。涅槃債債義，一性更無殊。」

洛浦投師。〔傳燈十六〕見前來嶺鳳巢之處。○和補曰：會元第六云：師游歷罷，直往夾山。卓庵經年，不訪夾山。山乃修書，令僧馳往，師接得便坐，卻再展手索，僧無對，師便打曰：「歸去。」似和上僧回舉似。山曰：「這僧若開書，三日內必來，若不開書，斯人救不得也。」師果三日後到，見夾山，不禮拜，乃當面叉手而立。山曰：「鷄栖鳳巢，非其同類。」出去，自遠趨風，請師一接。山曰：「目前無開梨，此間無老僧。」師便喝。山曰：「住住，且莫草草。」恩恩雲月是同，溪山各異。沙彌求戒。〔傳燈十四〕高沙彌，初參藥山，山問：「甚麼處來？」曰：「南嶽來。」山云：「何處去？」曰：「江陵受戒去。」山云：「受戒圖箇甚麼？」曰：「圖免生死。」山曰：「有一人，不受戒亦免生死，汝還知否？」師曰：「恁麼？」

則佛戒何用？山曰：「猶掛唇齒在，便召維那。」云：「者跛脚沙彌，不任僧務，安排向後庵著。」山謂道吾雲岩曰：「適來一箇沙彌，卻有來由。」道吾曰：「也須勘過始得。」山乃再問。師云：「見說長安甚闊。」曰：「我國晏然。」山曰：「汝從看經得，請益得。」曰：「惣不與麼。」山曰：「大有人，不與麼不得。」曰：「不道他無，只是不肯承當。」

蔣山三障。〔慈明圓法嗣〕。〔普燈二十三〕舒王初丁大母夫人憂，讀經山中，與蔣山贊元禪師游。如昆弟，問祖師意旨。師不答，王益扣之。師曰：「公般若有障，三有近道之質，一更一兩生來，恐純熟。」王曰：「額聞其說。」師云：「公受氣剛大，世緣深，以剛大氣，遭深世緣，必以身任天下之重，懷經濟之志，用舍不能必，則心未平，以未平之心，持經世之志，何時能一念萬年哉？一又多怒，二而學問尙理，於道爲所知愚，三此其三也。特視名利如說髮，甘擔薄如頭陀，此爲近道，且當以教乘滋茂之可也。」王再拜受教。

華藏四碍。

鎮州蘿蔔。〔會元四〕僧問趙州：「承聞和尚親見南泉，是否？」州曰：「鎮州出大蘿蔔頭。」

普化生菜。〔傳燈十〕普化一日，在僧堂前喫生菜，臨濟見云：「大似一頭驢。」普化便作驢鳴。濟云：「這賊，普化云：賊賊，便出去。」

永嘉一宿。〔會元二〕溫州玄覺禪師，詣曹溪，初到，振錫携瓶，遶祖三匝，卓然而立。祖曰：「夫沙門者，具三千威儀，八萬細行，大德自何方而來，生大我慢？」師曰：「生死事大，無常迅速。」祖曰：「何不體取無生，了無速乎？」曰：「體即無生，了本無速。」祖曰：「如是如是。」于時大衆愕然，師方具威儀。

參禮須臾告辭。祖曰：返太速乎？師曰：本自非動，豈有速耶？祖曰：汝甚得無生之意。師曰：無生豈有意耶？祖曰：無意誰當分別？師云：分別亦非意。祖歎曰：善哉善哉！少留一宿，時謂之一宿覺。翌日回永嘉。

七四

雲蓋半載。〔石霜諸法嗣〕〔會元六〕

潭州雲蓋山志元圓淨禪師，遊方時間雲居曰：志元不奈何時如何？居曰：祇爲闍梨功力不到，師不禮拜，直造石霜亦如前問。霜云：非但闍梨，老僧亦不奈何。師曰：和尚爲甚麼不奈何？霜曰：老僧若奈何，拈過汝不奈何。師便禮拜。僧問：石霜萬戶俱閉，卽不問萬戶俱開時如何？霜云：堂中事作麼生？僧無對。經半年，方始下一點語曰：無人接得渠。師去乃禮拜，乞爲舉霜不肯。師乃抱霜上方丈曰：和尚若不道，打和尚去。在霜曰：得在。師頻禮拜。霜曰：無人識得渠。師於言下頓省。

王岳四玄。

滬仰三昧。〔人天眼目〕

朗州古堤和尚，仰山到參。堤曰：去汝無佛性。山叉手近前三步應諾。堤笑曰：子甚麼處得此三昧來？山曰：我從耽源處得名。滬山處得地，堤曰：莫是滬山的子麼？山曰：世諦卽不無，佛法卽不敢。山却問和尚從甚麼處得此三昧？堤曰：我從章敬處得此三昧。山歎曰：不可思議。來者難爲湊泊。○義海，仰山坐次，有僧來作禮。山不顧其僧，乃問師識字否？山曰：隨分。僧右旋一匝曰：是甚麼字？山於地上書十字，酬之。僧又左旋一匝曰：是甚麼字？山改十字作卍字。僧乃畫此○相，以兩手拓，如修羅掌。日月勢曰：是甚麼字？山乃畫此○相對之。僧乃作婁至德勢。山曰：如是如是，此是諸佛之所護念。汝亦如是，吾亦如是，善自護持。

其僧禮謝騰空而去。時有一道者，見經五日，後遂問山曰：汝還見否？道者曰：某甲見出門騰空而去。山曰：此是西天羅漢，故來探吾道。道者曰：某雖觀此三昧，不辨其理。山曰：吾以義爲汝解釋，此是八種三昧，是覺海變爲義海，體則同名異，然此義合有因有果，卽時異時，總別不離隱身三昧也。

桐峯虎聲。〔臨濟法嗣〕〔傳燈〕

僧到桐峯主處，便問：這裡忽逢大蟲時，又作麼生？庵主作虎聲。僧作怕勢。庵主呵呵大笑。僧云：這老賊。庵主云：爭奈老僧何？僧便休去。

投子牛在。舒州投子山大同禪師，因一婆上山云：家中失卻牛，請師一卜。師召婆，婆應諾。師云：牛在，婆乃歡喜而去。

鏡清失利。〔雪峯法嗣〕〔會元七〕

越州鏡清寺道愆順德禪師，新到參。師拈起拂子，僧曰：久響鏡清，猶有這箇在。師曰：鏡清今日失利。師問荷玉，甚處來？曰：天台來。師曰：阿誰問汝天台？曰：和尚得龍頭蛇尾。師云：鏡清今日失利。師看經次，僧問：和尚看甚麼經？師云：我與古人鬪百草。師卻問汝會麼？曰：少年也曾恁麼來。師云：如今作麼生？僧舉拳。師云：我輸汝也。問：辨不得提不起時如何？師曰：爭得到這裏？曰：恁麼則禮拜去也。師云：鏡清今日失利。師見僧學書，遍問學甚麼書？曰：請和尚鑑。師云：一點未分，三分着地。曰：今日又似遇人，又似不遇人。師云：鏡清今日失利。問：新年頭還有佛法也無？師曰：有。曰：如何是新年頭佛法？師云：元正啓祚，萬物咸新。曰：謝師答話。師曰：鏡清今日失利。上堂衆集定，師拋下拄杖曰：大衆動著也，二十棒不動著也。二十棒時，有僧出拈得頭上戴出去。師曰：鏡清今日失利。

趙州下載。(會元四) 趙州上堂，兄弟若從南方來者，即與下載，若從北方來者，即與上載，所以道近，上人問道，即失道，近下人問道，即得道。

歸宗插標。(禪林類聚十八) 歸宗常禪師，因普請入園取菜，乃畫一圓相圍，卻一株菜，以標插之，語首座大眾云：「不得動著，每人下一轉語來。」是時一衆各呈見解，未嘗有契，師以棒趁云：「這一隊漢，無一箇有智慧，欲喫我多少菜，不能與圓頭出氣，乃蹈倒標子，拽著菜而歸，與化擲枓。」(會元四) 與化到法堂，令維那聲鐘集衆，師云：「還識老僧麼？」衆無對，師擲下枓子，端然而逝。

清豁歸山。(泉州睡龍薄禪師嗣)。(傳燈二十二) 漳州保福院清豁禪師，將順世，捨衆欲入山待滅，過苧谿石橋，乃遺偈曰：「世人休說路行難，鳥道羊腸咫尺間，珍重苧谿溪畔水，汝歸滄海我歸山。」即往貴湖卓庵，未幾，謂門人曰：「吾滅後，將遺體施諸蟲蟻，勿置墳塔，言訖潛入湖頭山坐磐石，儼然長往，弟子戒因入山尋見，稟遺命，延留七日，竟無蟲蟻之所侵食，遂就闍維，散於林野，今泉州開元寺淨土院影堂存焉。

性空沒海。(黃龍死心悟新禪師嗣)。(普燈十) 蜀僧普首座，自號性空庵主，因欲泛海，辭別緇素，而說偈言：「坐脫立亡不若水葬，一省柴燒，一免開曠，撒手便行，不妨快暢，誰是知音，船子和尚，高風難繼，百千年一曲漁歌，少人唱，由是登膝盆，張布帆，舉手以謝四衆，乃吹錢笛，至洪波中而自沒矣。三日後，潮退於沙洲上，跏趺而坐，神色不動，道友幾萬人，迎歸青龍，供養五日，茶毘，舍利五色如珠，無數，雙鶴盤旋，竟日，火盡而去。

黃龍三關。(會元十七) 黃龍室中，常問僧曰：「人人盡有生緣，上座生緣在何處？」正當問答交鋒，卻復伸手曰：「我手何似佛手？」又問諸方參請宗師所得，却復垂脚曰：「我脚何似驢脚？」三十餘年示此三問，學者莫有契其旨，脫有辭者，師未嘗可否，斂目危坐，人莫測其意，延之又問其故，師云：「已過關者，掉臂徑往，安知有關吏問可不可，此未透關者也。」叢林目之爲黃龍三關。師自頌曰：「生緣有語人皆識，水母何曾離得蝦，但見日頭東畔上，誰能更喫趙州茶。」我手佛手兼舉，禪人直下薦取，不動干戈，道出當處，超佛地，祖我脚驢並行，步步踏着無生，會得雲收月卷，方知此道縱橫，總頌曰：「生緣斷處伸驢脚，驢脚伸時佛手開，爲報五湖參學者，三關一一透將來。」

浮山九帶。(人天眼目) 浮山遠，既老，退休於會聖巖，因閱班固九流，儒流道流，陽陰流，法流，名流，墨流，縱橫流，離流，農流，遂擬之作九帶，叙佛祖教義，博採先德機語，參同印證，其一日：佛正法眼帶，其二曰：佛法藏帶，其三曰：理實帶，其四曰：事實帶，其五曰：理事縱橫帶，其六曰：屈曲帶，其七曰：妙挾兼帶，其八曰：金針雙鏢帶，其九曰：平懷常實帶，學者既已傳誦。

青州正座。舒州投子義青禪師，青社李氏，參浮山，嗣洞下宗，山遂書偈送曰：「須彌立虛空，日月輔而轉，群峯漸倚他，白雲方改變，少林風起叢，曹溪洞簾卷，金鳳宿龍巢，宸苔豈車輶，令依圓通秀禪師，師至彼無所參問，唯嗜睡而已，執事白杖曰：「堂中有僧，日睡，當行規法，通曰：是誰？」青上座，通曰：「未可待，與按過，通即曳杖入室，見師正睡，乃擊床呵曰：「我這裏無閑飯，與上座喫了打眠。」師云：「和尚教某何爲？」通曰：「何不參禪去？」師云：「美食不中，他人喫，通曰：爭奈。」

大有入不肯上座，師云：待肯堪作甚麼，通曰：上座曾見甚麼人來，師云：浮山通曰：恁麼頑懶，遂握手相笑歸。方丈由是道聲藉甚，初住白雲，次遷投子，寺名也。普明不拜。

仁儉短偈。〔傳燈四〕洛京福先寺仁儉禪師，自嵩山罷歸，放曠郊廓，時謂之騰騰和尚。唐天冊萬歲間，天后詔入內，至殿前仰視天后，良久曰：會麼，后曰：不會，師云：老僧持不語戒，言訖而出，翌日晉短歌十九首，天后覽而嘉之。

永嘉長歌。〔會元二〕永嘉大師作證道歌，泳播天下，西竺謂之震旦聖者經，即曹溪末後之旨。

老龐及第。〔碧巖五〕龐居士曰：十方同聚會，箇箇學無爲，此是選佛場，心空及第歸。

慶諸登科。〔道吾智法嗣〕〔禪林類聚十七〕許州金明上座，曾問石霜，一毫穿衆穴時如何，

師云：直須萬年後，問萬年後如何，師云：登科任汝登科，拔萃任汝拔萃，後問徑山，徑山云：一毫穿衆穴時如何，謹曰：先靴任汝先靴，結裏任汝結裏。

陳操驗僧。〔傳燈十二〕陳操尚書與僧齋次，忽拈起胡餅問僧曰：江西湖南還有這箇麼，僧

曰：尚書適來喫什麼，尚書曰：敲鐘謝饗，又一日齋僧次，躬行餅，僧展手欲接，尚書迺縮手，僧無語，尚書曰：果然果然，異日問僧曰：有箇事與上座商量得麼，僧曰：合取狗口，尚書自擱口

曰：操罪過，僧曰：知過必改，尚書曰：恁麼即乞上座口喫飯，又齋僧自行食次，曰：上座施食，上座曰：三德六味，尚書曰：錯，上座無對。

實際勘婆。〔傳燈十〕五臺山有一婆子接待，凡有僧問臺山路甚處去，婆子云：驀直去，僧才

行，婆云：好箇師僧，又與麼去，如是既久，游僧傳到趙州，州聞得乃云：待老僧爲汝去勘破，州

往彼便問，臺山路向甚處去，婆云：驀直去，州才行，婆云：好箇師僧，又與麼去，州回陞座，舉示

大衆云：已爲諸人勘破婆子了也。

道士背坐。〔傳燈二十七〕昔有道流，在佛殿前背佛而坐，僧曰：道士莫背佛，道流曰：大德本

教中道，佛身充滿於法界，向甚麼處坐得，僧無對，法眼代云：識得汝。

踈山倒屣。〔傳燈十一〕香嚴禪師，因僧問：不慕諸聖，不重己靈，時如何，嚴曰：萬機休罷，千聖

不推，踈山在衆作嘔聲曰：是何言歟，嚴問：阿誰，衆曰：師叔，嚴曰：不諾老僧耶，師出云：是嚴曰：

汝莫道得，曰：道得，嚴曰：汝試道看，曰：若教某甲道，須還師資禮，始得，嚴乃下座禮拜，躡前語，

問之，師云：何不道，肯重不得，全，嚴曰：饒汝恁麼，也須三十年倒屣，設住山無柴燒，近水無水

喫，分明記取，後住踈山，果如嚴記，至二十七年疾愈，自云：香嚴師兄，記我三十年倒屣，今少

三年，每食畢，以手扶而吐之，以應前記。

義存桶漆。〔會元七〕投子指庵前一片石，謂雪峯曰：三世諸佛，總在裏許，峯曰：須知有不在，

裡許者，子曰：不快漆桶，投子與雪峯遊龍眠，有兩路，問：那箇是龍眠路，子以杖指之，峯云：東

去西去，子曰：不快漆桶，問：一槌便就時如何，子曰：不是性燥漢，曰：不假一槌時如何，子曰：不

快漆桶，問：此間還有人參也無，子將鏗頭拋向峯前，峯曰：恁麼則當處掘去也，子曰：不快

漆桶，雪峯上堂，盡大地撮來，如粟米粒大，拋向面前，漆桶不會，打鼓普請看，長慶問雲門曰：

雪峯與麼道，更有出頭不得處。麼門曰：有。曰：作麼生。門曰：不可總作野狐精見解。又曰：狼藉不少。

師備飯籬。禪林類聚云：玄沙備禪師，因雪峯垂語云：飯籬邊坐餓死漢，臨河渴死漢。師云：飯籬裡坐餓死漢，水裡沒題浸渴死漢。

安國折筍。〔玄沙法嗣〕。〔傳燈二十一〕。福州安國院惠球寂照禪師，第二世住，亦曰：中塔。上堂：我此間粥飯，因緣爲兄弟舉唱，終是不常，欲得省要，卻是山河大地，與汝發明，其道既常，亦能究竟。若從文殊門入者，一切無爲；土木瓦礫，助汝發機。若從觀音門入者，一切音響；蝦蟇蚯蚓，助汝發機。若從普賢門入者，不動步而到。以此三門方便示汝，如將一隻折筍，攪大海水，令彼魚龍知水爲命，會麼？若無智眼而審諦之，任汝百般巧妙，不爲究竟。

鹿門破鍋。

雲岩出糞。〔會元五〕。藥山問雲岩：作什麼。岩云：擔屎。山曰：那箇。雲岩曰：在。師曰：汝來去爲誰。曰：替他東西。師曰：何不教並行。曰：和尚莫謗他。師曰：不合。恁麼道。曰：如何是道。師曰：還曾擔麼。

寂子擔禾。〔傳燈十一〕。滬山問仰山：何處來。仰云：田中來。滬曰：禾好刈也未。仰作刈禾勢。滬曰：汝適來作青見，作黃見，作不青不黃見。仰曰：和尚背後是什麼。滬曰：子還見麼。仰拈禾穗云：和尚何曾問這箇。滬曰：此是鵝王擇乳。

雲門花欄。〔雲門錄〕。僧問雲門：如何是清淨法身。門云：花藥欄。

陸亘瓶鵝。〔傳燈十〕。陸亘大夫問南泉曰：古人瓶中養一鵝，鵝漸漸長大，出瓶不得，如今不得。得。鵝瓶不得，損鵝，和尚作麼生出得。泉召曰：大夫，陸應諾。泉曰：出也。從此開解，卽禮謝。

石室蹈碓。〔碧岩三〕。六祖初謁五祖於黃梅，法乳相投，遂負石於腰，以供籬春之務。後僧問臨濟云：石室行者，踏碓爲什麼。忘移却脚。濟曰：沒溺深坑。石室曰：善道。

天目撞羅。〔雲門偃法嗣〕。〔會元十五〕。奉先深禪師，因同明和尚到淮河，見人牽網，有魚從網透出。師曰：明兄，俊哉。一似箇禿僧相似。明曰：雖然如是，爭如當時不撞入網羅。好。師曰：明兄，備欠悟在。明至中夜方省。

雪竇按劍。〔會元十五〕。明州雪竇重顯明覺大師上堂，僧問：如何吹毛劍。師云：苦。曰：還許學人用也無。師噓一噓，乃曰：大衆前共相酬唱也，須是箇漢始得。若也未，有奔流度刃底眼，不勞拈出，所以道：如大火聚，近着卽燎。却面門，亦如按大阿寶劍，衝前卽喪身失命。師云：大阿橫按祖堂寒，千里應須息。萬端莫待冷光輕閃爍。復曰：看看，便下座。

韶山亞戈。〔夾山法嗣〕。〔會元六〕。洛京韶山寰普禪師，遊布衲訪師，在山下相見。遊問：韶山路向甚麼處去。師以手指曰：鳴。那青青黯黯處去。遊近前把住曰：久響韶山，莫便是否。師云：是。卽是。聞梨有甚麼事。遊曰：擬伸一問。師還答否。韶山曰：看君不是金牙作，爭解彎弓射尉遲。遊曰：鳳凰直入煙霄去，誰怕林間野雀兒。師云：當軒畫鼓從君擊，試展家風似老僧。遊曰：一句迥超千聖外，松蘿不與月輪齊。師云：饒君直出威音外，猶較韶山半月程。遊曰：過在甚處。師曰：個儻之辭，時人知有。遊曰：恁麼則真玉泥中異，不撥萬機塵。師云：魯般門下，徒施巧

妙。遵曰：學人卽恁麼，未審師意如何。師曰：玉女夜拋梭，織錦於西舍。遵曰：莫便是和尚家風也。無。師曰：耕夫製玉漏，不是行家作。遵曰：此猶是文言，如何是和尚家風。師云：橫身當宇宙，誰是出頭人。遵無語。師遂同歸山，纔入事了。師召近前曰：聞梨有衝天之氣，老僧有入地之謀。聞梨橫吞巨海，老僧背負須彌。聞梨按劍上來，老僧握鎗相待。向上一路，速道速道。遵曰：明鏡當臺，請師一鑑。師云：不鑑。遵曰：爲甚不鑑。師云：水淺無魚，徒勞下釣。遵無對。師便打。古靈措背。〔百丈法嗣〕。〔會元四〕。福州古靈神讚禪師，因受業師問：汝離吾在外，得何事業。讚曰：並無事業，遂遣執役。一日因澡身，命讚去垢，讚迺拈背曰：好箇佛堂，只是佛不聖，其師回首視之，讚曰：雖然不聖，卻解放光。

從諗洗脚。〔會元十一〕。趙州行脚時，參臨濟，遇濟洗脚，次州便問：如何是祖師西來意。濟曰：恰值老僧洗脚，州近前作聽勢。濟云：更要第二杓惡水潑在，州便下去。

青林死蛇。〔洞山价法嗣〕。〔會元十三〕。青林虔禪師問：千差路別，如何頓曉。師曰：足下背驢珠，空怨長天月。問：學人徑往時如何。師曰：死蛇當大路，勸子莫當頭。曰：當頭者如何。師云：喪子命根。曰：不當頭者如何。師云：亦無回避處。曰：正當恁麼時如何。師云：失却也。曰：向甚麼處去。師曰：草深無覓處。曰：和尚也須隄防始得。師拈掌曰：一等是箇毒氣。

泐潭活雀。〔九峯虔法嗣〕。〔傳燈十七〕。洪州泐潭明禪師，僧問：確搏磨磨，不得忘却，此意如何。師云：猛虎口裡活雀兒。

玄沙三病。〔會元七〕。玄沙有時垂語曰：諸方老宿，盡道接物利生，且問汝，只如盲雙癡三種

病人，汝作麼生接。若拈槌擊拂，他眼且不見，其他說話，耳又不聞，曰：復癡。若接不得，佛法盡無靈驗。時有僧出曰：三種病人，和尚還許商量否。師云：許汝作麼生商量。其僧珍重出。師曰：不是不是。

天平兩錯。〔清溪山主洪進法嗣〕。〔傳燈〕。天平和尙行脚時，參西院，常云：莫道會佛法，覓箇舉話人也無。一日西院遙見，召云：從漪，平舉頭。西院曰：錯，平行三兩步。西院曰：錯，平近前。西院云：適來這兩錯，是西院錯，是上座錯。平云：從漪，西院曰：錯，平休去。

趙州略約。〔傳燈十〕。僧問趙州：久響趙州石橋，到來只見略約。州曰：汝只見略約，不見石橋。僧云：如何是石橋。州曰：渡驢渡馬。

大陽錢財。〔會元十三〕。鄂州大陽惠堅禪師，僧問：如何是玄旨。師曰：壁上挂錢財。

清平杓索。〔會元〕。清平和尙，僧問：如何是大乘。師云：井索。曰：如何是小乘。師云：錢貫。問：如何是有漏。師曰：箴篋。曰：如何是無漏。師曰：木杓。

白犬御書。〔會元三〕。見下之註。

青猿洗鉢。〔會元二〕。千歲寶掌和尚，中印度人也。周威烈十二年丁卯，降神受質，左手握拳，七歲祝髮，乃展，因名寶掌。魏晉間，東遊此土，入蜀禮普賢，留大慈，常不食，日誦般若等經千餘卷。有詠之者，曰：勞勞玉齒寒，似進岩泉急。有時中夜坐，塔前神鬼泣。一日謂衆曰：吾有願，住世千歲，今歲六百二十有六，故以千歲稱之。次遊五臺，徒居祝融峯之華嚴，黃梅之雙峯。

廬山之東林，尋抵建鄴，會達磨入梁，師就扣其旨開悟，武帝高其臘，延入內庭，未幾如吳，有偈曰：梁城遇道師，參禪了心地，飄零二浙遊，更盡佳山水，順流東下，由千頃至天竺，往鄮峯，登太白穿鴈蕩，盤礴於翠峯七十二庵，回赤城，憩雲門，法華諸暨漁浦，赤符大岩等處，返飛來棲之石竇，有行盡支那四百州，此中徧稱道人遊之句，貞觀十五年也，後居浦江之寶嚴，與朗禪師友善，每通問遣白犬馳往，朗亦以青猿爲使，令故題朗壁曰：白犬銜書至，青猿洗鉢回，師所經處，後皆成寶坊，顯慶二年正月，手塑一像，至九日像成，問其徒惠雲曰：此肖誰，雲曰：與和尚無異，即澡浴易衣，趺坐，謂雲曰：吾住世已一千七十二年，今將謝世，聽吾偈曰：本來無生死，今亦示生死，我得去住心，他生復來此，頃時囑曰：吾滅後六十年，有僧來取吾骨，勿拒，言訖而逝，入滅五十四年，有刺浮長老，自雲門至塔所，禮曰：冀塔洞開，少選塔戶，果啓，其骨連環，若黃金，淨即持往秦望山，建窠塔波奉藏，以周威烈丁卯至唐高宗顯慶丁巳，考之實一千七十二年，抵此土歲歷四百餘，僧史皆失載，開元中，惠雲門人宗一者，嘗勒石識之。

飲光坐禪。梵曰迦葉波，此言飲光，姓也，或云身光殊特，能飲諸天及日月等光，皆悉不見，故曰飲光，黃龍南譏泉大道恒率戲，酌以偈曰：飲光論劫坐禪，布袋經年落魄，疥狗不願生天，却笑雲中白鶴。○涅槃經云：爾時世尊欲涅槃時，迦葉不在衆會，佛告諸大弟子：迦葉來時，可令宣揚正法眼藏，爾時迦葉在耆闍崛山畢鉢羅窟，觀勝光明，即入三昧，以淨天眼觀見，世尊於熙連河側入般涅槃，乃告其徒曰：如來涅槃也，何其駛哉，即至雙樹間，悲戀號泣。

布袋落魄。(會元二) 飲光論劫坐禪，布袋經年落魄，疥狗不願生天，却笑雲中白鶴。○明州奉化縣布袋和尚，自稱契此，形裁股，蹙額，睡腹，出語無定，寢臥隨處，常以杖荷一布囊，井破席，凡供身之具，盡貯囊中，入鄞肆聚落，見物則乞。○佛祖統紀云：布袋背上有目，水戲之時人知之。

推倒回頭。(僧寶傳中) 下註兼之。

趨翻不托。端師子者，吳興人也，始見弄師子者，發明心要，則以綵帛像其皮，時時著之，因以爲號，住西余山，有狂僧號回頭和尚，以左道鼓動流俗，士大夫亦安其妄，方對丹陽守呂公肉食，端徑至，指曰：正當與麼時，如何是佛，回頭不能，遂對端捶其頭，雅倒乃行。○又有天人，號不托，掘秀州城外，有佛像，建塔其上，傾城信敬，端見，拈住曰：如何是佛，不托擬議，端趨之而去，章丞相子，厚請升座，使僉秀老撰疏，叙其事曰：推倒回頭，趨翻不托。

道者休休。鏡清在帳中坐，有僧問訊，師撥帳開曰：當斷不，反招其亂，僧曰：既是當斷，爲什麼不，斷師云：我若盡法，直恐無民，曰：不怕無民，請師盡法，師云：維那拽出此僧著，又曰：休休，我在南方，識伊和尚來。○錢王欲廣府中禪會，命居天龍寺，始見師乃曰：真道人也，致禮勤厚，由是吳越盛於玄學，其後又創龍冊寺，延請居焉。○高安白水木仁禪師，謂鏡清曰：時寒，道者清曰：不敢，仁曰：還有臥單也無，曰：設有亦無，展底工夫，仁曰：直饒道者，滴水冰生，亦不干他事，曰：滴水冰生，事不相涉，仁曰：是曰：此人意作麼生，仁曰：此人不落意，此人響，仁曰：高山頂上，無可與道者，啗啄。

塔主莫莫。(雲門偃法嗣。會元十五) 薦福承古禪師因遊廬山登歐峯愛宏覺塔院閑寂求居之清規凜然過者肅恭時叢林號古塔主僧問如何是佛主云莫莫又問如何是祖師西來意主曰莫莫。

太守病痊。(傳燈二十七) 閩丘台州守也因丘臥病不起或人勸云可見高僧因見豐干於鴈蕩干咒水與丘飲之病了愈。

君王臂落。(傳燈二) 蜀賓國王問師子尊者曰師得蘊空不者曰已得曰離生死不者曰已離曰既離生死可施我頭者曰非我有何係於頭王揮劍斷者頭白乳湧高數尺王臂自墮次公點眼。

駙馬索藥。(石門聰弟子。會元十二) 駙馬都尉李遵勗居士臨終時腸胃躁熱有尼道堅謂曰衆生見劫盡大火所燒時都尉切宜照管主人公公曰大師與我煎一服藥來堅無語公曰這師姑藥也不會煎得。

禪苑蒙求卷之中終

禪苑蒙求卷之下

隱峯倒化。(馬祖法嗣。傳燈錄八) 鄂隱峯將示滅先問衆云諸方遷化坐去臥去吾嘗見之還有立化也無衆云有師問還有倒立而化者否衆云未嘗見有師乃倒立而化亭亭然其衣順體時衆議昇就茶毘屹然不動遠近瞻視驚歎無已師有妹爲尼時亦在彼乃俯近而咄曰老兄曠昔不脩法律死更熒惑於人於是以手推之憤然而踏遂就闍維。

領衆坐亡。石霜諸沒時九峯道度禪師作侍者衆請堂中第一座嗣諸住持方議次度犯衆曰未可須明先師意旨乃可耳衆曰先師何意度曰只如道古席香爐一條白練如何會第一座曰是明一色邊事度曰果不會先師意於是第一座者起炷香誓曰我若會先師意香煙滅則我脫去不然煙滅不能脫言率而脫去度拊其背曰坐脫立亡不無首座會先師意即未也。

歸宗拽杖。(馬祖法嗣) 歸宗入園取菜次師畫圓相圍卻一株語衆曰輒不得動著遮箇衆不敢動少頃師復來見菜猶在便以棒趁衆。

普化踢床。(盤山寶積法嗣。會元十一) 臨濟同普化赴施主家齋次濟問毛吞巨海芥納須彌爲是神通妙用本體如然化蹈倒飯床濟云太龜生化云這裏是什麼所在說龜說細濟來日又同化赴齋問今日供養何似昨日化依前蹈倒飯床濟云得即得太龜生化云瞎

漢佛法說什麼龜細濟乃吐舌。

雪峯過嶺。(會元七) 雪峯辭洞山。山曰：子甚處去。師曰：歸嶺中去。山曰：當時從甚麼路去。師云：從飛猿嶺出。山曰：今回向甚麼路去。師曰：從飛猿嶺去。山曰：有一人，不從飛猿嶺去。子還識麼。曰：不識。山曰：爲甚麼不識。師云：他無面目。山曰：子既不識，爭知無面目。師無對。師嘗有頌曰：人生倏忽暫須臾，浮世那能得久居。出嶺始年三十二，入關早是四旬餘。他非不用類類舉，已過應須旋旋除。爲報滿朝朱紫道，閻王不怕佩金魚。

洛浦還鄉。(夾山法嗣)。(會元六) 僧問洛浦。學人擬歸鄉時如何。師云：家破人亡，子歸何處。

曰：恁麼則不歸去也。師云：庭前殘雪日輪消，室內游塵遣誰掃。乃有偈云：決志歸鄉去，乘船渡五湖。舉篙星月隱，停棹日輪孤。解纜離邪岸，張帆出正途。到來來家蕩盡，免作屋中愚。

法遠繡毬。(華縣歸省法嗣)。(會元十二) 僧問浮山。師唱誰家曲。宗風嗣阿誰。師曰：八十翁

翁輓繡毬。僧云：與麼則一句迥然開祖。三支戈甲振叢林。師曰：李陵元是漢朝臣。

文選香囊。(洞山价法嗣)。(傳燈七) 僧問徑山。如何是和尙家風。師云：錦帳銀香囊，風吹滿路香。

鵝湖比較。信州鵝湖大義禪師。李翊嘗問。大悲用千手眼作麼。師曰：今上用公作麼。唐憲宗嘗詔入內，於麟德殿論議。有一法師問：如何是四諦。師曰：聖上一帝，三帝何在。

佛日抑揚。

崇壽登子。(桂琛法嗣)。(傳燈) 法眼初住臨川崇壽院。師指登子曰：識得登子，周匝有餘雲。

門云：識得登子，天地懸殊。

守芝石幢。(汾陽昭法嗣)。(會元十二) 瑞州大愚山守芝禪師。陸座僧問：如何是城裡佛。師曰：十字街頭石幢子。

羅山炒飯。(石頭法嗣)。(會元七) 明招到招慶。有度上座問：羅山尋常道，諸方盡是炒飯。惟

有羅山是白飯。上座從羅山來，却展手示白飯。請些子。招打兩掌。度云：將謂是白飯。元來只是炒飯。招云：癡人棒下打不死。度至夜間，舉似諸禪客。次招近前云：不審度云：今日便是這箇上座。下兩掌。有瑠上座云：不用下掌。就裏許作麼生。招云：就裏許也。道道瑠無對。招云：是箇諸人。一時縛作一束倒卓，向尿闔下。來日相見。珍重。

白雲煮湯。

慈明詐病。(會元十二) 慈明禪師。有詔賜宮舟南歸。中途謂侍者曰：我忽得風痺疾。視之。口吻已喝斜。侍者以足頓地。曰：當奈何。平生呵佛罵祖。今乃爾。師云：無憂。爲汝正之。以手整之。如故。曰：而今而後，不鈍置汝。

法華伴狂。(會元二) 言法華獨語笑。多行市里。寒裳而趨。或舉手畫空。佇立良久。從屠沽游。啖無所擇。道俗共目爲狂僧。

方會雪屋。(會元十九) 楊岐方會禪師。初住楊岐。老屋敗椽。僅蔽風雨。適臨冬暮。雪霰滿床。居不遑處。衲子投誠。願充修造。師却之曰：我佛有言。時常滅却。高峯深谷。遷變不常。安得圓滿如意。自求稱足。汝等出家學道。做手脚未穩。已是四五十歲。詎有閑工夫。事豐屋耶。竟不

從翌日上堂曰：楊岐乍住屋壁疎，滿床盡撒雪珍珠。縮却項暗嗟噓，翻憶古人樹下居。倚遇煙房。〔北禪智賢法嗣。〕〔僧寶傳中〕法昌倚遇禪師，方韜藏，西山雲蓋守智禪師，聞其飽參詣之，至雙嶺寺，寺屋多僧少，草棘滿庭，山雪未消，智見一室邃僻，試揚簾，聞叱語曰：誰故出我煙？蓋師方附濕薪火，藉煙爲暖耳。智反走，師呼曰：來汝，何所來？對曰：大寧。又問：三門夜來倒，知否？智愕曰：不知。師云：吳中石佛，大有人，不曾得見，智不敢犯其詞，知其爲遇也，乃敷坐具，願親炙之，師使往謁真點胸。

平終虎嘯。大陽平侍者，預明安之室，有年，雖得其旨，惟以生滅爲己任，擠陷同列，忌出其右者。瑯琊廣照，公安圓鑑，居衆時，汾陽禪師，令其探明安宗旨，在大陽，因平密授，明安嘗云：興洞上一宗，非遠即覺也。二師云：有平侍者在，明安以手指胸云：平此處不佳，又捏拇指，又中示之云：平向去當死於此耳。暨明安遷寂，遺囑云：瘞全身，十年無難，當爲大陽山打供，入塔時，門人恐平將不利於師，遂作李和文都尉所施黃白器物，書於塔銘，而實無也。平後住大陽，忽云：先師靈塔，風水不利，取而焚之，山中老宿，切諫平，平曰：於我有妨，遂發塔，顏貌如生，薪盡儼然，悉皆驚異，平乃鑿破其腦，益油薪，俄成灰燼，衆以其事聞于官，坐平課謀塔中物，不孝還俗，平自稱黃秀才，謁瑯琊，瑯琊云：昔日平侍者，今朝黃秀才，我在大陽時，見爾做處，遂不納，又謁公安，公安亦不顧，平流浪無所依，後於了叉路口，遭大蟲食之，竟不免大陽了叉之記，悲哉。

僧被蛇傷。雲居悟和尚，左龍門時，有僧被蛇傷，佛眼問曰：既是龍門，爲什麼被蛇咬？悟卽應

曰：果然現大人相，後傳此語到昭覺，圓悟云：龍門有此僧耶？東山法道，未寂寥爾。〔一本作被犬傷。〕○禪林類聚十五云：昔有僧持鉢到一長者家，偶爲犬傷，長者因問：龍被一縷，金翅不吞，被法服爲甚，却被犬咬。

古紹雲門。〔雲門法嗣。〕〔會元十五〕古塔主初說法於芝山，嗣雲門。○薦福承古禪師，操行高潔，稟性虛明，參大光警玄禪師，乃曰：祇是箇草裡漢，遂參福嚴，和尙，又曰：祇是箇脫酒鶻僧，由是終日嘿然，深究先德洪規，一日覽雲門語，忽然發悟，自此韜藏，不求名聞，棲止雲居弘覺禪師塔所，四方學者奔湊，因稱古塔主也。

青續大陽。〔大陽警玄法嗣。〕〔會元十四〕投子青，七齡穎異，往妙相寺出家，試經得度，習百法論，未幾歎曰：三祇塗遠，自困何益，乃入洛聽華嚴，義若貫珠，嘗讀諸林菩薩偈，至卽心自性，猛省曰：法離文字，寧可講乎，卽棄游宗席，先是浮山圓鑑禪師，因至大陽，機語與明安，延公相契，延嘆曰：吾老矣，洞上一宗，遂竟無人耶，以平生所著直裰皮履示之，遠曰：當爲持此衣履，求人付之，如何，延許之曰：他日果得入，出吾偈爲證，偈曰：楊廣山前草，憑君待價，擘異苗，翻茂處，深密固靈根，其尾云：得法者，潛衆十年，方可開揚，遠拜受辭去，後住浮山，既老，退休於會聖岩，一夕夢畜青色鷹爲吉徵，屈旦師來，遠禮延之，令看，下道問佛，不問有言，不問無言，因緣經三載，一日問曰：汝記得話頭麼？試舉看，師擬對，遠掩其口，師了然開悟，遂禮拜，遠曰：汝妙悟玄機耶？師曰：設有也，須吐卻，時資侍者，在旁曰：青華嚴，今日如病得汗，師回顧曰：合取狗口，若更切切，我便卽打，服勤又三年，遠出洞，下宗旨示之，悉皆妙契，付以大陽頂

相皮履直授曰代吾續洞上宗風吾住世非久善自護持無留此間師遂辭出山。

多羅轉經。〔禪林類聚一〕第二十六祖不如密多受度得法至東印度爲王演說法要俾趣真乘又謂王曰此國常有聖人而繼於我是時有婆羅門子年二十許幼失父母不知名氏或自言瓔珞故人謂之瓔珞童子遊行閭里丐求度日若常不輕不類人間汝何行急即答云汝何行慢或問何姓乃云與汝同姓莫知其故後王與尊者同車而出見瓔珞童子稽首於前尊者曰汝憶往事否曰我念遠卻中與師同居師演摩訶般若我轉甚深修多羅今日之事蓋契昔因尊者又謂王曰此童子非他即大勢至菩薩是也此聖之後出二人一人化南印度一人緣在震旦四五五年內却返此方遂以昔因故名般若多羅○般若多羅因東印度國王請祖齋次王乃問諸人盡轉經唯師爲甚不轉祖曰貧道出息不隨衆緣入息不居羶界常轉如是經百千萬億卷非但一卷兩卷。

俱胝誦咒。〔天龍法嗣。會元八〕俱胝只念三行咒便得名超一切人。

神會義解。〔會元二〕西京荷澤神會禪師年十四爲沙彌謁六祖祖曰知識遠來大艱辛將本來否若有本則合識主試說看師曰以無住爲本見即是主祖曰遮沙彌爭合取次語便以杖打師於枝下思惟曰大善知識歷劫難逢今既得遇豈惜身命自此給侍他日祖告衆曰吾有一物無頭無尾無名無字無背無面諸人還識否師乃出曰是諸佛之本源神會之佛性祖曰向汝道無名無字便喚作本源佛性師禮拜而退祖曰此子向後設有把茆頭也只成得箇知解宗徒法眼曰古人授記人終不錯如今立知解爲宗即荷澤也。

石頭真吼。〔林間錄上〕曹溪大師將入滅方敢全提此令者至江西馬祖南岳石頭則大振輝之故號石頭爲真吼馬祖爲全提。

惟儼不爲。〔會元五〕藥山謁石頭密領玄旨一日山坐次石頭觀之問曰汝在這裡作甚麼曰一切不爲石頭曰恁麼即閑坐也曰若閑坐即爲也石頭曰汝道不爲且不爲箇什麼曰千聖亦不識以偈贊曰從來共住不知名任運相將只麼行自上古上賢猶不識造次凡流豈可明

從諗仍舊。〔林間錄上〕趙州曰莫費力也大好言語何不仍舊去世間法尙有門法豈無門自是不仍舊故。

老讓開胸。〔羅山道閑嗣。傳燈二十三〕江西北蘭讓禪師湖塘亮長老問伏承師兄畫得老師真暫請瞻禮師以兩手撥胸開示之亮便禮拜師云莫禮莫禮亮云師兄錯也某甲不禮師兄師云汝禮先師真亮云因什麼教某甲莫禮師云何曾錯。

道符縮手。〔雪峰法嗣。會元七〕鏡清有僧引童子到曰此兒子常愛問僧佛法請和尚驗看師乃令點茶童子點茶來師啜訖過盞托與童子童子近前接師卻縮手曰還道得麼童子曰問將來僧問和尚此兒子見解如何師云也只是一兩生持戒僧。

豐干饒舌。〔傳燈二十七〕閻丘徹請豐干欲住持干不從丘云若然彼處可拜誰師乎干曰彼有寒拾者則文殊普賢化身也可拜彼丘行天台與聖寺拜寒拾寒拾曰因何拜我丘云豐干和尚曰寒拾者文殊普賢化身也行可拜彼故來拜寒拾笑曰豐干饒舌豐干饒舌汝

何不拜豐干，豈不知阿彌陀如來。

憩鶴多口。〔韶山普法嗣。〕會元六。一日僧參韶山，山問曰：莫是多口白頭因麼？曰：不敢。師

曰：有多少口？曰：通身是。師曰：尋常向甚麼處扇？曰：向韶山句裡扇。師曰：有韶山口，即得無韶山口，向甚麼處扇？因無語，師便打。

雲岳殘羹。

〔臨濟法嗣。〕傳燈十二。雲山和尚有僧從西京來，師問：還將得西京主人書來

否？曰：不敢。妄通消息。師云：作家師僧，天然有在。曰：殘羹餽飯，唯喫。師云：獨有閑梨，不甘喫。其僧仍作吐勢。師喚侍者曰：扶出這病僧，着僧便出去。

泐潭酸酒。

〔真淨文法嗣。〕會元十七。隆興府泐潭湛堂文準禪師，僧問：如何是道？師云：蒼

天蒼天，曰：學人特伸請問。師曰：十字街頭吹尺八，村酸冷酒兩三巡。

谷泉巴鼻。

〔汾陽法嗣。〕南岳芭蕉庵主，世呼爲泉大道，以其歌頌，間有大道爲題，如六巴鼻

頌曰：大道巴鼻，問著瞌睡，背負葫蘆，任歌逸戲，散聖巴鼻，逢場作戲，東湧西沒，南州北里，禪師巴鼻，有利無利，碧嶽崔嵬，龍行虎視，納僧巴鼻，坐具尺二，休尋短長，風高雲起，座主巴鼻，懸河無滯，地湧金蓮，手擎如意，山童巴鼻，金將火試，客問山居，遠來不易。

真歇筋斗。

〔丹霞子淳嗣。〕

惠可斷臂。

〔會元一。〕初祖因有僧神光來參，祖端坐莫聞，誨勵立庭下，遲明積雪齊腰，祖憫

而問曰：汝久立雪中，當求何事？師悲淚曰：唯願慈悲，開甘露門，廣度群品。祖曰：諸佛無上妙道，曠劫精勤，難行能行，豈以小德小智，輕心慢心，冀真乘哉？師聞已，取利刀，自斷左臂，置子

祖前，師適曰：諸佛法印，可得聞乎？祖曰：諸佛法印，匪從人得。曰：我心未安，乞師安心。祖曰：將心來，與汝安心。曰：覓心不可得。祖曰：與汝安心竟。又記之曰：汝但外息諸緣，內心無喘，心如

牆壁，可以入道。

神觀安頭。

真淨留贈香城淳長老頌曰：簾捲西山色，禪心共月華，香城深處寺，靈觀上人家，

絕頂壇猶在，盈頭乳已除，而今淳道者，經誦白蓮花。

王老水牯。

〔馬祖法嗣。〕傳燈八。南泉因僧問和尚百年後，向什麼處去？師云：作一頭水牯

牛去。僧云：某甲隨和尚去得否？云：汝若來，啣取一枝草來。

中邑獼猴。

〔馬禪法嗣。〕傳燈六。朗州中邑洪恩禪師，仰山初領新戒，到謝戒，師見來，於禪

床上拍手云：和和，仰山即東邊立，又西邊立，又於中心立，然後謝戒了，卻退後立。師云：什麼處得此三昧？山云：曹溪脫於印子學來。師云：汝道曹溪用此三昧，接什麼人？山云：接一宿覺。山云：和尚什麼處得來此三昧？師曰：於馬大師處學得，問如何得見性？師云：譬如屋，屋有六窓，內有一獼猴，東邊喚，山山，山山，應如是六窓俱喚，俱應，仰山禮謝起云：所蒙和尚譬喻，無不了知，更有一事，只如內獼猴困睡，外獼猴欲與相見，時如何？師下繩床，執仰山手，作舞云：山山與汝相見了，譬如蠅螟蟲在蚊子眼睫上，作窠，向十字街頭叫喚，云：土曠人稀，相逢者少。

茱萸釘橛。

〔南泉法嗣。〕鄂州茱萸山和尚，初住隨州護國院，爲第一世，金輪可觀，和尚問：如

何是道？師云：莫向虛空裡釘橛。觀云：虛空是橛，師乃打之。觀捉住云：莫打某甲，已後錯打人

在師便休。

象骨親毬。（會元七） 玄沙謂雪峯曰：某甲如今大用去，和尚作麼生？師將三箇木毬，一時拋出，沙作祈禱勢。師云：爾親在靈山，方得如此。沙曰：也是自家事。一日陞座，衆集定，師親出木毬，玄沙遂捉來安舊處。師凡有僧來參，親出示之。

龍潭送餅。（天皇道悟法嗣） （會元七） 龍潭未出家時，爲餅鋪，住在天皇寺前，每日常供餅十枚。上天皇，皇受了，卻一餅與之，曰：惠汝，以蔭子孫。潭云：是某將來，何以返云？惠汝，皇云：皇汝將來，復汝，何咎？潭因有悟入，遂投出家。

投子沽油。（翠微無學嗣） （傳燈錄） 投子悟翠微宗旨，結茆而居。一日趙州至桐城縣，途中相遇，乃逆而問曰：莫是投子山主麼？師云：茶鹽錢乞一文，州無語。先到庵中坐，師携油瓶歸，州曰：久饗投子，到來只見箇賣油翁。師云：汝只見賣油翁，亦不識投子。如何是投子？師云：油油。

嚴陽飼虎。（趙州法嗣） （傳燈十二） 嚴陽尊者，初參趙州，問：一物不將來時如何？州云：放下着。着云：一物不將來，放下箇什麼？州曰：與麼則擔取去。着於言下，大悟。後住山，有一蛇一虎，就手而食。

惠藏牧牛。（傳燈六） 撫州石鞏惠藏禪師，一日在厨作務，馬祖曰：作什麼生？曰：牧牛。祖曰：作麼生牧？曰：一回入草去，驀鼻拽將回。祖曰：子真牧牛也。

宣鑿出浴。（龍潭法嗣） （傳燈六） 守廓侍者問德山曰：從上諸聖，向甚麼處去？山曰：作麼作

麼。廓曰：勅點飛龍馬，跋鼈出頭來。山便休去。來日浴出，廓過茶與山，山於背上拊一下曰：昨日公案作麼生？廓曰：這老漢，今日方始瞥地。山又休去。

師龐登樓。（雪峯法嗣） （傳燈十九） 越州諸暨縣越山師龐，號監真禪師。初參雪峯，而染指。後因闕王請於清風樓齋坐，久舉目，忽覩日光，豁然頓曉。而有偈曰：清風樓上赴官齋，此日平生眼豁開。方識普通年遠事，不從葱嶺路將來。歸呈雪峯，峯然之。

雲庵奪席。（黃龍南法嗣） （僧寶傳下） 雲庵真淨克文禪師，年二十五，試所習，剃髮受具足戒。學經論，無不臻妙。奪京洛講席，自爲主客，而發奧義者數矣。

淨照隨舟。（浮山遠法嗣） （僧寶二十六） 淨照禪師，名道臻，字伯祥。一日行江上，顧舟默計曰：當隨所住信吾緣也。問舟師曰：載我船尾可乎？舟師笑曰：師欲何之？我入汴船也。師云：吾行游京師，因載之而北。

國師三喚。（六祖法嗣） （會元二） 南陽惠忠國師，一日三喚侍者。三應，師曰：將謂吾孤負汝，却是汝孤負吾。

趙州一搭。（會元四） 趙州尼問：如何是密密意？州以手搭之。尼曰：和尚猶有這箇在。州曰：卻是爾有這箇在。

大隋蓋龜。（傳燈十一） 益州大隋法真禪師，庵側有一龜。僧問：一切衆生，皮裹骨，這箇衆生，爲什麼骨裹皮？師拈鞋履，蓋龜背上，僧無語。

百丈野鴨。（會元三） 百丈侍馬祖行次，見一群野鴨飛過。祖曰：是甚麼？丈曰：野鴨子。祖曰：甚

麼處去也。丈曰：飛過去，祖遂把鼻扭，百丈痛失聲。祖曰：又道：飛過去也。師於言下有省，上卷見百丈捲席處。

曹嶠靈衣。（洞山价法嗣。）（會元十三） 僧問曹山：靈衣不挂時如何？師曰：曹山孝滿，曰：孝滿後如何？師曰：曹山好顛酒。

疎山壽塔。（會元十三） 疎山因有僧爲師造壽塔畢，白師曰：將多少錢與匠人？曰：一切在和尚。師云：爲將三錢與匠人，爲將兩錢與匠人，爲將一錢與匠人，若道得與吾親造塔來，僧無語。後僧舉似大嶺庵閑和尚，卽羅山也。嶺曰：還有人道得麼？僧曰：未有人道得。嶺曰：汝歸與疎山道。若將三錢與匠人，和尚此生決定不得塔。若將兩錢與匠人，和尚與匠人共出一隻手。若將一錢與匠人，累他匠人眉鬚墮落。僧回如教而說，師具威儀，望大嶺作禮，嘆曰：將謂無人，大嶺有古佛，放光射到此間。雖然如是，也是臘月蓮華。大嶺後聞此語，曰：我恁麼道，早是龜毛長三尺。

百會不會。（會元七） 洛京南院和尚，有儒者博覽古今，時呼爲張百會。謁師，師問：莫是張百會麼？曰：不敢。師以手於空畫一畫，曰：會麼？曰：不會。師曰：一向不會，甚麼處得百會來。

法達不達。（六祖法嗣。）（傳燈五） 洪州法達禪師者，洪州豐城人也。七歲出家，誦法華經，進具之後，來禮六祖，頭不至地。祖呵曰：禮不投地，何如不禮？汝心中必有一物，纏習何事耶？師云：念法華經，已及三千部。祖曰：汝若念至萬部，不得其經意，不以爲勝，則與吾偕行。汝今負此事，卽生亡，功福無比。祖又曰：汝名什麼？對曰：名法達。祖曰：汝名法達，何曾達法？復說偈曰：

汝今名法達，勤誦未休歇。空誦但循聲，明心號菩薩。汝今有緣故，吾今爲汝說。但信佛無言，蓮華從口發。師聞偈，悔過曰：而今而後當謙恭一切，唯願和尚大慈，略說經中義理。祖曰：汝念此經，以何爲宗？師云：學人愚鈍，從來但依文誦念，豈知宗趣？祖曰：汝試爲吾念一偈，吾當爲汝解說。師卽高聲念經，至方便品。祖曰：止。此經元來以因緣出世爲宗，縱說多種譬喻，亦無越於此。何者？因緣唯一大事，一大事卽佛知見也。汝慎勿錯解經意，見他道開示悟入，自是佛之知見，我輩無分。若作此解，乃是謗毀佛也。彼既是佛，已具知見，何用更開？汝今當信佛知見者，只汝自心，更無別體。蓋爲一切衆生，自蔽光明，貪受塵境，外緣內擾，甘受馳驅，便勞他從三昧起，種種苦口勸令寢息，莫向外求。與佛無二，故云：開佛知見。故但勞勞執念，謂爲功課者，何異牽牛愛尾也。師云：若然者，俱得解義，不勞誦經耶？祖曰：經有何過，豈障汝念，只爲迷悟在人，損益由汝。聽吾偈曰：心迷法華轉，心悟轉法華。誦久不明己，與義作隣家。無念念卽正，有念念成邪。有無俱不計，長御白牛車。師聞偈，再啓曰：經云：諸大聲聞乃至菩薩，皆盡思度量，尚不能測於佛智。今令凡夫但悟自心，使名佛之知見，自非上根，未免疑謗。又經說：三車、大牛之車與白牛車，如何區別？願和尚再垂宣說。祖曰：經意分明，汝自迷背。諸三乘人，不能測佛智者，患在度量也。饒伊盡思共推轉，加懸遠。佛本爲凡夫說，不爲佛說。此理若不肯信者，從他退席，殊不知坐却白牛車，更於門外覓三車。況經文明向汝道，無二亦無三。汝何不省？三車是假爲昔時故，一乘是實爲今時故。只教汝去假歸實，歸實之後，實亦無名。應知所有珍財盡屬於汝，由汝受用，更不作父想，亦不作子想，亦無用想，是名持法華。

經從劫至劫，手不釋卷，從晝至夜，無不念時也。師既蒙啓發，踊躍歡喜，以偈贊曰：經誦三千部，曹溪一句亡，未明出世旨，寧歇累生狂。羊鹿牛權設，初中後善揚，誰知火宅內，元是法中王。祖曰：汝今後方可名爲念經僧也。師從此領玄旨，亦不輟誦持。

楊岐八棒。

臨濟四喝。〔黃檗法嗣〕臨濟謂僧曰：有時一喝，如金剛王寶劍，有時一喝，如踞地師子，有時一喝，如探竿影草，有時一喝，不作一喝用。汝作麼生會？僧擬議，師便喝。

匾頭被罵。〔會元十七〕黃龍惠南禪師，叢林目曰：南匾頭，因趨詣慈明之室，曰：惠南以闢短，望道未見，此間夜參，如迷行得指南之車，然唯大慈更施法施，使盡餘疑。慈明笑曰：書記已領徒游方，名聞叢林，借使有疑，不以衰陋鄙棄，坐而商略，顧不可哉？呼侍者：進榻，且使坐。師固辭哀懇愈切，慈明曰：書記學雲門禪，必善其旨，如曰：放洞山三頓棒，洞山于時應打不應打。師云：應打。慈明色莊而言：聞三頓棒聲，便是喫棒，則汝自旦及暮，聞鷄鳴鵲噪，鐘魚鼓板之聲，亦應喫棒，何時當已哉？師墮而却。慈明云：吾始疑，不堪汝師，今可也。即使拜，師拜起，慈明理前語曰：脫如汝會雲門意旨，則趙州嘗言：臺山婆子，被我勘破，試指其可勘處。師面熱汗下，不知答。趨出，明日詣之，又遭詬罵。師慙見左右，卽曰：改以未解求決耳。罵豈慈悲法施之式？慈明笑曰：是罵耶？師於是默悟其旨，失聲曰：泐潭果是死語。獻語曰：傑出叢林，是趙州老婆勘破沒來由，而今四海清，如鏡行人，莫與路爲難。慈明以手點沒字，顧師，師卽易有之字，而心服其妙密，留月餘辭去。

水潦遭踏。〔傳燈八〕水潦和尚參馬祖，禮拜起欲伸問，祖一蹈踏倒，師忽然大悟，起來呵呵大笑云：也太奇也太奇，百千三昧，無量妙義，只向一毫端上，識得根源去，便禮拜。

死心下火。〔黃龍法嗣〕〔會元十七〕寶覺禪師將入滅，命門人黃太史庭堅主後事。茶罷日，隣峯爲秉炬，火不續。黃願師之得法上首死心新禪師曰：此老師有待於吾兄也。新以喪拒黃強之，新執炬召衆曰：不是餘殃累及我，彌天罪過不容誅，而今兩脚捎空去，不作牛定作驢，以火炬打一圓相，曰：祇向這裡雪屈，擲炬應手而燃。

自禪掛塔。〔五祖演法嗣〕廬州五祖表自禪師，嗣祖席，衲子四至不可遏，師榜侍者門曰：東山有三句，若人道得掛搭衲子皆披靡，一日有僧携坐具徑造丈室，謂師曰：某甲道不得，祇要掛搭，師大喜，呼維那於明窓下安排。

天然口啞。〔石頭迂法嗣〕〔會元三〕龐居士一日見丹霞來，遂不語，亦不起。霞迺拈起手中拂子，士便拈起鉢子，霞曰：只恁麼別更有在？士曰：此回見兄，不似於前。霞云：不妨減人聲價。士曰：本來要折倒汝一上。霞曰：恁麼則啞却天然口也。士曰：汝啞却本分，猶累我啞却。霞乃擲却拂子去。士曰：然則梨然梨，霞不顧。士曰：不唯患啞，兼亦患聾。

大耳心通。〔會元二〕唐肅宗詔南陽慧忠國師，試驗西天大耳三藏。他心通，師到，三藏作禮立右邊，師問曰：汝得他心通耶？曰：不敢。師曰：汝道老僧只今在何處？曰：和尚是一國之師，却去西川看競渡，又問：汝道只今又在何處？曰：天津橋上看弄獼猴，又問：汝道只今齋三藏，罔然。師叱曰：者野狐精，他心通在何處。

文益書字。〔桂琛法嗣。〕會元六。昔有一老宿住庵於門上書心字於窗上書心字於壁上書心字法眼云門上但書門字窗上但書窗字壁上但書壁字玄覺云門上不要書門字窗上不要書窗字壁上不要書壁字何故字義炳然。

曉聰栽松。〔文殊應天真嗣。〕洞山曉聰禪師手植萬松於東嶺而誦金剛般若經山人名其嶺曰金剛方植松而寶禪師至時親自五祖來師問上嶺一句作麼生道寶曰氣急殺人師挂鏤呵曰從何得此隨語生解阿師見問上嶺便言氣急佛法卻成流布寶語代語師曰何不道氣喘殺人逍遙問嶺在此金剛在什麼處師指曰此一株松是老僧親栽初比部郎中許公式出守南昌過蓮華峯聞祥公曰聰道者在江西試尋訪之此僧人天眼目也許公既至聞聰住山家風作詩寄之曰語言渾不滯高躡祖師蹤夜坐連雲石晝栽帶雨松鏡分金殿燭山答月樓鐘有問西來意靈堂對遠峰。

禾山義虎。〔黃龍南法嗣。〕僧寶傳下。禾山普禪師初秀出講席解唯識起信論兩川無敢離詰者號義虎。

瑞岩臥龍。〔岩頭法嗣。〕傳燈十七。台州瑞岩師彥禪師謁夾山會和尚會問什麼處來曰臥龍來會曰來時龍還起未師乃顧視之會曰灸瘡上更著艾焦曰和尚苦如此作什麼會便休。

翠岩唾地。〔石霜法嗣。〕會元十七。蘄州開元子琦禪師謁翠岩真禪師問佛法大意唾地曰這一滴落在甚麼處琦捫膺曰學人今日脾疼師解頰。

寶壽釘空。〔臨濟法嗣。〕傳燈十二。鎮州寶壽沼和尚胡釘鉸來參師問汝莫是胡釘鉸曰不敢師曰還解釘得虛空否曰請和尚打破某甲與釘師以拄杖打之胡曰和尚莫錯打某甲師云向後有多口阿師與點破在。

一城人瞎。〔傳燈十二。〕寶壽開堂三聖推出一僧在寶壽前壽便打其僧聖云長老若恁麼爲人瞎却鎮州一城人眼在。

三日耳聾。〔會元三。〕見前黃檗吐舌處。

東山餽餠。〔五祖錄。〕法演遊方十餘年海上參尋見數人尊宿乃到浮山圓鑑會下直是開口不得後到白雲門下咬破一箇鐵酸餠直得百味具足且道餠子一句作麼生道乃有偈
花發鷄冠媚早秋誰人能染紫絲頭有時風動頻相倚似向階前調不休。

楊岐栗蓬。〔會元十九。〕楊岐問僧栗蓬作麼生吞金剛圈作麼生透。

惠南主法。〔僧寶傳下。〕黃龍南曰住持要在得衆得衆要在見情先師言人情者爲世之福田蓋理道所由生也故時之否泰事損益必因人情情有時通塞則否泰生事有時厚薄則損益至唯聖人能通天下之情故易之別卦乾下坤上則曰泰乾上坤下則曰否其取象損上益下則曰益損下益上則曰損夫乾爲天坤爲地天在下而地在上位故乖矣而返謂之泰者上下交故也主在上而實處下義故順矣而返謂之否者上下不交故也是以天地不交庶物不育人情不交萬事不和損益之義亦由是矣夫在人上者能約己以裕下下必悅而奉上矣豈不謂之益乎在上者蔑下而肆諸己下必怨而叛上矣豈不謂之損乎故上下

交則泰，不交則否，自損者人益，自益者人損，情之得失，豈容易乎？先聖嘗喻人爲舟，情爲水，水能載舟，亦能覆舟，水順舟浮，違則沒矣，故住持得一人，情則興，失一人，情則廢，全得而全興，全失而全廢，故同善則福多，同惡則禍甚，善惡同類，端如貫珠，興廢象行，明若觀日，斯歷代之元龜也。

居訥扶宗。〔延慶榮法嗣〕。〔會元十六〕圓通居訥禪師，仁宗皇帝聞其名，皇祐初，詔住十方淨因禪院，師稱目疾，不能奉詔，有旨令舉自代，遂舉僧懷璉，禪學精深，在居訥之右，於是詔璉，璉至引對，問佛法大意，稱旨，天下賢師知人。

洪濟師子。
遼陽大蟲。

趙州探水。〔傳燈十〕趙州一日訪茱萸，將拄杖於法堂上，東行西行，萸云：作什麼？州云：探水，萸云：我這裡一滴也無，州將拄杖靠壁便出。

百丈夾火。〔傳燈九〕潯山一日侍百丈，丈問：誰？山曰：靈祐，丈曰：汝撥爐中有火否？山撥之，無火，丈躬自深撥，得少火，舉以似山云：爾道無者箇，潯山忽然契悟，遂禮拜陳其所解，丈云：此迺暫時岐路耳，欲識佛性義，當觀時節，因緣時節若至，如迷忽悟，如忘忽憶，方省己物，不從他得，故祖師云：悟了同未悟，無心亦無法，只是無虛妄，凡聖等心，本來心法，元自具足，汝今既是善自護持，次日同百丈入山作務，丈曰：將得火來麼？山曰：將得來，丈曰：在甚處？山乃拈一枝柴，吹兩吹度，與百丈，丈曰：如蟲喫木。

金峰行餅。〔禪林類聚十八〕金峰一日於僧堂內，喫餠餅，次自拈一枚餅，在上板頭轉一匝，大衆見一時合掌，峰云：假使爾十分擡起手，也祇得一半，至晚有僧請益云：今日行餅，見僧合掌，和尚道：假饒十分擡起手，也祇得一半，請和尚至道，峯作拈餅勢，復云：會麼？僧云：不會，峯云：金峯也祇得一半。

布袋拈果。〔傳燈二十七〕布袋在通衢立，有僧云：作什麼？布袋云：等箇人，僧云：來也，布袋取一橘子，與僧，僧纔接，布袋縮手云：爾不是者箇人。

中邑鳴哪。中邑每見僧，拍手鼓唇曰：哪鳴哪鳴。

青山骨剉。〔黃檗法嗣〕。〔傳燈十二〕杭州羅漢院宗徹禪師，僧問：如何是西來意？師云：骨剉也，師對機多用此語，時人因號骨剉和尚。

明招目眇。〔羅山道閑法嗣〕。〔會元十三〕婺州明招謙和尚，眇一目，叢林號獨眼龍。

雲門脚跛。〔會元五〕雲門初參睦州，方扣門，州拈之曰：道道，門驚不暇答，乃推出曰：秦時轆轤鑽，隨掩其扉，損門右足。

四處謾人。〔傳燈十九〕漳州保福從展謾師，四謾人，一問僧：殿裏是甚麼佛？僧曰：和尚定當看，師曰：釋迦佛，僧云：莫謾人好，師云：却是禪謾我，二問僧：作甚麼業？喫得與麼大？僧云：和尚也不少，師作蹲勢，僧云：和尚莫謾人好，師云：却是爾謾我，三問僧：汝名甚麼？僧云：咸澤，師云：忽遇枯涸，看如何？僧云：誰是枯涸者？師云：我是，僧云：和尚莫謾人好，師云：卻是爾謾我，四問：浴主湯鍋，潤多少？主云：請師量，師便作量勢，主云：和尚莫謾人好，師云：却是爾謾我。

三翻懺懺。〔傳燈〕 隋州護國院守澄淨果禪師。僧問。鶴立枯松時如何。師云。地下底一場懺懺。問。會王沙汰時。護法善神向甚麼處去。師云。三門前兩箇。一場懺懺。問。滴水滴凍時如何。師云。日出後一場懺懺。

韶陽九九。〔雲門錄〕 僧問雲門。如何是向上一竅。門云。九九八十一。又僧問。如何是最初一句。門云。九九八十一。又僧問。以字不是。八字不成。未審是甚麼字。門云。九九八十一。

文殊三三。 杭州無着文喜禪師。初謁大慈山性空禪師。空曰。子何不徧參乎。師直往五臺山華嚴寺。至金剛窟禮謁。遇一老翁牽牛而行。邀師入寺。翁呼均提。有童子。應聲出迎。翁縱牛。引師陞堂。堂宇皆耀金色。翁踞床。指繡墩命坐。翁曰。近自何來。師云。南方。翁曰。南方佛法如何。住持。師云。末法比丘。少奉戒律。翁曰。多少衆。師曰。或三百。或五百。師却問。問佛法如何。師納其味。心意豁然。翁拈起玻璃盞。問曰。南方還有這箇否。師曰。無。翁曰。尋常將甚麼喫茶。師無對。師視日色稍晚。遂問翁。擬投一宿得否。翁曰。汝有執心在。不得宿。師曰。某甲無執心。翁曰。汝曾受戒否。師曰。受戒久矣。翁曰。汝若無執心。何用受戒。師辭退。翁令童子相送。師問童子。前三三後三三。是多少。童召大德。師應諾。童曰。是多少。師復問曰。此爲何處。童曰。此金剛窟般若寺也。師悽然悟。彼翁者。即文殊也。不可再見。即稽首童子。願乞一言爲別。童說偈曰。面上無嗔供養具。口裏無嗔吐妙香。心裏無嗔是珍寶。無垢無染是真常。言訖均提與寺俱隱。但見五色雲中。文殊垂金毛師子往來。忽有白雲。自東方來覆不見。時有滄州菩提寺

僧修改等。至尙開山石震吼之聲。師因駐錫五臺。見會元二。

金牛飯桶。〔馬祖法嗣〕。〔會元三〕 金牛和尚。每至齋時。自將飯桶。於僧堂前作舞。呵呵大笑云。菩薩子喫飯來。

靈照菜籃。〔傳燈十四〕 丹霞訪龐居士。門前見女子靈照去洗菜。霞問。居士在否。照放下菜籃。斂手而立。霞曰。居士在否。照提起菜籃而去。霞便回。居士從外歸。靈照舉似居士。居士云。丹霞在否。照云。已去也。居士云。赤土塗牛糞。

丹霞燒佛。〔傳燈十四〕 丹霞嘗到洛京惠林寺。值天寒。取木佛燒之。院主呵之。霞曰。吾燒取舍利。主云。木佛豈有舍利。霞曰。若爾何責我乎。院主後眉鬚墮落。

婆子焚庵。〔會元六〕 昔有婆子。供養一庵。主經二十年。常令一二八女子送飯給侍。一日令女子抱定曰。正恁麼時如何。主曰。枯木倚寒岩。三冬無暖氣。女子舉似婆。婆曰。我二十年祇供養得箇俗漢。遂遣出燒却庵。

雲蓋論義。〔石霜諸法嗣〕。〔會元六〕 雲蓋元禪師。因潭州道正表。聞馬王。乞師論義。王請師上殿。相見茶罷。師就王乞劍。師握劍問導正曰。爾本教中道。恍恍惚惚。其中有物。是何物。杳杳冥冥。其中有精。是何精。道得不斬。道不得。即斬。道正茫然。便禮拜懺悔。師謂王曰。還識此人否。王曰。識。師曰。是誰。王曰。道正。師曰。不是。道若正合。對得。得臣僧。此祇是箇無主孤魂。因恁道士更不紛紜。

德山小參。〔傳燈十五〕 德山小參。示衆云。今夜小參。不答話。問話者三十棒。時有僧出禮拜。

師便打僧云某甲話也未問在師云偏是什麼處人僧云新羅人師云未跨船舷子好與三十棒。

芙蓉妙唱。〔投子青法嗣。〕〔入天眼目〕芙蓉楷禪師妙唱不干舌頰曰剌剌塵塵處處談不勞彈指善財參空生也解通消息花雨岩前鳥不啣空生者須菩提也。

常察玄談。〔九峯虔法嗣。〕〔傳燈二十九〕同安常察禪師十玄談。○心印。○祖意。○玄機。○塵異。○佛教。○還鄉曲。○破還鄉曲。○轉位歸。○回機。○正位前。

二祖安心。在前惠可斷臂之處。

洞山見影。〔雲岩晟法嗣。〕〔會元十三〕洞山問雲岩和尚百年後忽有人問還貌得師真如何祇對雲岩曰祖向伊道即遮箇是師良久雲岩曰承當遮箇事大須審細師猶涉疑復因過水觀影大悟前旨因有一偈曰切忌從地覓迢迢與我踈我今獨自往處處得逢渠渠今正是我我今不是渠應須恁麼會力得契如如。

藥嶺茶枯。〔石頭法嗣。〕〔會元五〕藥山一日與道吾雲岩高沙彌遊山見兩樹一茶一枯山問曰榮者是枯者是吾曰枯者是山曰酌然一切處令教枯淡去又問岩岩曰榮者是山曰酌然一切處令光明燐爛去復問沙彌彌曰枯者從他枯榮者從他榮山回顧道吾雲岩曰不是不是。

夾山人境。〔華亭法嗣。〕〔會元五〕僧問夾山如何是夾山境山曰猿抱子歸青嶂後鳥啣花落碧岩前。

香巖上樹。〔潞山法嗣。〕〔傳燈十一〕香巖一日上堂示衆如人上樹口啣一樹枝脚不踏枝手不舉枝忽有人問祖師西來意若答他即喪身失命不答他又違他所問時有虎頭上座出云樹上即不問樹下一句道將來嚴呵呵大笑。

仰山出井。〔傳燈十一〕潭州石霜山性空禪師因僧問如何是西來空曰如人在千尺井中不假一寸繩得出此人即答汝西來意僧云近日湖南鴨和尚出世亦爲人東語西話空喚沙彌拽出者死漢着仰山沙彌也沙彌後舉問耽源如何出得井中人源曰咄癡漢誰在井中仰山後問潞山如何出得井中人潞山迺呼惠寂寂應諾潞山曰出也及往仰山嘗舉前話謂衆曰我在耽源處得名潞山處得地。

趙州接客。〔南泉法嗣。〕〔會元〕眞定師王携諸子入院趙州坐而問曰大王會麼王云不會師云自小持齋身已老見人無力下禪床王尤嘉禮重翌日令客將傳語師下禪床受之少間侍者問云和尚見大王來不下禪床今日將軍來爲什麼却下禪床師曰非汝所知第一等人來禪床上接中等人來下禪床接末等人來三門外接師寄拂子與大王若問何處得來但道老僧平日用不盡者。

价老看病。〔雲岩晟法嗣〕洞山僧問和尚達和還有不病者也無師曰有僧曰不病者還看和尚否師曰老僧看他有分曰和尚爭得看他師曰老僧看時即不見有病。

南泉油養。〔禪林類聚九〕南泉願禪師一日不赴堂侍者請赴堂師云我今日在莊上喫油糞飽者云和尚不會出入師云汝去問莊主者方出門忽見莊主歸謝和尚云云。

韶陽餠餅。〔雪峰法嗣。〕〔雲門錄〕 僧問雲門、如何是超佛越祖之談、門云、餠餅。

德山托鉢。〔傳燈十五〕 雪峰在德山作飯頭、一日飯遲、德山擊鉢下法堂、雪峰迺曰、鐘未鳴、鼓未響、老和尚托鉢向什麼處去、德山却歸方丈、巖頭在堂中、聞得拊掌曰、大小德山、未會末後句、德山聞舉、令侍者喚頭、問云、爾不肯老僧那、頭密啓其意、德山來日上堂、說話異於每常、頭到僧堂前、撫掌大笑曰、且喜堂頭老漢、會末後句、他後天下人不奈何、雖然如是、只得三年話、後三年果化。

象骨覆盆。〔傳燈七〕

雪峯在洞山作飯頭、淘米次、山問、淘沙去、米淘去、沙、師曰、沙米一時去、山曰、大衆喫箇甚麼、師遂覆却米盆、山曰、據子因緣、合在德山。

婆子眷屬。〔傳燈六〕

昔有一僧、參米胡路逢一婆住庵、僧問婆、有眷屬否、曰、有、僧曰、在甚麼處、曰、山河大地、若草若木、皆是我眷屬、僧曰、婆莫作師姑來否、曰、汝見我是甚麼、僧曰、俗人、婆曰、汝不可是僧、僧曰、婆莫混濫佛法好、婆曰、我不混濫佛法、僧曰、汝恁麼、豈不是混濫佛法、婆曰、爾是男子、我是女人、豈會混濫。

王老兒孫。〔馬祖法嗣。〕〔傳燈八〕

黃檗在南泉爲首座、一日捧鉢於南泉位上坐、泉入堂見、乃問、長老甚年中行道、槩曰、威音王佛已前、泉曰、猶是王老師兒孫、槩遂過第二位。

雲居送袴。〔良价法嗣。〕〔會元三〕

洪州雲居道膺禪師、曾令侍者送袴與一住庵道者、道者曰、自有娘生袴、竟不受、師再令侍者問娘、未生時、著箇甚麼、道者無語、後遷化有舍利、持似於師、師曰、直饒得八斛四斗、不如當時下得一轉語好。

道吾得視。〔藥山法嗣。〕〔傳燈十四〕

有施主、施視藥山、提起示衆曰、法身具四大否、有人道得與他一腰視、潭州道吾山宗智禪師云、性地非空、空性非地、此是地大、三大亦然、藥山不達前言、乃與吾視。

九峰頭尾。九峯禪師僧問、如何是頭、師曰、開眼不覺曉、僧曰、如何是尾、師曰、不坐萬年床、僧

曰、有頭無尾時如何、師云、纔是不貴、僧曰、有尾無頭時如何、師曰、雖飽無力、僧曰、直得頭尾相搆時如何、師曰、兒孫得力、室內不知。

洞山功勳。〔雲岩法嗣。〕〔人天眼目〕

洞山功勳五位、向奉功、共功、功、功、僧問、如何是向、洞山云、喫飯時作麼生、僧問、如何是奉、山云、背時作麼生、僧問、如何是功、山云、放下、鈕頭時作麼生、僧問、如何是共功、山云、不得色、僧問、如何是功、山云、不共。

楊岐七事。

元靜十門。〔五祖演法嗣。〕〔普燈十一〕

南堂元靜禪師、示衆曰、夫參學至要、不出最初句與末後句、透得過者、平生參學事畢、其或未然、與爾作十門、各用印證、自心看得穩當也未、一須信、有教外別傳、二須知、有教外別傳、三須會、有情說法與無情說法、無二、四須見、性如觀掌上、了了分明、一一田地穩密、五須具、擇法眼、六須行、鳥道玄路、七須文武兼濟、八須離邪顯正、九須大機大用、十須向異類中行、此十門、諸人還一一穩當也未、若只是閉門作活計、獨自要了身、却不在此限、若欲荷負正宗、紹隆聖種、須盡明此綱要十門、方坐得曲泉床、受得天下人禮拜、敢與佛祖爲師、若不到恁麼田地、只一向虛顯、他時異日、閻羅老子、未敢放

爾在，有麼出來，大家證據，若無不用，久立。

老安作用。〔傳燈九〕嵩岳慧安國師，因坦然懷讓二人來參，問曰：「如何是祖師西來意？」安曰：「何不問自己意？」曰：「如何是自己意？」安曰：「當觀密作用。」曰：「如何是密作用？」安以目開合示之，然於言下大悟，更不他適，讓機緣不偶，辭往曹溪，滅時稱老安國師。

馬祖勞倦。〔會元三〕僧問馬大師：「離四句絕百非，請師直指某甲西來意。」大師云：「我今日勞倦，不能爲汝說。」問取智藏，去問智藏云：「何不問和尚？」僧云：「和尚敢來問藏？」藏云：「我今日頭痛，不能爲爾說。」問海兄，去問海兄，海云：「我到者裏，却不會。」僧舉示馬大師，大師云：「藏頭白，海頭黑。」鏡清雨聲。〔雪峰法嗣。會元七〕鏡清問僧：「門外是什麼聲？」僧曰：「雨滴聲。」師云：「衆生顛倒，迷己逐物。」僧云：「和尚作麼？」師云：「泊不迷己，意旨如何？」師云：「出身猶可易，脫體道應難。」

龐公雪片。〔馬祖弟子。會元七〕龐居士因辭藥山，山命十人禪客相送至門首，士乃指空。中雪云：「好雪片片，不落別處。」時有全禪客云：「落在什麼處？」居士遂與一掌，全云：「居士也不得。」草草，士曰：「怎麼稱禪客？」閻羅老子未放爾在，全云：「居士作麼？」士又與一掌，云：「眼見如盲，口說如啞。」

雪竇靈臺。〔智門祚法嗣。僧寶傳中〕師爲道日損，偈云：「三分光陰二早過，靈臺一點不揩磨。」貪生逐日區區去，喚不回頭爭奈何。

鼓山聖箭。〔雪峰法嗣。會元七〕鼓山赴大王請，雪峰門送回至法堂，乃曰：「一隻聖箭，直射九重城裏去也。」大原孚曰：「是伊未在。」峯曰：「渠是徹底人。」孚曰：「若不信，待某甲去勘過。」遂趨至

中路，便問師兄向甚麼處去，山曰：「九重城裏去。」孚曰：「忽遇三軍圍繞，時如何？」山曰：「他家自有通霄路。」孚曰：「怎麼則離宮失殿去也？」山曰：「何處不稱尊？」孚拂袖便回，峯問：「如何？」孚曰：「好隻聖箭，中路折却了也。」遂舉前話，峯乃曰：「好渠語在。」孚曰：「這老凍膿，猶有鄉情在。」

鏡面退席。〔興化法嗣。僧寶傳下〕蔣山元禪師歿，舒王以禮致秀鏡面，嗣其席，秀至山，王先候謁，而秀方理叢林事，不時見王，以爲慢己，遂不合棄去。

克賓出院。〔會元十一〕興化謂克賓維那曰：「汝不久爲唱導之師。」賓曰：「我不入這保社，化曰：『爾會了不入，不會了不入。』」賓曰：「惣不與麼，化便打曰：『克賓維那，法戰不勝，罰錢伍貫，設鑽飯一堂。』」次日興化入堂，白槌曰：「克賓維那，法戰不勝，不得喫飯，即便出院。」賓後出世住大行山，嗣興化。

池陽百問。〔事苑第五。普燈三〕隨州大洪第一世報恩禪師，嘗設百問，以問學者，其略曰：「假使百千劫所作業不忘，爲甚麼一稱南無佛，罪滅河沙劫？」又作此○相曰：「森羅萬象，總在其中，具眼禪人，試請甄別。」

佛陀三勸。〔傳燈十四〕鳳翔府法門寺佛陀和尚，常持一串數珠，念三種名號，曰：「一釋迦，二元和三佛陀，自餘是什麼。」旃旄毘丘，一箇過終而後始，事迹異常，時人不可測。

天然割草。〔傳燈十四〕如前丹霞掩耳之處。

提婆投針。〔會元一〕提婆菩薩，自執師子國來，求論難，造龍猛門，龍猛素知其名，遂滿鉢盛水，令弟子持出示之，提婆見水默而投針，弟子將還，龍猛深嘉嘆曰：「水之澄，以方我德，彼來

投針以窮其底，若斯人若，可以論玄議道。

藥山長嘯。〔石頭遷法嗣〕。〔傳燈十四〕。藥山一夜登山經行，忽雲開見月，大嘯一聲，應澧陽東九十里許，居民盡謂東家明晨迭相推問，直至藥山，徒衆曰：昨夜和尚，山頂大嘯，李翱贈詩曰：『選得幽居愜野情，終年無送亦無迎。有時直上孤峯頂，月下披雲嘯一聲。』般若狂吟。

師備果子。〔會元七〕。玄沙與韋監軍喫菓子，韋問：『如何是日用而不知？』師拈起菓子曰：『喫，韋喫菓子了，再問之。』師曰：『只者是日用而不知。』

智勤林檎。〔滙山法嗣〕。〔傳燈十一〕。僧問靈雲：『如何是西來意？』雲曰：『井底種林檎。』佛果漱口。

婆子點心。〔傳燈十五〕。德山者，簡州周氏子，卯歲出家，依年受具，精究律藏，於性相諸經，貫通旨趣，常講金剛經，時謂之周金剛，嘗謂同學曰：『一毛吞海，海性無虧，纖芥投鉢，鉢利不動，學與無學，唯我知焉。』後聞南方禪席頗盛，師氣不平，乃曰：『出家兒，千劫學佛威儀，萬劫學佛細行，不得成佛，南方魔子，敢言直指人心，見性成佛，我當搜其窟穴，滅其種類，以報佛恩。』遂擔青龍疏鈔，出蜀至澧陽，路上見一婆子賣油餅，因息肩買餅點心，婆指擔曰：『這箇是其文字。』師曰：『青龍疏鈔，婆曰：『講何經？』師曰：『金剛經。』婆云：『我有一問，倘若答得，施與點心，若答不得，且別處去。』金剛經道過去，心不可得，現在心不可得，未來心不可得，未審上座點那箇心，師無語，遂往龍潭。

蠱毒之鄉。〔傳燈十七〕。僧問曹山：『學人十二時中，如何保任？』山曰：『如經蠱毒之鄉，水不得露，著一滴。』

荆棘之林。〔會元十五〕。僧問藥山：『學人擬歸鄉時如何？』山曰：『汝父母偏身紅爛，臥在荆棘中，汝歸何所？』僧曰：『恁麼，即不歸去也。』山曰：『汝却須歸去。』汝若歸鄉，我示汝箇休糧方。僧曰：『便請。』山曰：『二時上堂，不得咬破一粒米。』

本寂滲漏。〔洞山法嗣〕。曹山三種滲漏，其詞曰：『一見滲漏，謂機不離位，墮在毒海，二情滲漏，謂智常向背，見處偏枯，三語滲漏，謂體妙失宗，機暗終始，學者濁智，流轉不出，此三種。』

於此建立黃檗宗旨，汝且成，觀我二人珍重下去。三日後普化却上來問，和尚三日前說甚麼，濟便打。三日後，克符上來問，和尚前日打普化作什麼，濟亦打。至晚小參曰：『有時奪人不奪境，有時奪境不奪人，有時人境兩俱奪，有時人境俱不奪。』僧問：『如何是奪人不奪境，濟之曰：『煦日發生，鋪地錦，櫻兒垂髮，白如絲，如何是奪境不奪人，濟云：『王令已行天下，徧將軍塞外，絕烟塵，如何是人境兩俱奪，濟曰：『并汾絕信，獨處一方，如何是人境俱不奪，濟云：『王登寶殿，野老謳歌，克符頌，奪人不奪境，緣自帶諸訛，擬欲求玄旨，思量反責，變驪珠光燦爛，蟾桂影婆娑，覲面無差互，還應滯網羅，奪境不奪人，尋言何處真，問禪禪是妄，究理理非親，日照寒光澹，山遙翠色新，直饒玄會得，也是眼中塵，人境兩俱奪，從來正令行，不論佛與祖，那說聖凡情，擬犯吹毛劍，還如值木盲，進前求妙會，特地斬精靈，人境俱不奪，思量意不徧，主

寶言不異，問答理俱全，踏破澄潭月，穿開碧落天，不能明妙用，淪溺在無緣。

佛日體益。

祖師水枕。祖庭事苑曰：未見出處。

祖心背觸。〔會元十七〕黃龍祖心室中常舉拳，問僧曰：喚作拳頭則觸，不喚作拳頭則背，喚作甚麼？

道一長短。〔南岳讓法嗣〕傳燈六：有僧於馬祖前作四畫，上一畫長，下三畫短，問曰：不得

道，一長三短，雖此四句外，請和尚答，師乃畫一畫云：不得道長短，答汝了也。

石樓無耳。〔石頭法嗣〕會元五：汾州石樓和尚，因僧問：未識本來性，乞師方便指，師云：石

樓無耳，某甲自知非，師云：老僧還有過，僧云：和尚過在甚麼處，師云：過在汝非處，僧禮拜，師便打。

真溪具眼。〔曹溪法嗣〕處州廣利容禪師，初住真溪，有僧來參，師豎起拂子云：真溪老漢，還

具眼麼，僧云：某甲不敢見和尚過，師云：老僧死在閻梨手裡，僧以手指胸便出，師云：閻梨見先師來，至晚，師喫茶，僧拈起盞曰：者箇是諸佛出世邊事，作麼生是未出世邊事，師以手撥

却盞云：到閻梨死在老僧手裏，僧云：五里牌在郭門外，師云：無故惑亂師僧，僧便起謝茶，師云：特謝相訪。

可真點胸。〔慈明法嗣〕普燈三：翠岩可真禪師，到慈明大師，慈明看便問曰：如何是佛法大意，可真曰：無雲生嶺上，有月落波心，明曰：頭白齒黃，猶作這見解，可真垂淚，求指示，明云：

爾可問我，可真以前語問之，明曰：無雲生嶺上，有月落波心，即於其所頓明大法，住翠岩，世推爲天下法窟。

昌禪擔板。

德山招扇。〔傳燈十六〕襄州高亭簡禪師，初隔江見德山，遙合掌呼云：不審德山以手中扇

再招之，簡忽開悟，乃橫趨而去，更不迴顧，後於襄州開法，嗣德山。

迦葉利竿。〔會元一〕阿難問迦葉云：師兄世尊傳金襴袈裟外，別傳何物，迦葉召阿難，難應諾，葉云：倒却門前利竿着。

佛光錦張。佛光無碍禪師，自蘇州永安赴詔，住大相國寺惠林禪院，慧恭皇后嘗於簾下見，登對罷乘空而去，自爾以太官所進御膳供養，復令取禪師所食之餘，還宮，又以地錦製法衣，自綴禪牌賜之，以表奉法之誠，冬月賜紅錦帳子，乃至服飾器皿之類，光遂以宮中所賜法衣，回施法雲佛照禪師，法雲復寄與洪州寶峯湛堂和尚，書云：地錦法衣，與師弟，行先師之道，湛堂示寂，留山門至今猶存。

祐國金襴。

滑終海島。

亮隱西山。〔會元三〕洪州西山亮座主，頗講經論，因參馬祖，祖問曰：見說座主，大講得經論，是否，亮曰：不敢，祖曰：將甚麼講，亮曰：將心講，祖曰：心如工伎兒，意如和伎者，爭解講得，亮抗聲云：心既講不得，莫是虛空講得麼，祖曰：却是虛空講得，師拂袖而出，祖乃召云：座主，師回

首祖曰從生至老只是者箇師豁然大悟遂禮拜祖曰者鈍根阿師禮作麼亮歸告衆曰某甲所講經論謂無人及得今日被馬祖一問平生工夫冰釋已而乃隱西山更無消息至今西山中人往往見之政和中有士人姓熊失其名世爲邦陽人遊洪之諸山道過翠岩時長老思文卽其鄉人遣二力荷轎昇至空相所經林壑隱翳忽覩一僧貌古神清龐眉雪頂編葉爲衣坐於盤石如壁間畫佛圖澄澄像心疑其異人自惟亮公隱於西山恐或是也踉蹌而問曰莫是亮公不僧以手向東指熊隨手回顧失僧所在時小雨新霽熊撫其坐處而石猶溫回顧躊躇大息曰夙緣不厚遇猶不遇也。

大道松妖。〔汾陽法嗣。〔僧寶傳下〕〕泉大道住保真庵蓋衡湘至險絕處夜地坐祝融峯下有火鱗盤繞之泉解衣帶縛其腰中夜不見明日杖策徧山尋之衣帶纏枯松上蓋松妖也。黃龍赤斑。〔傳燈二十一〕福州鼓山智岳子宗大師至鄂州黃龍問曰久嚮黃龍到來只見赤斑蛇黃龍曰汝只見赤斑蛇且不識黃龍宗曰如何是黃龍曰滔滔地宗曰忽遇金翅鳥來又作麼生曰性命難存宗曰恁麼卽被他吞却也曰謝闍梨供養。

黃牛拒戒。〔會元十〕政黃牛者錢塘人住餘杭功臣山幼孤爲童子有卓識詞語皆出入意表其師稱於人有大檀越奇之以度牒施之跪捧謝而不受其師問故曰恩不可輕受彼非知我者特以師之言施百千於一童子保其終身能施物不責報乎如來世尊大願度生則有慈應今妙法蓮華經是當折節誦持恩併歸一於義爲當師自是盛奇之年八十果以其志爲大僧游方問道三十年乃罷。

師子遇姦。端師子錢穆父赴官浙東見之約明日飯端黎明獨往避雨入道傍人家幼婦出迎俄其夫至詎遂竟爲羅卒所收穆父吏速客見之問故曰煩寄聲錢公本來赴齋中途奸情事發請自飯穆父聞之驚且笑顧客曰此僧胸中無一點疑事。

石頭路滑。〔青原思法嗣。〔會元三〕〕鄂隱峰辭馬祖祖云什麼處去峯云石頭去祖云石頭路滑峯云竿木隨身逢場作戲遂到石頭繞繩床三匝振錫而立云是何宗旨頭云蒼天蒼天峯無語回舉似祖祖云更去問他待他有語汝便嘘三聲峯去依前問石頭石頭兩聲峯又無語回舉似祖祖云向汝道石頭路滑馬祖問丹霞從甚麼處來霞曰石頭祖曰石頭路滑還踉倒汝麼霞曰若踉倒卽不來也。

五祖機峻。〔普燈十一〕蘄州五祖法演禪師自海會遷東山太平佛鑑龍門佛眼三人詣山頭省親祖集耆舊主事備湯菓夜話祖問佛鑑舒州熟否對曰熟祖曰太平熟否對曰熟祖曰諸莊共收稻多少佛鑑籌慮問祖正色厲聲曰汝濫爲一寺之主事無巨細悉要究心常住出計一衆所係汝猶罔知其他細務不言可見山門執事知因識果若師翁輔慈明祖師乎汝不思常住物重如山乎蓋演祖尋常機辯捷如是。

明招虎尾。〔羅山道閑法嗣。〔會元十三〕〕明招問疎山虎生七子第那箇無尾巴山云第七箇無尾巴。

老宿鼠糞。〔傳燈二十七〕昔有老宿一夏並不爲師僧說話有僧自歎曰我只與麼空過一夏不敢望和尚說佛法得聞正因兩字亦得也老宿聞之曰闍梨莫誓速若論正因一字也

無道了乃扣齒曰：適來無端，與麼道，隣房僧聞乃曰：好一鍤羹，被兩顆鼠糞污却。

法演四戒。佛鑑和尚初受舒州大平請禮辭五祖，祖曰：大凡住院，爲己戒者有四，第一勢不可使盡，第二福不可受盡，第三規矩不可行盡，第四好語不可說盡，何故好語說盡，人必易之，規矩行盡，人必繁之，福若受盡，緣必孤，勢若使盡，福必至，鑑再拜服膺而退。

守初三頓。〔雲門法嗣〕。〔傳燈二十三〕。

洞山守初詣雲門，門問：近離何處？對曰：查渡。又問：夏在何處？對曰：湖南報慈。又問：幾時離？對曰：八月二十五。門曰：放汝三頓棒，山罔然良久，又申問曰：適來祇對，不見有過，乃蒙賜棒，實所不曉。門呵曰：飯袋子，江西湖南便爾商略，山悟其旨，曰：他日正當於無人煙處，不著一粒米，飯十方僧，即日辭去。

成禪一喝。〔野錄上〕。淨因成禪師，同法真，圓悟慈受，并十大法師，齋于太尉陳公良弼府第，時徵宗私幸，觀其法會，善華嚴者對衆問諸禪師曰：吾佛設教，自小乘至圓頓，掃除空有，獨證圓頓，然後萬德莊嚴，方名爲佛，禪宗以一喝轉凡成聖，與諸經論似相違背，今一喝若能入五教，是爲正說，若不能入，是爲邪說，諸禪師顯成，成曰：如法師所問，不足三大禪師之酬，淨因小長老，可以使法師無惑也，成召善善應諾，成曰：法師所謂愚法小乘教者，乃有義也，大乘始教者，乃空義也，大乘終教者，乃有不空義也，大乘頓教者，乃即有即空義也，一乘圓教者，乃空而不有，有不空義也，如我一喝，非惟能入五教，至於百工伎藝諸子百家，悉皆能入，成乃喝一喝，問善曰：還聞麼？善曰：聞，成曰：汝既聞，則此一喝是有，能入小乘教，成須臾又召善曰：還聞麼？曰：不聞，成曰：汝既不聞，則適來一喝是無，能入始教，成又顧善曰：我初一

喝，汝既道有，喝久聲銷，汝復道無，道無則元初實有，道有則于今實無，不有不無，能入終教，成又曰：我有一喝之時，有非是有，因無故有，無一喝時，無非是無，因有故無，即有即無，能入頓教，成又曰：我此一喝，不作一喝用，有無不及，情解俱忘，道有之時，纖塵不立，道無之時，橫徧虛空，即此一喝，入百千萬億喝，百千萬億喝入此一喝，是故能入圓教，善不覺身起于座，再拜於成之前，成復爲善曰：非唯一喝爲然，乃至語默動靜，一切時，一切處，一切物，一切事，契理契機，周遍無餘，於是四衆歡喜，聞所未聞，龍顏大悅。

太宗十問。太宗皇帝一日幸相國寺，見僧看經，問曰：是甚麼經？僧曰：仁王經，帝曰：既是寡人經，因甚却在卿手裡？僧無對，雪竇代曰：皇天無親，唯德是輔，幸開寶塔，問僧：卿是甚人？對曰：塔主，帝曰：朕之塔爲甚麼？卿作主，僧無對，雪竇代曰：合國咸知，一日因僧朝見，帝問：甚處來？對曰：廬山臥雲庵，帝曰：朕聞臥雲深處不朝天，爲甚到此？僧無對，雪竇代曰：難逃至化，僧入對次，奏曰：陛下還記得麼？帝曰：甚處相見來？奏曰：靈山一別，直至如今，帝曰：卿以何爲驗？僧無對，雪竇代云：貧道得來，京寺回祿，藏經悉爲煨燼，僧欲乞宣賜，召問：昔日摩騰不燒，如今爲甚却燒？僧無對，雪竇代云：陛下不忘付屬，帝嘗夢神人，報曰：請陛下發菩提心，因早朝宣問左右街，菩提心作麼生發？街無對，雪竇代云：實謂今古罕聞，智寂大師進三界圖，帝問：朕在那一界中？寂無對，保寧勇代云：陛下何處不稱尊？二日朝罷，帝擊鉢問丞相王隨曰：既是大庾嶺頭提不起，爲甚麼却在朕手裡，隨無對。

耽章寶鏡。〔洞山法嗣〕。〔僧寶傳〕。曹山寶鏡三昧，其詞曰：如是之法，佛祖密付，汝今得之，其

善保護，銀盃盛雪，明月藏鷺，類之弗齊，混則知處，意不在言，來機亦赴，動成窠臼，差落顧佇，背觸俱非，如大火聚，但形文彩，即屬染污，夜半正明，天曉不露，爲物作則，用拔諸苦，雖非有爲，不是無語，如臨寶鏡，形影相視，汝不是渠，渠正是汝，如世嬰兒，五相完具，不去不來，不起不住，婆婆和和，有句無句，終必得物，語未正故，重離六爻，偏正回互，疊而爲三，變盡成五，如奎，徒結反，具五味草也，草味，如金剛杵，正中妙挾，敲唱雙舉，通宗通塗，挾帶挾路，錯然則吉，不可犯忤，天真而妙，不屬迷悟，因緣時節，寂然照著，細入無間，大絕方所，毫忽之差，不應律呂，今有頓漸，緣立宗趣，宗趣分矣，則是規矩，宗通趣極，真常流注，外寂中搖，係駒伏鼠，先聖悲之，爲法檀度，隨其顛倒，以緇爲素，顛倒相滅，肯心自許，要合古轍，請觀前古，佛道垂成，十劫觀樹，如虎之缺，如馬之票，以有下劣，寶几珍御，以有驚異，鯨奴白牯，弄以巧力，射中百步，箭鋒相直，巧力何預，木人方歌，石兒起舞，非情識到，寧容思慮，臣奉於君，子順於父，不順不孝，不奉非輔，潛行密用，如愚若魯，但能相續，名主中主。

南衙題辭。

新開鷄鳴。〔巴陵新開顯鑒大師〕。〔傳燈二十二〕 僧問巴陵祖意教意，是同是別，陵曰：鷄寒上樹，鴨寒下水。

石門鈞錐。〔首山念法嗣〕。〔會元十一〕 石門蘊聰慈照禪師上堂，十五日已後諸佛生，十五日已前諸佛滅，十五日已前諸佛生，爾不得離我這裡，若離我這裡，我有鈞子鈞爾，十五日已後諸佛滅，爾不得住我這裡，若住我這裡，我有錐子錐爾，且道，正當十五日，用鈞即是，用錐即是，遂有偈曰：正當十五日，鈞錐一時息，更擬問如何，回頭日又出。

無餘喝道。
萬卦題詩。

蚊鑽鐵牛。〔會元九〕 泉州招慶院道匡禪師，僧問：如何是西來意，師曰：蚊子上鏡牛，瀉山一日，問雲岩，聞汝久在藥山，是否，岩云：是，山曰：藥山大人相如何，岩云：涅槃後有，山曰：涅槃後有作麼生，岩云：水灑不著，雲岩却問瀉山，百丈大人相如何，山曰：巍巍堂堂，煒煒煌煌，聲前非聲，色後非色，蚊子上鐵牛，無汝下背處。

鋸解秤槌。〔會元十二〕 僧問大愚，如何是佛，愚曰：鋸解秤槌。
龐蘊是非。〔傳燈八〕 龐居士問本溪和尚，丹霞打侍者意在何處，溪曰：大老翁見人長短在，士曰：爲我與師同參，方敢借問，溪曰：若恁麼從頭舉來，共爾商量，士曰：大老翁不可共爾說，人是非，溪曰：念翁年老，士曰：罪過罪過。

清平豐儉。〔翠微無學法嗣〕。〔傳燈十五〕 鄂州清平山令遵禪師上堂曰：諸上座，夫出家人，須會佛意，始得，若會佛意，不在僧俗男女貴賤，但隨家豐儉，安樂便得，諸上座，盡是久處叢林，徧參尊宿，且作麼生會佛意，試出來大家商量，莫空氣高，至後一事無成，一生空度，若未會佛意，直饒頭上出水，足下出火，燒身鍊臂，聰慧多辯，聚徒一千二千，說法如雲如雨，講得天華亂墜，只成箇邪說，爭競是非，去佛法大遠，在諸人幸，值色身安健，不值諸難，何妨近前着此工夫，體取佛意好。

大顛佛光。(石頭迁法嗣)。(事苑四) 韓愈至潮州聽大顛禪師之名累邀之不至一日大顛特往謁之愈曰三請不來不召何來曰三請不來爲侍郎不召而來爲佛光愈曰如何是佛光顛曰看看。

雪峰火燭。(會元七) 玄沙因雪峯指火曰三世諸佛在火燭裡轉大法輪沙曰近日王令稍嚴峯曰作麼生沙曰不許撓奪行市雲門曰火焰爲三世諸佛說法三世諸佛立地聽。大惠還僧。(圓悟勤法嗣)。(會元十九) 臨安府徑山宗杲大惠普覺禪師道法之盛冠于一時衆二千餘皆諸方俊乂侍郎張公九成亦從之游灑然契悟一日因議及朝政與師連禍紹興辛酉五月毀衣牒屏居衡陽乃真先德機語間與拈提離爲三帙目曰正法眼藏凡十年移居梅陽又五年高宗皇帝特恩放還明年春復僧伽梨四方虛席以邀率不就後奉朝命居育王逾年有旨改徑山道俗歡慕如初。

寂音遭貶。(真淨文法嗣)。(僧寶傳十九) 清源惠洪覺範號寂音尊者崇寧元年反於長沙雲蓋是時陳公瓘瑩中請嶺外以偈見寄且欲其爲負華嚴經入嶺偈曰大士遊方興盡回家山風月絕纖埃杖頭多少閑田地挑取華嚴入嶺來師和之曰因法相逢一笑開俯看人世過飛埃湖湘嶺外休分別圓寂光中共往來其後師坐與公遊而獲譴。首山竹篋。(風穴沼法嗣)。(會元十一) 首山拈竹篋問僧喚作竹篋則觸不喚作竹篋則背且道喚作甚麼。玄冥木劍。

禪苑蒙求 卷之下 終

國譯宗門千字文并序註

四明竺仙梵僊撰

宗門中の事は、文字語言の能く到るに非ず。而して文字語言の未だ嘗て到らざるにもあらず。是の故に諸彦、先儒の千字文の約を次いで、以て宗門中の事を道はんとを請ふ、却くる事を得ざるなり。始め余之を質して曰く、「愚が文無きことは未だ論ぜず。然るに特に是の文を以て何を爲さんと欲するや」。曰く、「觀るに夫れ凡そ今の儒家者流、初學の蒙童、習誦・書寫、是を以て之を升とせずといふこと莫し。其の煩ならず簡ならず、字重疊無く、理頗る淵奥なるを以てす。然る後宏博是れに由つて興る。吾が宗之れ無きこと尤も恨となす。是れも亦方便接引、最善の一端、古未だ有らざる所、亦豈に師の志に非ざらんや。」余其の言を聆いて、不才を以て辭することを爲さずして而して之を成す。既にして復た自註を請ふ。余曰く、「斯れ則ち是の理無し也。抑々文字語言は標指なり、而して標指

國譯宗門千字文並序註

①宗門中事 此の事の文言の及ばざる所は本分、文言の及ぶ所は現成なり。ゆゑに現成によつて本分を悟るべく、本分を悟つて現成を用ふべし。
②千字文。初め魏の鍾繇の著作せしものなれど、のちその次第損失して辨すべからざりしものを、梁の周興嗣之を次第せしものといふ。四言古詩二百五十句よりなり、千字中一字の重複なく天地萬物細大綱羅せざるなし。由つて後人之を初學の資に供せり。
③方便。方法便宜にして、目的

の外、復た標指を加へば、亦、透の甚だしきにあらずや。且つ凡そ註は事のみ、是れ則ち誠に己を以て爲す可からざるなり。倘し意を以てするときは則ち顧みるに此れ謙薄なり。「謙音は翦、淺きなり。」李斯傳に、能薄く材謙しと。奚ぞ注し爲すに足らん。且つ嘗て亦少に、竊に世の所作を觀るに、雋永「雋は徂兗の切、刺通戰國の説士の權變を論ず。亦自ら其の説を序す、號して雋永と曰ふと。師古曰く、肥肉なり。永は長なり。言ふこゝろは論ずる所甘美にして、而して深長なればなりと。」無窮の趣有る者、其の釋を覽るに及んで、則ち了に氣味無し。而して餘韻遺度、截然として之を喪して、俱に盡くるときは則ち返つて其の文をして、晉に「糟粕の如くならざらしむるなり。今の人此れを以て太息を爲す者多し矣。況んや此の固陋にして、言ふに足らざる者をや。然も且つ亦以て指す可からざるの處有り。或は強ひて少しく之を加へば、中人以下は、意を以て之に逆ふこと能はず。而して之に尼まば則ち如之何。」曰く、「前に云はずや、初學のみ、蒙童のみ、久しき則は其れ自ら能く明めざらん耶」と。是に於て乎、并に其れに従ふに、梗概を以てすと云ふ。己卯五月、淨智東堂に書す。

に達する手段をいふ。
●標指。目を標する指の義にして方便のこゝなり。
●透。迂の本字なり。
●李斯。史記第八十七季斯列傳に「能薄くして材謙し」と見えたり。
●刺通。諱は徹、涿郡の人、楚漢の時の説士なり。武信君、韓信等、其の策を用ひて功あり。自らその説を序し、號して雋永といふ。凡そ八十一首あり。
●糟粕。酒のしぼりかすのこゝなり。莊子の天道篇に書物を以て古人の糟粕とせり。
●己卯。北朝の曆歴二年、南朝の延元四年に當れり。梵僊は曆歴元年に三浦の無量寺より淨智寺に退き、東堂に居せり。淨智は鎌倉の金峯山淨智寺、鎌倉五山の第四位なり。

國譯宗門千字文

解題

千字文の起原は魏の鍾繇にあり、晉の武帝之を得て甚だ之を愛す。宋の文帝に及び、その次第損失して辨ずべからざるに至り、梁の武帝の時、周興嗣その韻を次第して完璧とならしめたり。此の書は始めて日本に傳はりしは、應神天皇の朝、百濟の博士王仁、論語と共に傳へしにあり。但しこの千字文は周興嗣の次韻以前のものなり。その後、平安朝に及びて興嗣次韻のものも傳はるに至れり。その體裁は四言古詩二百五十句より成り、總べて一千字、一字の重複なし。本千字文はその韻を踏み、禪宗の教義歴史を詠せしものなり。文字の用法豊麗にして雅致あれども、その序次雜亂して整齊ならず、浮文の多きは遺憾とせざるを得ず。其の後、梵僊、衆の請により、之れが親切詳細なる注を爲りて句毎に置き、又釋問十二篇を作りて卷末に附せり。孰れも宗要を擧揚するの老婆心に出づる處なり。著者梵僊、字は竺仙、自ら來々禪子と號す、支那の明州象山縣（今の浙江寧波府象山縣）の人なり。

日本の元徳元年六月、明極和尚に從ひて太宰府に着し、翌年二月、鎌倉に入る。次いで淨妙寺、淨智寺、無量寺等に歴住し、後ち京都南禪寺に進み、退いて眞如寺、建長寺に累遷す。貞和四年七月十六日に寂す、壽五十七、語録二卷あり。

本書著作の年代は曆應二年にして、相州淨智寺の東堂時代なり。師はその前年即ち曆應元年に淨智寺の東堂に退居せしものなれば、その翌年に當れり。而して本書を國譯するに當りて慶安四年の刊本に據れり。

國譯宗門千字文

天地玄黄、法道遐荒。

遐は遠なり、荒も亦遠なり。極遠の外、人跡不到の處を荒と曰ふ。故に八表を亦八荒と曰ふ。蓋し此の法道は、天地を抱括し、萬類に充塞して、被らずといふ所靡し。而れども眇滌希夷、視聽を絶し、幽致虚玄、情の能く測るところに非ず。故に遐荒と曰ふ。蒼生没出し、佛祖施張す。

蒼生、此の道の中に在つて、生死出沒して、自ら覺らず、是の故に佛祖出でて以て之を覺す。

思惟演說して、含藏を昭著す。空有を剖析し、

析は音錫、分つなり。佛、初め成道、三七日に於て、是の事を思惟す。乃し仙苑及び諸住の處に往いて、十二年の間、諸の有爲の法、縁生無我を説く。然るに猶ほ未だ法無我の理を説かず、初時の教と名

① 八荒。八方の國のはて、史記に八荒を并呑するの語見たり。

② 眇滌。眇滌とも書く、ひろくはるかなる貌。

③ 希夷。希はしづか、夷は大いなり、無聲絶大の意なり。

④ 仙苑。波羅奈斯國の鹿野園を指すなり。鹿野園は佛が過去に於て法祠を建て、諸佛を供養し、諸の仙人等その中に遊居せし故に、仙人住處といふ。

又鹿野園の名は佛が過去に此の園に於て鹿群主となつて、鹿群と共に此の園に居りしを以て稱せらる。

⑤ 十二年。天台に於ては鹿苑の

く。即ち阿含等の一藏小乘經是れなり矣。○次に諸の偏計所執に依つて、諸の法空を説く。然も乃ち依他圓成、猶ほ未だ有を説かず、名けて空教と爲す。○次に法相大乘、境空心有を説く、中道教と名く。即ち深密等の經是れなり矣。○次に一切衆生、如來の知見なりと開示し、三乘を會して一乘となし、權を會して實に歸す、同歸教と名く。即ち法華經是れなり矣。入涅槃に臨んで、一切衆生乃至闍提、皆佛性有り。凡そ是の有心定めて當に作佛して、常樂我淨なる可しと説く、常教と名く。即ち大涅槃經是れなり矣。○然れども經教、天竺に在つて未だ東土に至らざる者之れ有り。龍宮に隠れて、未だ閻浮に擅さざる者之れあり。○何となれば、則ち昔涅槃の後品未だ至らず。○道生法師、天縱の妙悟を以て、精しく研究を加へて曰く、「闍提の人、自ら當に成佛すべし。此の經來ること未だ盡さざるのみ。是に於て文字の師、自らの迷を知らずして、返つて之を攻めて以て邪説と爲す、律に於て當に擯すべし」と。生、衆に白して警つて曰く、「若し我が説く所、經の義に合はずんば、願はくは我が此の身に即ち惡報を見ん。若し乃し實に佛の心に契はば、願はく

説時を十二年さなすに依るなり。
●無我。一切の法は因緣所生の法にして、常一主宰の我なるものなしといふ義なり。
●阿含。佛敎の小乘經典の名あり。四あり、四阿含經といふ。一には增一阿含經五十卷、二には長阿含經二十二卷、三には中阿含經六十卷、四には雜阿含經五十卷なり。
●偏計所執。これは唯識の三性なり、偏計所執性とは、迷妄の性質を指し、依他起性とは因緣生の性質を指し、圓成實性とは、眞如の體性を指す。
●境空心有。萬有皆八識より變現したるものにして、八識の自體即ち萬有なりと説く唯識の奥旨なり。
●中道教。有空中の三時教は、法相宗の教判なり、同歸常住の教判は蕪觀並に劉虬の五教

は、壽を捨てん時、師子座に據らん。是れに由つて南のかた虎丘に來つて、石を擧げて聽徒と爲して、自ら斯の經を講ず。闍提佛性有りといふ處に至つて曰く、「我が所説の如きんば、佛心に契ふや否や。」群石皆爲に首を肯く。後に匡山に遊ぶ。曇無讖、再び西竺に返ると聞いて、訪ふて品を足すことを求む。譯出づるに、闍提皆佛性有りと謂ふ。生乃し忻然として入寂、誓の如し。○又首楞嚴經に、昔し西竺の異僧有り、天台の智者大師に謂つて曰く、「龍勝菩薩、嘗て灌頂部に於て、此の經を誦出すること十卷、五天に流布す。皆諸經未聞の義、唯だ心法の大旨なり。五天の世主、保護秘藏して妄に傳授せず。」智者之を聞いて、日夕西に向つて遙に禮す。「願はくは早く東來して佛の壽命を續がん。」然して竟に見るに及ばず。百載を越え、唐の神龍の初に至つて、此の經方に至る。○又華嚴經は佛滅六百載の後、乃し龍樹といふひと有つて、龍宮に入つて之を閲せしに、凡そ三本有り。○上本十三、三千大千世界微塵數の偈一四、天下微塵數の品。○中本四十九萬八千八百の偈、一千二百品。○下本十萬偈、四十八品。龍樹已前の二本は、世の堪ふる所に非

の判釋に見えたり。
●道生。羅什門下四哲の一人にして、難解神悟人に絶す。闍提佛論を唱へて擯せられ、虎丘山に入つて涅槃經を講じ、闍提佛性ありといふ所に至つて、頑石點頭せりといふ。佛祖統記第二十六の傳に見えたり。
●曇無讖。中天竺の人なり、北涼家通の時、姑臧に於て涅槃經四十卷を譯出せり。
●首楞嚴經。十卷あり、唐の神龍元年般剌蜜帝の譯。
●灌頂部。灌頂は頂に水をそぐ意にして、密法傳授の義を指す、故に灌頂部は秘密部に同じ。
●華嚴經。三譯あり、一は東晉佛陀跋陀羅譯、六十卷あり、二は唐の般若の譯、四十卷あり、三は唐の實叉難陀の譯、八十卷あり。

ざるを以て、但だ乃ち下本を誦出して以て流傳するのみ。且つ今止だ三十九品有り、而して餘の九品は未だ東土に至らざるなり。陰陽を包括す。

孔子、一陰一陽を以て之を道と謂ふ。斯れ則ち道を以て、能く陰陽を包む。唯だ能く包むのみに非ず、嘗て萬類に充塞するを謂ふ。而して豈に唯だ陰陽を道と云ふのみならんや。道也とは、何無の稱なり、通ぜずといふこと無く、由らずといふこと無し。猶ほし虚空の被らざる所無きが如し。○今夫れ人、天地の間に於て、能く道を弘むる者、譬へば人有つて、坎井に墜つるが如し、土石崩覆して、唯だ壅塞悶絶を見るのみ矣。此れ猶ほ三界の中に墜ちて、其の道を知らず、虚生浪死する者なり。然るに墜つと雖も、或は人を墜すが爲にして、入る者有るときは則ち了に。外空を知る。土石穴つ可し、穴つことを力めて出づ。穴一尺に及ぶ、乃し尺空有り、空の入るを見るにあらず、多尺も亦然り。既に坎を出で已れば、無邊の空を見る、減少有るに非ず。復た之を填むに及んで則ち虚空を没す、空の出づるを見るに非ず。此の無邊の空、復た増多な

- ③三本。三本華嚴を指す、上、中の二本は龍樹菩薩が唯識宮にて披見せりといひ、此の土には傳はらざるものなり。
- ④孔子。周易繫辭上傳に、「一陰一陽、之を道と謂ふ、之に繼ぐものは善なり、之を成すものは性なり」と見えたり。
- ⑤道也。老子第一章に、「道の道さすべきは常道にあらず、名の名さすべきは常名にあらず、無名は天地の始め、有名は萬物の母」と見え、第四十章に、「天地の物は有より生じ、有は無より生ず」と見えたり。
- ⑥外空。般若の二十空の一にして、外法即ち色聲香味觸法の空なるをいふなり。
- ⑦四大。地水火風、又は堅濕煖動といふ、地は固體、水は液體、火は熱、風は氣體なり。
- ⑧五蘊。色受行想識なり、色は

らず。當に知るべし、是の土と石と、俱に空の内に有り。而して土石の内、此の土石に及んで、未だ嘗て空無きにあらず、未だ嘗て空に非ざるにあらず。土石を陰陽に譬へ、空を道に喩ふるなり。即ち世間・天地・陰陽・四大・五蘊・諸妄塵勞、是の中に就いて、未だ嘗て道無きにあらず、而して道に非ざるなり。○然るに此の空内清淨本然、皆衆生無始、顛倒狂亂、無明妄想の所變に由つて、一切世界、根身種子を生じて、相續して斷ぜず。乃し佛法世法等の事有り。若し能く妄を破して真に歸すれば、真も亦得可からず、空も亦得可からず、佛法も亦得可からず、況んや其の他の者をや。○是の故に、佛、阿難に謂ふ、「汝無始より心性狂亂するに由つて、知見妄に發す、妄を發して息まざれば、見を勞して塵を發す。目睛を勞する則是狂華有るが如し。湛たる精明に於て、因無うして亂に一切世間、山河大地、生死涅槃を起す、皆即ち狂勞顛倒の華相なり。」○又文殊の曰く、「迷妄虚空に有り、空に依つて世界を立つ。」又曰く、「空、大覺の中に生じて、海の一漚發するが如し。有漏の微塵國、皆空の所生に依る。漚滅すれば空本無し、況んや復た諸の三有をや。」○三有とは即ち三世なり。又佛の曰く、「當に知る可し、虚空汝が心内に生ずることを、猶ほし片雲の太清の裡に點ずるが如し。況んや諸の世

- 肉體、受は感覺、感情、想は知覺、行は意志、識は知識なり。
- ②無明。迷妄の根本をいふ。
- ③根身。六根具足の身をいふ。
- ④種子。第八識に含藏せる一切萬法の原因をいふ。
- ⑤佛法世法。眞諦俗諦といふに同じ。
- ⑥佛阿難。此の文は首楞嚴經卷五の上に見えたり。
- ⑦文殊曰。首楞嚴經の文なり。
- ⑧又佛曰。首楞嚴經卷九の文なり。

界虚空に在らんや。汝等一人、眞を發して元に歸すれば。此の十方の空、皆悉く銷殞す。云何ぞ空中有らゆる所の國土、而も振裂せざらんや。○此に謂ふ所の空とは、即ち衆生の無明妄想なり。世界は即ち四大等の安塵勞なり、猛省して悟れば、諸妄を銷落して、其の眞性妙道に歸するなり。○達磨の直指人心、見性成佛は、人を指して自心の本元眞性を徹見せしむるなり。○然るに其の天下宗師等の、或は所謂虚空を打破し、大海を掀翻するの語の若きは、則ち此の議説に非ず。○儒に言ふ、一陰一陽の道、斯れ乃ち自後、有に形るゝを謂ふ者なり。夫れ有は必ず無に始る、且く今天地萬物、昭々然として皆空中に在り、人々具に見る、是れを有と爲すなり。此れ有は無よりして生ず、此の無の始め、極を原ぬ可からず、之を無極と謂ふ。無極にして太極、太極動いて陽を生ず、動極つて而して靜、靜にして而して陰を生ず。靜極つて復た動ず、一動一靜互に其の根を爲す。陰に分れ陽に分れて兩儀焉に立つ。然る後展轉變化して、皆二氣の交感に由つて萬物を化生す。人畜品類、曾より何ぞ異ならん焉。倘し無始已前に於て、能く目を著くる者は、則ち道を知る矣。當處を離れず、三界を超越す、何の碍有らんや。○世界とは、世は即ち去來今。○界は即ち十方なり。○又老子の曰く、「無名は天地の始め、有名は天地の母。」又曰く、「物有り

六

①謂無極。無極にして太極以下の文は周濂溪の語なり、近くは近思錄卷第一に引用せり。
 ②三界。欲界、色界、無色界をいふ。欲界は飲食財寶、男女睡眠の欲ある世界、色界は欲を離るる雖も尚ほ色身を具す。無色界は色身を離れて只だ心識のみを具す。併し此の三界はいづれも迷界なり。

混成して天地に先つて生ず。」又曰く、「常德試はず、復た無極に歸す。」莊子の曰く、「夫れ道は太極の先に在つて、而して高しと爲す、太極の下に在つて深しとせず。天地に先つて生じて久しと爲す、上古に長じて老いたりと爲す。」冢墓因緣經に曰く、「閻浮界内に振旦國有り、我れ三聖を遣して、中に在つて化導して、人民慈哀、禮儀具足す。」又法行等の經に云く、「光淨菩薩、又月光と云ふ、又儒童と云ふ、彼を孔子と稱す。迦葉菩薩、彼を老子と稱す。月光菩薩、又光淨と云ふ、彼を顔回と稱す。吁、孔顏莊老、豈に常人ならんや。」慧果日を掲げ、戒嚴霜よりも凜たり。辯懸漢を飛し、體崇崗よりも屹し。紫金相好、白玉毫光、食禪悅を稟け、味椒薑に匪ず。宏音至韻、沙界に鶯翔す。「鶯は丘焉の切、飛ふなり。」號を調御と標し、字を覺皇と表す。乾上坤下、衣を爲し裳を作す。易卦は象を取る。乾天は上に在り、故に衣と爲す、坤地は下に在り、故に裳と爲す。此れ聖人、衣裳を垂れて而して天下治る、乾坤の無爲に象れり。○華藏善財、大天神に參ず、神の言く、「我れ菩薩の雲網解脱を得た

③又老子。老子第一章の文なり。
 ④又曰。老子第二十五章の文なり。
 ⑤又曰。老子第二十八章の文なり。
 ⑥莊子曰。莊子の大宗師に見えたる語なり。但し初めの太極を太極に作り、次の太極を六極に作れり。
 ⑦冢墓因緣經及び法行經等は、釋道二教調和者の偽作せるものなり。
 ⑧調御。佛の十號の一にして、一切の衆生を調伏し制御するの意なり。
 ⑨覺皇。眞俗二諦、不一不二中正眞實の妙道を覺悟せる法王の義なり。
 ⑩李長者。名は通玄、唐の太原の人なり、開元七年華嚴合論百卷を造る。日に十棗、柏葉餅一枚を食す、故に世に棗柏

七

り。李長者の云く、「是れ此の界の乾坤なり、其の智依ることなく、思はずとせず。而して恒に萬有に應ず、故に天神と號す。」○又主地神に參ず、神の言く、「我れ菩薩の不可壞・智惠藏・解脫を得たり。」李云く、「此の界の坤神なり、前の乾坤は智圓滿を主る、此の坤神は悲圓滿を主る。大悲を明かにして厚く萬物を載せ、衆生を長養するが故に。」○愚謂らく、一切の悲智、皆佛の衣亂なり、況んや易に象を取るをや、正しく斯れと合ふ。然して常に佛を觀ずべし、衣亂を瞻ること毋れ。

大士と稱す、開元十八年卒す、年九十六。
 乾坤、坤は神の誤か。
 乾坤、乾神の誤か。

眇に國位を視、遠く虞唐に過ぐ。鐵圍犴獄、犴亦犴に作る、並に音岸、野犬なり。又野獄を犴と曰ふ、乃ち惡獸の名、二十八宿の井木之に屬す。犴の物たる、山に登るときは則ち虎豹を食ひ、水に入つては蛟龍を啖ふ。故に阜陶造る所の繫囚の處、此の獸を以て名と爲して犴獄と曰ふ。今の人略して獄と呼ぶなり。造る所の牢獄の門、即ち此の獸、口を張つて人を食ふの狀を作して、其の囚人をして茲の口より入らしめ、此の獸に與へて之を食はしむるが如し。佛、鐵圍地獄の獄を説く、即ち世間犴獄の名なり。

爐炭鑊湯、

但に爐炭鑊湯のみに非ず、略して言はば、八大地獄有り、活と曰ひ、黑と曰ひ、合と曰ひ、叫喚と曰ひ、大叫喚と曰ひ、熱惱と曰ひ、大熱惱と曰ひ、阿毘至と曰ふ。此の八大地獄、各各復た十六の

小地獄有り。黑雲沙と曰ひ、糞屎泥と曰ひ、五又と曰ひ、饑餓と曰ひ、焦渴と曰ひ、膿血と曰ひ、一銅釜と曰ひ、多銅釜と曰ひ、鐵磔と曰ひ、函量と曰ひ、雞と曰ひ、灰河と曰ひ、斫截と曰ひ、劍葉と曰ひ、狐狼と曰ひ、寒氷と曰ふ。○又十次の地獄有り、各十億の小獄有つて、而して眷屬を爲す。又孤獨地獄有り、閻浮提の諸處、或は曠野山間、或は海畔廟中に在り、此れは則ち罪輕き者入る。○法苑に云く、「宋の武當寺の沙門僧規、因に白衣家の請に赴く、痾なうして忽ち死す。二日にして蘇つて云く、

「那の夜の正更に門巷の間、曉曉として聲有り、須臾に五人、炬火を乗り幡を執り、屋に入つて僧規を叱喝す、規迷て、悅然たり。便ち赤繩を以て縛し去る、行いて一山に至るに、都べて草木無し、土色堅黒にして鐵の如し。一城に至る、外に立木の長十丈餘なる有り、上に鐵梁有り、左右に匱に貯ふ土約十餘斛有り。一人有り、衣幘並に赤し。規が在世の罪福を問ふ、惶怖して未だ答へず、彼れ即ち吏をして簿を開いて檢閲せしむ。

法苑。法苑珠林百卷あり、唐の漢世の撰する所なり
 八難。八處の險難なり、一に地獄、二に畜生、三に餓鬼、四に長壽天(四禪天中の無想天なり)、五に北鬱單越(四洲の一なり)、六に首羅天、七に世智辯聰、八に生れて佛前佛後に在る是れなり。この八處は感報同じからずさいへども、佛の出世に遇はず、正法を聞かざるが故に難と稱するなり。

吏長木の下に至つて、一匱の土を取つて鐵梁の上に懸けて、之を稱ぐるに低昂を覺ゆるが如し。吏の曰く、此れ罪福の秤なり、汝福少く罪多し、先づ罰を受くべしと。俄に一人、衣冠の長者有り、曰く、汝は沙門なり、何ぞ佛を念ぜざる、我れ過を悔ゆるを聞かば、八難を度す可しと。規是に

於て一心に稱佛す。衣冠の人、吏に謂つて曰く、更に爲に之を秤る可し、既に佛弟子幸に度脱す可しと。吏復た稱つて、乃し正平を見る。規を將めて監官の前に至つて之を辨ず、官、筆を執り簿を觀ること久し。又一人有り、朱衣玄冠、印綬を佩び、玉版を執り來つて、曰く、簿上未だ此の人の名有らずと。監官愕然として左右に命じて、收め録せしむ。須臾に縛を返して五人に向つて來るを見る。官其の濫に人を取るを以て、乃ち之を鞭つ。少頃あつて使者あり、天帝より道人を喚び來れと稱す。既に至る。帝の曰く、汝は是れ沙門、何ぞ勤業せずして小鬼の爲に横收せらる。汝が命未だ盡きず、今放して、還し生ぜしむ、屢白衣の家に遊ぶこと勿れ、殺鬼、人を取るも亦冤濫多しと。規曰く、横濫の厄、何を以てか能く免れんと。帝の曰く、福を作し善を爲せと。〇知らず、此れを孤獨の獄と爲ん邪、是れ何の處所ぞや。前の所謂八大地獄、及び諸地獄の業報、衆生次第に苦を受くること勝げて言ふ可からず、煩しくして録するに及ばず。然れども皆當人日用の現行、心地に發現するのみ、豈に他有らんや。凡そ有知の者、略宜しく自ら勉む可し。又所謂孤獨の獄は、世人親り見る者も亦甚だ多し矣、枚録するに及ばず。

善惡の報應、禍福の憲章、
佛を既に皇と曰ふ、其れ猶ほ人主の稱のごとし。遂に獄等の條法憲章有り、以て有情を律す。

●玉版。戸籍簿をさすか、又は券をさすか、いづれにも解し得るなり。

茲の華夏に被らしめて、夷羌を隔つること靡し。德黎庶に霑ひ、澤侯王に洽し。菩提の徑を疏り、解脱の場を闢く。圓に三際を裡して、洞かに十方に徹す。幻妄を消除し、眞常を宛轉す。刀鋸害する處と莫く、謗毀愛ぞ傷まん。

左右原に逢ふ、眞常妙道、此の道亂を觀るに、猶ほし虚空の如し。刀鋸利しと雖も、能く損害すること莫し、魔外謗毀、果して何ぞ傷まんや。譬へば調達が種種に佛を謗つて、活きながら地獄に陥るが如し。則ち佛毎に是れ我が眞の善知識なりと稱したまふ。若し提婆達多無くんば、如來諸佛の功德を顯さじ。〇又尼暴志に、木魁を以て腹に繋ぎ、乃ち佛衣を牽いて云く、「汝は我が夫爲り、從つて娘むこと有るを得たり、衣食を給せず」と。天帝鼠と化して、繩を齧んで地に墮つ。〇又旃遮婆羅門の女、木杆を以て腹に繋いで云く、「瞿曇、我れをして妊身せしむるに由り、應當に我が與に飲食すべし。悉く皆自ら惡報を受く、佛に於て何ぞ傷まん。」〇又昔、羅漢有り、離越と名く、山中に坐禪す。一人牛を失して覺めて其の所に至る。時に因つて草を煮て衣を染む。衣牛の皮に變ず、染むる草肉と化し、染むる汁血に成り、鉢盂即ち牛頭と爲る。生きながら收めて獄に付す。十二年を経て弟子、羅漢を得る者五百人、師を覓むるに處無し。業緣盡さんと欲して、乃ち獄に在ることを知る。王に告して乞ひ理る。王の

●木魁。木塊に同じく、木の節のかたまりをいふ。
●木杆。木のたらしをいふ。
●羅漢。無學を譯す、聲聞の第四果なり。三界を解脱して一切の境に於て神通無礙なるものなり。

言く、「僧有らば當に悉く之を免す可し。」離越聞き已つて、身を虚空に踊し、十八變を作す。王即ち禮して曰く、「何に因つてか苦を受く。」答へて曰く、「我れ昔曾て人を誣ふること一日一夜、後三塗に墮して、無量の苦を受く、餘殃未だ盡きず、今誘業を受く。是れ諸の衆生、慎んで人を誘ふこと勿れ。」○又且つ叔孫・武叔の仲尼を毀るが如きは、子貢が曰く、「仲尼は猶ほ日月の如し、得て踰ゆること無し。人自ら絶たんと欲すと雖も、其れ何ぞ日月を傷まんや。」○又公伯寮、子路を季孫子に懇ふ。孔子曰く、「道の將に行はれんとするも、也た命なり、道の將に廢れんとするも、也た命なり。公伯寮、其れ命を如何せん」と。○又宋の桓魋、孔子を害せんと欲す、孔子の稱く、「天、徳を予に生せり」と。○魯の臧君、高を孟子に毀る、孟子の曰く、「臧氏の子、焉ぞ能く予をして遇はざらしめん哉。」○又貉稽が曰く、「稽大いに口を理めず。」孟子の曰く、「傷ること勿れ、士は茲の多口を憎む。」詩に云ふ、「憂ふる心悄悄たり、群小に慍らるるとは孔子なり、肆に厥の慍を殄たさるも、亦厥の問を殄さざるは文王なり。」○此れ乃ち貉稽、衆口の訕謗を被つて、柰ともすること無くして言ふ。孟子の曰く、「己が徳に於て傷ること無きなり。」凡そ士人は益訕り多し、乃し詩の柏舟の篇を以て、之に喩へて曰く、「小人の聚を怨んで、賢者を議するに非ず。孔子此の詩を論ず、孔子も亦武叔が口有り、故に孔子の若かする所なり。」蘇の篇に曰く、「肆に厥の慍を殄たさず。殄は絶つ、慍

③三塗、三途に同じ。一には火途即ち地獄道なり、二には刀途即ち餓鬼道なり、三には血途即ち畜生道なり。

は怒なり、亦厥の問を殄さずと、殄は失なり。言ふところは文王、吠夷の慍怒を殄絶せず、亦文王の善聲の問を殄失すること能はずとなり。問と聞と同じく去聲、名達を聞と曰ふ。○又白樂天が曰く、「沙を含んで人の影を射る、病むと雖も人知らず。巧言は人の罪を構ふ、死に至るまで人疑はず。陰徳既に必ず報ゆ、陰禍豈に虚しく施さんや。人事罔ふ可しと雖も、天道終に欺き難し。明には則ち刑辟有り、幽には則ち神祇有り。苟も免れて私喜すること勿れ、鬼得て之を誅せん。」

④白樂天。名は居易、唐の太原の人なり、香山居士と號す、禪を佛光如滿に嗣ぐ。文集七十五卷あり。

猥賤庸鄙、傑特豪良、歸依信向して、永く懷ふて忘れず。貴賤皆歸向して忘れず、又信は道源功德の母爲り、良鄙異なること有りと雖も、輒ち能く信入して、永く妄失すること無れ。麤と細とに非ず、豈に短と長とならんや。排幹排は歩皆の切、推なり、擠なり、幹は烏括の切、旋なり、轉なり、運なり、擠排幹旋の義なり。謂ふこゝろは縦ひ能く天を排し地を幹すとも、以て此の道を推し覺む可からずとなり。止遏、念起せしめざるなり。臨濟の曰く、「念漏を把握して、放起せしめざるは、是れ外道の法なり。」寂黙

默照邪禪なり。

商量、

意識の搏議なり。

悉く贏れたる角の藩に觸るる羝羊の若し。

悉く解脱の分無し。

不なる哉碩師、廓然無聖、一綱首擧がれば、萬羅目正し。

大なる哉碩徳の師。○廓然無聖の綱、首初め一たび擧がるときは、則ち

此の宏大の宗教、萬萬の羅網、眼眼俱に正し。羅は又羅列なり、目は又

名目題目なり、節目條目なり。

情意を謝遣し、瞻聽を疎動す。故を以て吾が徒、厥の餘慶を受く。偏局嫌

疑、孰か敢て争ひ競はん。

傳燈録に曰く、一光統律師流支三藏は、乃し僧中の鸞鳳なり、師の演道

を觀るに、相を斥けて心を指す。師と論議して、是非鋒のごとくに起る。

法雨を施す。而して偏局の量、自ら堪任せず。

臂を斷つて誠を據べ、雪に立つて敬を披く。志安心を乞ひ、願壽命を承く。能く効勤を忍ぶ、暗

●廓然無聖。絶河第一義諦の當體をいふなり、達磨大師が梁の武帝の問に答へられたる語なり。

●傳燈録。景德傳燈録を指すなり、三十卷あり、宋の道原の著なり、此の事は達磨の本傳に見えたり。

●斷臂立雪安心。第二祖慧可大師の故事なり。

か楚み誰か清からん。

攄は抽居の切、清は七正の切。立雪斷臂、能く忍び難きを忍ぶ。而も効勤の勞、孰か楚痛寒清有らんや。

花敷いて乍ち繁く、果結んで終に盛んなり。寶絲網珠、輝を交へ映を疊ぬ。

果を以て網珠の如しと喩ふ、即ち達磨を謂ふ。子子孫孫、大地に遍滿して、各各光

煒燁、映奪して盡くること無し。網珠は華嚴の疏に云く、帝釋殿の網、天珠を貫いて成す、一の大珠を以て心に當て、次に其の次の大珠を以て貫穿匪繞す。是の如く展轉遞繞して、百千匝を經。

若し上下四面四角より之を望むに、皆行位相當す。一の明珠の内に百像俱に現す、珠珠皆爾り。此

の珠明徹、互相影現す、影復た影を現して窮盡無し。一燁音は葉、行音は航。

南北宗傳へ、東西旨定る、微詰して隠れたるを索め、卷舒行令、塵劫の事を印し、彈指に於て竟る、

軌を異にして職を攝め、門を殊にして政を專にす。聲牙の語話、鏗鏘の吟詠あり。

聲は牛交の切、語不入なり、言辭平易ならざる貌。韓文に詰屈聲牙と。

鏗は丘耕の切、鏘は千羊の切、又楚耕の切、金玉の聲なり。宗師各門

庭を立て、共に玄猷を闡く。垂機接物、猶ほ職と政とのごとし、猶ほ金

鏡を握つて以て道を明し、木鐸を宣して以て化を掲ぐるがごとし、其

●華嚴。華嚴經疏六十卷あり、唐の澄觀の撰なり。

●南北宗傳。五祖弘忍大師下の六祖慧能の系統を南宗といひ、神秀の系統を北宗といふ。

の授一なり。劉孝標の廣絶交論に、「聖人金鏡を握り風烈を聞くと注に「明道に喩ふるなり」と。雜書に「秦、金鏡を失す」と。

今に融り昔に亘り、尊を感じ卑を服す。牛鬼訶護し、

牛鬼蛇神、訶禁擁護す。

龍象追隨す。崢嶸たる庠序、

午鬼雄彊の勢、穉は尼耕の切。

都雅たる威儀、

龍象雍容の状。

啾鳴返躑す。獅子鳳兒、^①五家派を列ね、四海枝を分つ。千古の勝範、^②

百丈の洪規、叢林の禮樂、膠漆^③附離、世代升降、損益盈虧す。

法道と禮樂と關繫附麗なり。唐より今に抵つて五百歳に餘る、時代風俗

人情の同じからざる、而して沿革損益之れに隨ふ。論語に謂はゆる、「三代の禮、相因つて損益す。豈に斯れに異ならんや」と。莊子に、「附離膠漆

を以てせず」と。

訓導孔だ勵しくとも、吝參疾ること勿し、陵谷改め換り、節物遷り移る。

亟かに宜しく超越すべし、其れ背て羈縻せられんや。利名岐路、塵落畿京、

智愚清濁は、河洛渭涇のごとし。得失憂喜、寵辱震ひ驚く。

此の^④滅劫に當つて、高陵深谷、遷變常ならず、節物人壽、其の速なる

こと猶ほ甚だし、是れ宜しく急に出席を求むべし。若し夫れ利路名岐

に越らんと欲せば、則ち彼の市廛聚落京畿の地、是れ其の所なり。然し

て彼に越る者も、亦智にして清く、愚にして濁るもの有り。即ち猶ほ彼

の^⑤涇渭清濁のごとき者なり。然れども水固に無情にして、亦改遷の免

れざる有り、況んや人に於てをや。且つ名利の中に於て、得失寵辱、雷

霆の震驚の如し、勝つて言ふ可けんや。今幸に叢林の下に居て、宜しく

如何とすべきのみ。^⑥杜荀鶴、僧に贈る詩に曰く、「利門名路兩ながら何

ぞ憑まん。百歳の風前短燭の燈、只だ恐らくは僧と爲つて心了ぜざらん

ことを、僧と爲つて心了ずとも地に僧に輸けん。」

伊の屋舎を翫めて、

父母所生の體是れなり。翫は俗に初に作る、通じて創に作る、始めて造

るなり。孟子に、「業を創め統を垂る」と。説文に、「法を造り業を翫む」と。

國譯宗門千字文

①木鐸。金日木舌、政教を施す

とき振つて以て衆を警しむる

ものなり。論語八佾第三に、

「天將に夫子を以て木鐸とな

さんとす」と見えたり。政教

を行ふ意に用ふるなり。

②劉孝標。名は峻、南北朝の平

原の人なり、博學明慧、人に

過ぐ、梁の武帝に見えて畏敬

せらる。東陽の紫巖山に居り、

卒して元靜先生と諡す。廣紀

交論は任昉の子の爲に著す所

なり。その他類苑、辨命論、山

棲志、世説新語註等の著あり。

③五家。臨濟、曹洞、沩仰、雲門、

法眼の五宗をいふ。

④百丈。百丈懷海禪師、始めて

禪林の規矩を立て、禪院を創

め、禪宗獨立の起原を開かれ

たるをいふなり。

⑤附離。離も附著の意なり、膠

漆附離の語は共に莊子の外駢

駢拇に見ゆ。

⑥滅劫。四種の劫の中第二の住

劫に十九の人の壽の増減あり、

初の一劫には人壽無量歳より

百年に一年を減じて十歳に至

り、次の十八劫には各十歳よ

り八萬歳に至る増減あり、最

後の第二十劫には唯だ増じて

減なく、十歳より八萬歳に至

るなり。

⑦涇渭。河は黄河、洛は河南に

ある黄河の支流、渭は陝西省

にある黄河の一流流なり。涇

水は陝西平涼府靈原縣の筭頭

山の東南より出で、西安府高

陵郡に至つて渭に入る。涇水

は濁り、渭水は清めり、合流

三百里、清濁雜らずといふ。